

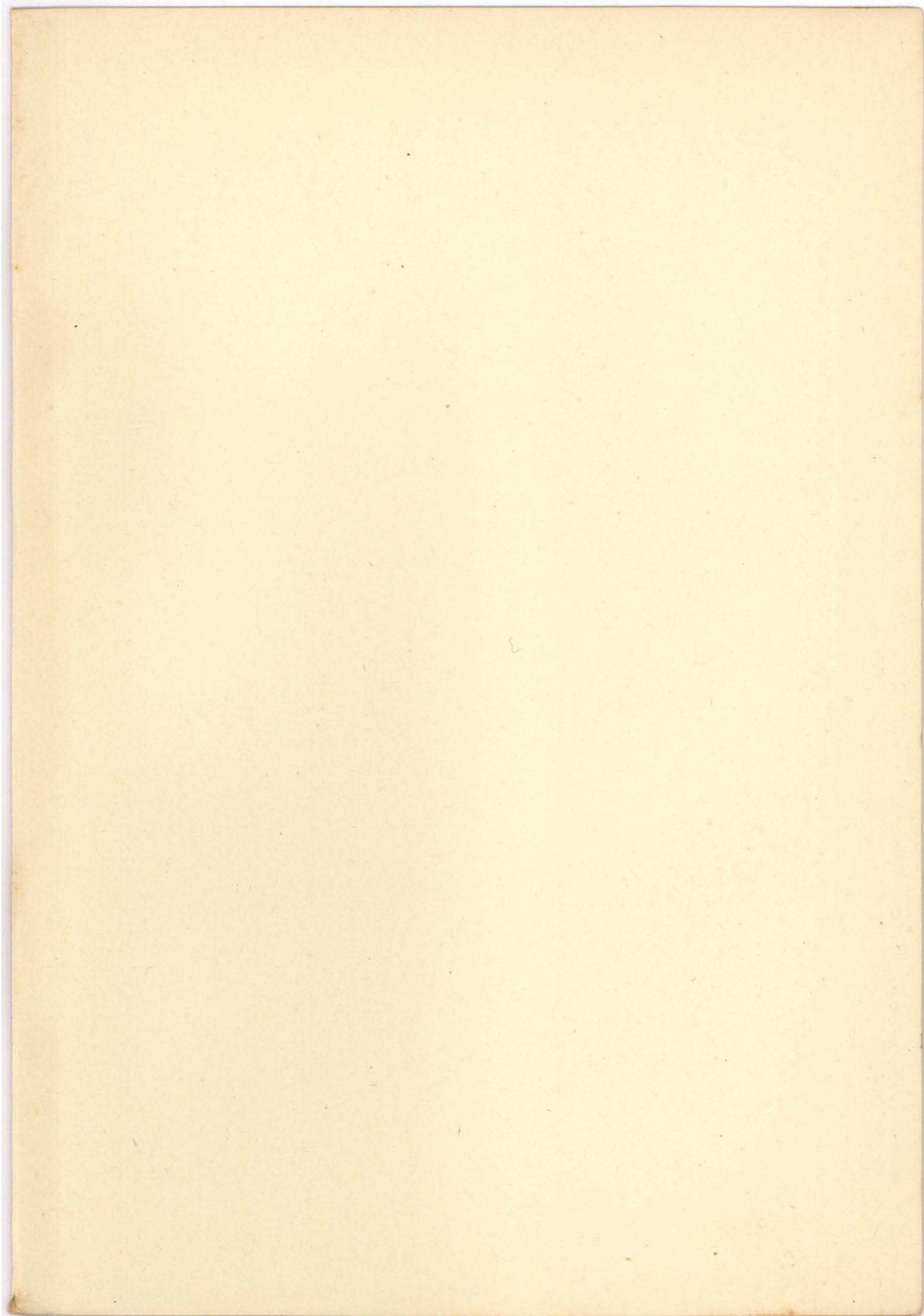
# 林刃

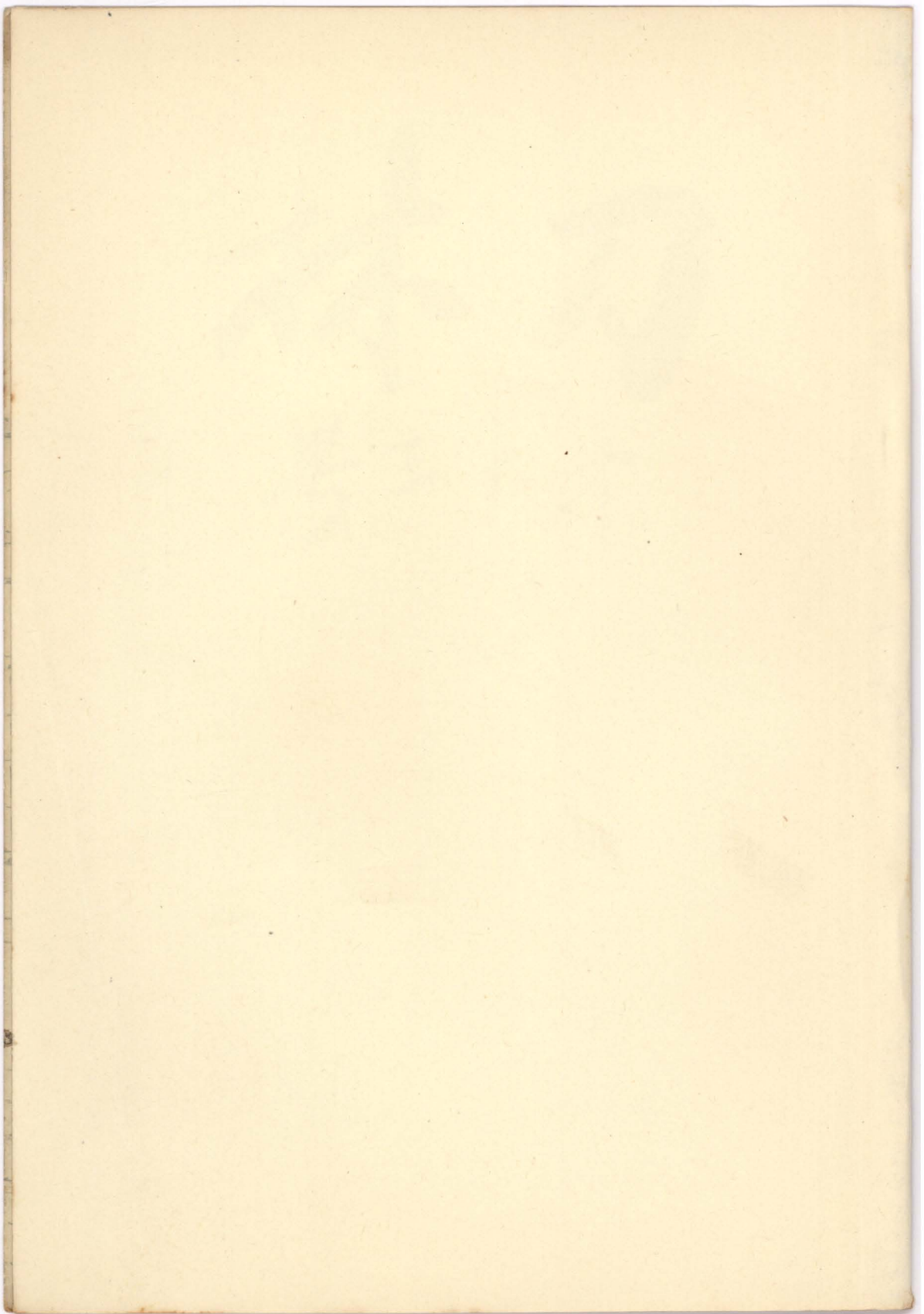
号三十第

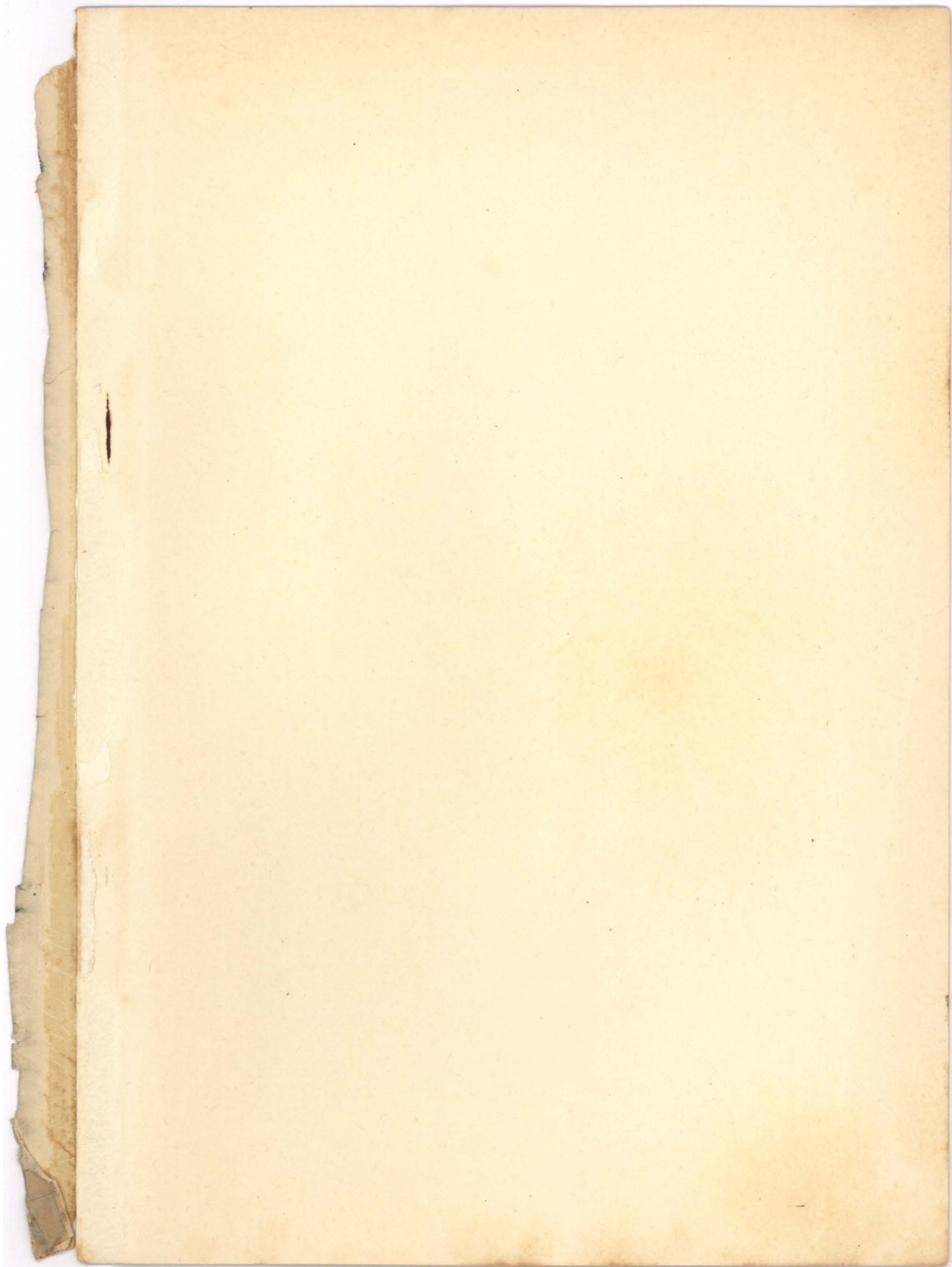


常直  
別本  
世島  
本村  
高橋

高内寺  
アッへ来れ  
藤尾先生  
カシノ







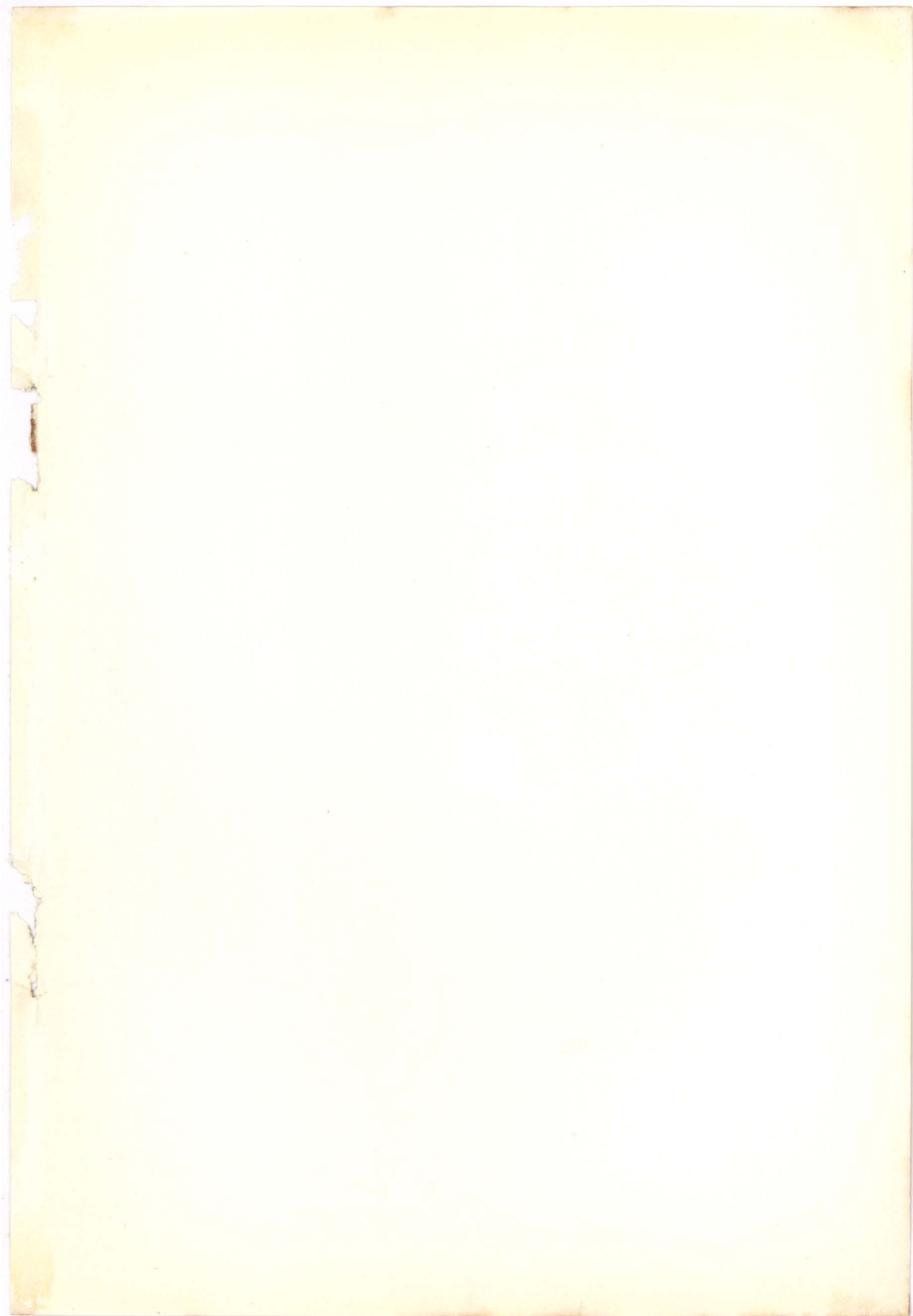




前田和<sub>三</sub>郎  
為<sub>手</sub>書<sub>之</sub>也  
牛<sub>者</sub>也

林 刀

號 三 十 第







# 刀 林 第十三號 目 次

表紙題字木村先生  
扉  
三先生寫眞  
論文通過

昇 格  
結 婚  
新 入 局  
歸 局

應召及入營  
赴 任  
謹 悼  
賀 正

## 戰地よりの便り

## 同 窓 會

海津釣り.....大 會 根 生 二五  
 高原の日記.....伊 藤 國 男 三  
 手術料の話.....甲 府 住 人 四  
 猪まで.....良 能 流 巢 晚 四  
 檢診小話.....木 本 多 喜 雄 四  
 錦州に到着するまで.....辻 岡 浩 吾

## 通 信 欄

## 同 窓 會 記 事

昭和十三年度同窓會會計報告

## 學 術 欄

日本醫科器械學會總會..... 充  
 日本結核豫防協會講習會講演..... 充  
 第三九回日本外科學會總會..... 充  
 第十三回日本整形外科學會總會..... 充  
 慶應醫學會第十九回總會..... 充

外科集談會..... 充  
 整形外科集談會..... 充  
 抄讀會..... 充  
 外科教室より出たる文献..... 充  
 整形外科教室より出たる文献..... 充

醫局近況

外科より……………  
 整形外科から……………  
 同仁會(中支派遣)第二診療救護班……………

文藝欄

善通寺便り……………	岩原寅猪……………	學會行……………	治……………
同仁會中支派遣……………	小平正……………	足利晚秋……………	治……………
第二診療班便り……………	瀨尾睿三……………	お留守番……………	治……………
再び同仁會中支派遣……………	森田正朗……………	故崎崎軍醫大尉の遺骨……………	治……………
第二診療班に歸りて……………	山口恒造……………	を東京驛に迎へて……………	治……………
岩手縣遠山醫院臨……………	伊香保歡迎旅行記……………	古いのどより……………	丘……………
出張通知……………	快談コント……………	土肥温泉雜景……………	相見葉……………
萩尾君を憶ふ……………	軍醫豫備員習志野陸……………	醫局川柳……………	刀林編輯部選……………
茂木先生御招待國技……………	軍病院入隊記……………	國を異にすれば……………	刀林編輯部選……………
館大相撲觀戰記……………	學會餘聞……………	たはごと……………	轉……………
伊香保歡迎旅行記……………	三四會醫局リレー外……………	外來病棟阿呆陀羅經……………	刀林寺和尚……………
快談コント……………	科優勝す……………	刀林噓俱樂部……………	ウソ俱樂部會員……………
軍醫豫備員習志野陸……………	同窓會々員名簿……………	フレッツシユメン……………	……………
軍病院入隊記……………	編輯後記……………	プロフキル……………	……………
學會餘聞……………	……………	富士救護日誌抄……………	……………
三四會醫局リレー外……………	……………	當直日記より……………	……………
科優勝す……………	……………	……………	……………

編輯後記





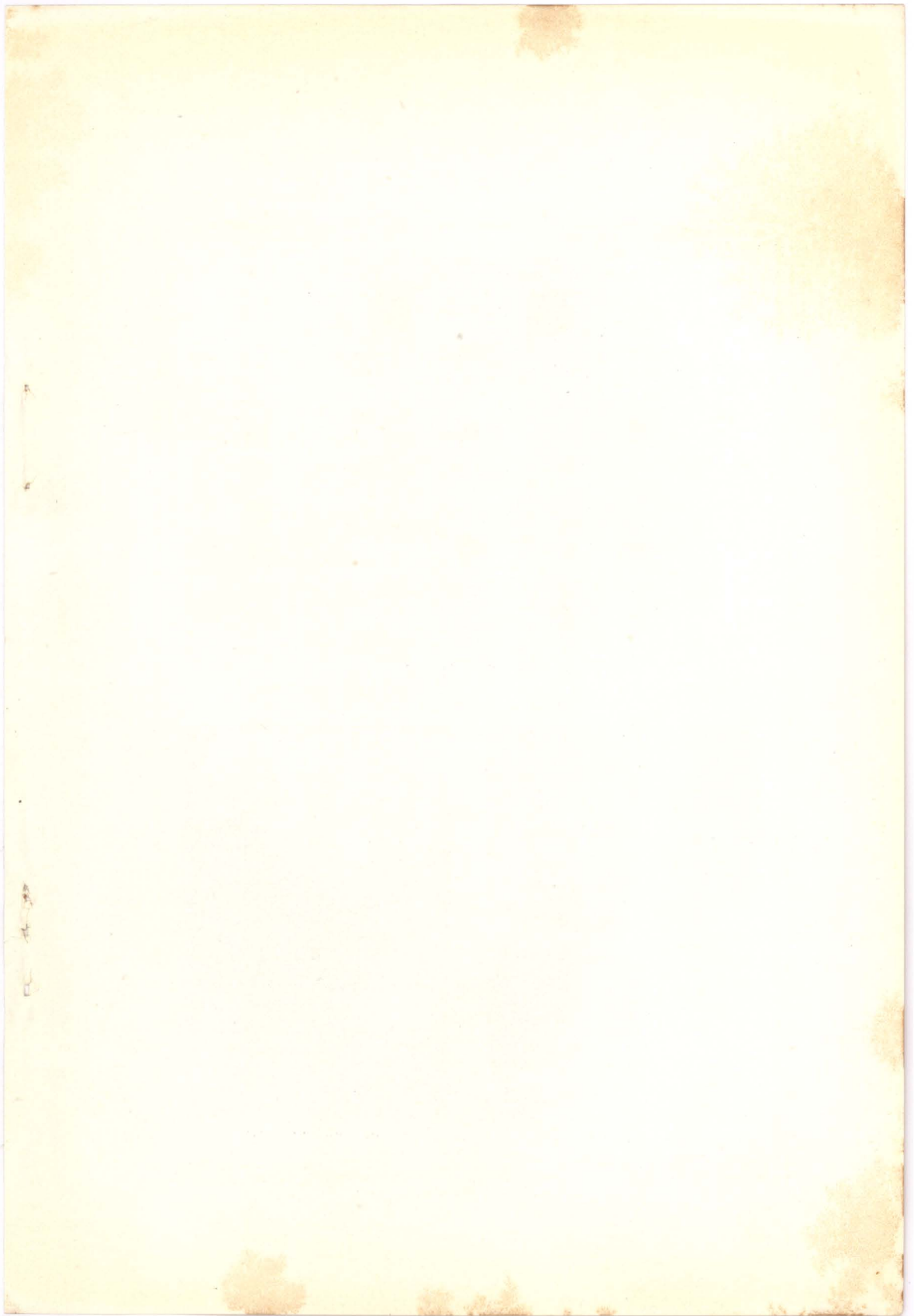
生 先 木 茂



生 先 田 前



生 先 村 木



# 祝 賀

## 論文通過

渡邊 治生君

昭和十三年十月

小方則太郎君

同 十一月

大内 正夫君

同 右

## 昇 格

整形外科講師 伊藤 原君

昭和十三年一月

外科講師 武藤藤太郎君

同 九月

## 結 婚

富田 勝郎君

昭和十三年六月

# 歡 迎

## 新 入 局

茂木英一君	昭和十三年三月	(十二回生)	(解剖ヨリ)		
根本一郎君	同	(十三回生)	(解剖ヨリ)		
萩村恒雄君	同	四月(十六回生)	外科		
堀越恒君	同		整形		
細川忠君	同		外科		
星野正雄君	同		整形		
道躰祐二郎君	同		外科		
川上弘君	同				
依田亘正君	同				
津留慶之君	同				
井上太郎君	昭和十二年十二月	(寄生蟲ヨリ)			
木村知孝君	昭和十三年六月	(金澤ヨリ)			
古山實君	同	六月(小樽病院ヨリ)	整形(後生理)		
八木勝郎君	同	七月(衛生ヨリ)			
吉野史朗君	同	十一月(生理ヨリ)	整形( )		
内野一男君	昭和十三年四月	(十六回生)	外科		
日下部明夫君	同				
松浦元君	同				
松本源一君	同		整形		
澤浦正三郎君	同		外科		
傳田俊男君	同				
足助又次君	同				
高橋哲二君	同	九月(十三回生)	解剖ヨリ整形		
中井慎一君	同	十一月(滿大ヨリ)	整形		

## 歸 局



# 賀 祝

入

應

依傳川道星松萩  
 田田 躰野本村  
 上 祐  
 亘俊 二 正源恒  
 正男弘郎雄一雄  
 君君君君君君

營

奧橋合中小小松  
 山本原 村田林丸  
 俊文義  
 夫吾泰寬滿忠忍  
 君君君君君君

召

同 同 同 同 同 同 昭  
 和  
 十  
 三  
 年  
 五  
 月  
 十二  
 月

同 同 同 同 同 昭  
 和  
 十  
 三  
 年  
 七  
 月  
 十  
 一  
 月  
 十  
 月  
 四  
 月

# 送 別

赴任

許久足細茂關渡菊山辻今岩稻奧小井郭吉  
 助 木口邊池田 崎葉山坂上 岡  
 崎 川 英政治龍庸 一玉俊慶太 勝  
 添 又

旺章次忠一三生介夫浩光平六夫一郎禧衛  
 君君君君君君君君君君君君君君君君  
 同同同同同同同同同同同同同同同同

昭和十三年二月

十二月

十一月

八月

七月

六月

四月

同及ヒ名古屋好生館病院  
 黒澤尻濟生會病院

愛知縣厚生病院  
 但シ從來通リ外科講師トシテ在任

中島飛行機病院  
 陸軍造兵廠

中島飛行機病院  
 滿鐵錦州醫院

新湯自宅へ  
 福岡三井鑛山

海軍々醫  
 中島飛行機病院

小樽病院  
 高崎綿貫病院

釜山ニテ開業  
 中島飛行機病院

# 謹 悼

## 會 員 家 族

萩尾	片柳	高木	森	長坂謙三君	大槻正路君	同君	加藤銀治郎君
又八君	常作君	宗吉君	信彦君	嚴父	嚴父	母堂	嚴父
昭和十二年十二月	昭和十三年八月	同	同	昭和十三年一月	同	同	同
		九月	九月	二月	九月	三月	六月
							七月

布留文夫君 母堂

堀越恒君 母堂

同君 母堂

同君 母堂

同君 母堂

同君 母堂

同君 母堂

同君 母堂

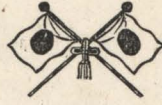
同君 母堂

同君 母堂

同君 母堂

同君 母堂

同君 母堂



# 賀 正

時局に即し同窓會々員交互の年始  
御挨拶は乍略儀小誌上を藉り申述  
べ併せて應召會員諸兄の武運長久  
を祈上候

昭和十四年元旦

外科 整形外科 同窓會



軍事郵便

## 戦地よりの便り

(到着順)

中野宗夫

茂木先生を始めとして醫局皆々様の御健康を遙に御祝ひ申し上げます。去月三十日〇〇進發、本月七日〇〇着病院開設診療中の處、昨日前進命令を受け、午後七時〇〇着、〇〇醫院に於て勤務致して居ります。第一線までの距離は約〇里、當醫院は立派な綜合病院であります。

〇〇に着く前夜より腹痛下痢を起し、猶勤務中卒倒し、一時入室療養の止むなき状態となりましたが以御蔭經過良好にて十三日より診療に従事して居ります。

〇〇に於ける治療患者數約二百名、戰禍傷病者の慘は全く筆舌の外であります。病院に護送せられて參ります戦傷者の心情苦惱を思ひます時我身の多少の不健康などは問題にならないと存じます、幸ひ本日より常食を攝つて居りますから何卒御安心下さい。

祖國の皆様方の御力強い御加持、御後援を獨り心から感謝致し宗夫は治療にベストを盡して居ります。

御無沙汰御伺ひ旁々右まで。

門 橋 勇

其の後御無沙汰にのみ打ち過ぎ誠に失禮致しました、茂木先生を始め皆々様益々御健勝のことゝ推察致します。小生〇〇上陸に至る途中敵襲を受け、交戦四時間に及びましたがトラック〇〇〇臺に及ぶ大部隊の輸送でありましたので、吾々は遠方に銃聲を聞くのみで弾丸の洗禮を受けませんでした、併し一寸緊張しました。

部隊に到着後憩ふ暇も無く早速勤務に従事致しました。小生到着後既に收容患者〇〇〇名に及びました。そして「ラバ」も一名やりました。臍部に腸が兩手拳大に脱出してほこりまみれになっておりました、開腹してみましたら横行結腸に二ヶ所穿孔しておりました、幸ひ経過良好です。

當地は日中は眞夏の暑さですが夜明けは幾分冷へます、黄塵は全く萬丈です、民家は四方土塀にて小窓一ヶと小入口一個しか無く、とても暗く日中入り初めは室内の見當がつきません。

水は濁つて臭氣を帯び、とても飲む氣が致しません、甕風呂呂に入りましたが石鹼が使用出来ません

治療用にリゾールを溶かしますが凝集して白く濁つて來ます、効果は疑問ですが兎に角それでやつて  
ゐます。

飲食物はとても不味ですが幾分慣れて參りました、只今一番欲しいと思ふのは内地の谷間に湧き出  
る冷い清水と、果物野菜類等です、病院と申ししましたがその名の如く全く野戰的で、とても内地では  
想像も及びません、ワンダフルの一語に盡きます。

戰況や病院の様子を詳しく申し上げ度いのですが、その筋の命もあり割愛しておきます。兎に角一  
生懸命働いて御奉公申し上げる覺悟でおります、體の調子は上々です。

先は安着御報旁々かくまで。

大 木 猪 四 郎

先生には愈々御健勝の段奉賀候。小生も亦御蔭を以て相變らず頑健にて零下十數度の氣候にもめげ  
ず、明朗化しつゝある河北省南端に新春を迎へ申候。

東方遙故國の皆々様の御健康を祈上候。

小 口 宇 一

御無沙汰申上げました、九月十二日〇〇出發、〇〇兵團に配屬され〇〇線を南下し〇〇省に足跡を

印するまで常に第一線と共に行動致しましたが、お蔭様にて微傷だに負はず至つて元氣で居ります。教室からも澤山出征の事と思ひますが、僅かに眼科の北原及び横道君に面會した丈けです。これからまた一戦争で一ヶ月はかゝると思ひます。勇敢な我が將兵の爲出來る丈の奉仕を致し早く國民を安心させたいのです。

照井侃



し居る關係上著しく減少仕り候。

今次戦闘の如く最短距離に於て對陣しある關係上第一線衛生部員の苦闘は實に想像以上にして、事實衛生部員の犠牲者も今回の如く多數なるも亦前例なきことと存せられ候。第一線に雨霰と飛來る彈丸とクリークの渡渉に奮闘せらるる戦闘部隊將兵の辛苦も去る事ながら一望千里の廣野に敵銃眼に身を曝露しつゝ傷者の收容、治療に従事せらるる前線衛生部員の辛苦の程涙なきを得ざる事に御座候。

此の度の戦闘は主として塹壕戦が多く其の關係上創傷の汚染は想像以上にして大半は腐敗性壞疽性炎を合併致し居り、瓦斯壞疽の如きも相當多數に認められ、創傷感染中破傷風も比較的多く且つ大部分は豫後不良に御座り、最近は前線にて豫防注射の徹底致



之を想ふ時は後方にて勤務する者の如きは時たま爆彈の洗禮を受く事ありとは雖も物の數にも御座なく候。

乍末筆皆様御自愛の上一層御精勵下さる様御願申上候。

辻 岡 元

先生には益々御壯健の由大慶の至りに御座候。

此度は醫局同窓會より種々御配慮に預り、且本日は先生の御直筆を賜り記念品として此上なく御厚意の程厚く御禮申上候。小生〇月〇〇日擔架第三中隊長として戰鬥に参加、〇〇クリーク渡河戰、〇〇〇攻略戰、目下〇〇〇西端に位置し前線準備中に有之候。將來益々複雑化する戰鬥を豫想せられ候間御通信の機會少きと考へられ候。先生には益々御自愛の程征地より祈上候。

小 野 田 肇

時下益々御清適の段奉上賀候。陳者其後は公私共に多大の御聲援を辱うし有難く厚く御禮申上候。

小生應召以來受持區域、應召軍醫官中一番多く、現在海軍病院の方は戰傷者の治療以外、海軍工廠軍人職工、建築部職工の外傷等、其他整形外科關係の全部、理學的方面全部、更に港務部軍醫長を兼

務致し居候爲め連日席の暖まる暇もなき有様に御座候。

然し皇軍將兵が戦線にあり活動せる状況を見るに及びては假令現在の何倍の仕事が與へられ様とも出来得る限り至誠以て御奉公致し銃後の皆々様の熱誠なる御聲援に答へ度き覺悟に御座候。

尙本年は殊の他氣候不順の折柄、茂木先生始め醫局御一同様の御自愛の程御願ひ申上候。



松 浦 勇 四 郎

先日、北支へ出動中に同窓會より發送して下さった慰問の品が北支をめぐりめぐつて當〇〇にとゞき、嬉しく入手致しました。早速茂木先生の「報國活人劍」は官舎の私室にかざり朝夕眺めて居ります。機會あらば表装し度く思つてゐますが、滿洲ではハルビンか、新京邊り迄行かねば出来ません。同窓會誌も面白く拜見しました。同窓會員諸兄も多數應召せられて各地に活躍せられて居る様子を知り力強く思ひます。私なぞはその任務が異なるために、在滿部隊の應急派兵について編成せられた〇附となつて出動したので、〇〇の作戦一段落と共にあわたとゞしく引き上げ解散して當〇〇地帯に來たわけで、昨年八月十日、軍からの電報一本でとび出したので、何等戦地へ行く様な気分はせず、十一月末に滿洲へかへつた時も、凱旋祝ひをしてくれましたが、こちらに居るとその様な気分になれません。最も常に戦時體勢にあるわけですから。

〇〇四ヶ月間の〇勤務は晝夜の別なく、飯も食ふひまなしと云ふ猛烈な勤務でしたが、その張り切り方は大したものでした。一人で四〇〇名からの戦傷兵を、さばいて診療、手術、後送、治癒、退院と決めてゆくのですから、今考へて見てもよくもやれたと思つてゐます。尊い経験でした。

四ヶ月間に私共の〇で收療後送、引継ぎした患者は一、五二二名ありました。在満部隊の作戦行動の神速さは内地よりの動員部隊の比ではありませんから、我々も亦その追及に實に苦心したものでした。現在當地に待機してゐると、あんまり呑氣すぎてポーツとし勝ちです。當地の病院は二等乙、私は内科と傳染の室附軍醫をやり、病理細菌迄かきまわしてその上、當地憲兵隊、經理部派出所の兼勤醫官もやり、「それではたまるまい」と思ふでせうが、要領はもう一年にもなるんですから心得たものです。時には地方人の妊婦やら、助産、帝王切開(たつた一度)花柳病の治療迄やるんですから大したものです。

當地もとにかく山の中ではあり、デリケートな〇〇を目前にして待機してゐるので、一般の空氣は殺伐です。戦地の生活は、實にあさましい様に酒浸りの生活です。北満もソロ／＼暖かくなり、解氷期も近づきつゝあります。間もなくアムール河も流れ出すこととせう。野も山も、青々とした草や木で一ぱいになり、めづらしい花がさき亂れる頃となるのも間近に迫りました。醫局員諸兄も又、新に入局員を迎へますね。此れからは北満でもピールの天下です。私共は今皆滿洲の土になる覺悟でやつ

て居ります。或は醫局の皆様とも再會できぬかも知れません。

幸に元氣旺盛ですが、ムギめしばかり食つてゐるので少々やせました。茂木先生、木村先生、前田先田初め皆様の御健勝を祈る。

佐 藤 壽 郎

遙かに陣中より皆様の御健康を御祝ひ申し上げます。

永々御無沙汰いたしました、醫局の諸先生には益々御壯健に御奮闘のことゝ存じます、事變の擴大につれ、次ぎ／＼と醫局員が應召され醫局員も大分少くなつて御忙しいことせう。

小生出征以來早一ヶ年以上を經過致しました、其の間○○、○○、○○、○○を經て只今○○に居ります、御蔭様で益々元氣でやつて居りますから他事ながら御休心下さい。

小生は病院付ですから、隊付の軍醫で慶應出身の方に時々面會出來ました。

過日は當○○に於て、整形の大内君、渡邊(重)君に逢つて其の後の病院の事など聞かせて頂きました、大内君は今度○○の方に前進されました。

小生等の部隊は今度「○○部隊」に編成替へとなり近く、○○に向ふ筈です。

内地では夏以來の風雨で被害が相當ひどかつたそうですね、當地も相當降雨があつて水が出たこと

は新聞紙上にて御承知の事と存じます。

近日迄は暑さも厳しく百三十度を超すことも屢々でしたが、此の頃大分凌ぎよくなりました。  
漢口攻略も間近に迫つて参りました。

やがて歸局出來ました曉には倍舊の御指導、御教示を御願ひいたして置きます。

諸先生には御身御大切に御奮闘あらんことを祈つて居ります。

志 田 元 秀

刀林臨時號有難く拜受しました。醫局の皆様も益々御元氣の事と存じます。先日赤倉一郎君が尋ねて來られ醫局の話に暫くの間の時の經つのを忘れました。

もう一年以上になります。が戦傷患者の一通りは見た様に思はれます。七月初めより八月初めにかけて小生は非常な困難に遭遇した爲に一時は志田少尉の重傷或は戦死といふデマが飛んだ由で啞然とした有様です。

然し小生は元氣です。別に慾もありませんが只風呂に這入つて大きなアクビをして見たいと思ひます。

小澤武雄

刀林臨時號嬉しく拜見致しました。御蔭様で出征以來早や一ヶ年、其の間益々元氣で健闘を續けて居ますから何卒御安心下さいませ。遙に故國の皆々様の御身體御自愛の程御祈り申し上げます。

稻葉玉六

出動以來早くも二ヶ月を経ました、〇〇は全く廢墟と化し昔日のおもかげなく激戦の跡、凄慘な空爆の跡がまご／＼と思はれる状況です、宿舎附近相當前戦とは離れては居りますが毎日砲彈が飛んで來ます。

それに支那空軍も殘機を擧げて我が飛行基地を目當てに空襲をして來ます、限つて夜間月明を利用して最近數日は毎晩やつて參りましたが我が防禦砲火の反撃により目的を達せず歸つてしまひます、我が空軍は連日に亘り陸戦協力及び後方連絡遮斷等壯烈なる爆撃を續けてゐます。

軍醫の任も極めて重く此の期に日頃御教授に預りました數々を實地に活かして御奉公致し御期待に副ひ奉らん事を念じ勤務を勵んでゐます。

御無沙汰のみ致して申譯も御座いません。

茂木教授初め醫局各位、御變りも御座いませんでせうか。

後から〜と應召される方も多い様に拜承致しました。御留守を守られる諸先生方さぞ御多忙の事と存じますが、邦家の爲慶應醫學の爲折角御奮闘の程祈上ます。

小生今月初めより漸く〇〇方面に出して貰ひ、初めは〇〇中心に半月程退屈な警備任務に就いて居りました、〇〇でも數回上陸致し偶然（七日内科出身の）小山兄に會ひ久闊を敍しました瀬尾兄を班長とする同仁會中支班は南に居り會へなかつたのは残念の事でした。

本日附を以て當隊は〇〇江上流〇〇方面部隊に編成替へせられ只今滔々たる濁流を切つて遡江中です。兩岸隨處に見る砲臺、トーチカ等堅固を誇つた敵陣の見るも痛快に破壊されてあるを尻目に、上へ〜と進んで居ります、一兩日中には小生等の部隊も同じ様な破壊の快感と、銃砲彈扱ては空爆（また時々敵機二、三宛前線方面には襲撃して來る様です）のスリルを滿喫出來るものと楽しみみたいな氣がします。

小生の乗艇は乗員約百數十名、士氣頗る旺盛です。負傷すれば御世話になるんだから等と言つてサ

トピス満點です。殊に外科醫といふので信頼といふか安心といふか、士氣に關する甚大な功あり等と艇長あたりにオダテられて苦笑して居ます。

移動する家を持つてゐる譯ですから食物も居住も贅澤さへ言はねば快適なものです。酒もビールも不自由する事はありません。殆んど毎晩士官教育をやつてゐる様な有様です。航行中亂筆にて取り止めもない事を書いて失禮しました。此の次には多分實戰の體驗と稱して駄ボラも書けると思ひます。

明日最後の食料、彈藥補給を行ひ戰線につきます。各位の一層の御自愛を祈り上げます。

蓮 江 信 行

秋冷の候茂木、木村、前田三先生始め醫局皆々様には愈々御健祥の御事と推察申し上げます。

御蔭様にて小生○○上陸以來無事軍務に服し微力ながら皇軍名譽の戰傷者の診療の徹底を期しつゝ多忙を極めて居ります。迫撃砲彈に傷いた者は見るも悲惨で御座います。骨折は殆んど粉碎骨折で其他赤痢様症狀の者多數に發生して居ります。

然し氣候は只今秋で武藏野の秋を偲ばしめる程で御座います。唯敵彈丸の飛來猛烈な點のみ前線氣分旺盛して居ります。今日は秋晴れの下友軍の飛行機の爆音が頼もしく響いて居ります。

皆々様の御勇健を祈ります。



小林 不二夫

時下秋冷の砌恩師には益々御健祥の事と拜察致します。此度は何より結構な報國活人劍の五文字を醫局を通じて戴きました。厚く御禮申し上げます。戦況の次第は日々の新聞にて既に御承知の事と拜察致します。戦闘は漸く軌道に乗り軍を更に西進して〇〇、〇〇、〇〇攻撃の第三次作戦に入りました。上陸以來吾々衛生部の數も重要な仕事となつたものは戦傷患者でなくコレラ赤痢でした。不潔極まる江南の野に於ける井戸の不整備は最大の苦勞でした。

第一線における支那兵戦死者の三割までは彈創がなく恐らくコレラによるものだらうと報告が來ておる次第です。

私も幸ひ御蔭様にて上陸以來元氣に任務遂行に邁進致しております。

今後も益々吾が慶應醫學の名譽にかけ一死報國活人劍を以て皇國の爲東洋永遠の和平確立の爲些なりとも盡すつもりで奮闘致します。

先生の御壯健を御祈り申し上げます。 敬具

工藤達之

國家内外多端の折柄茂木先生始め醫局御一同様には益々御多忙の御事と拜察仕候。

邦家の爲一層御自愛祈上候。小生幸に頑健軍務に精勵罷仕候間乍他事御休神被下度候。

近日〇〇に向ひ長江を遡江の豫定に御座候。

木村守江

昨日は恩師茂木先生の御雄筆と同窓會員諸君の御厚志になる御芳狀竝に看護婦諸嬢の熱意ある御努力の賜御惠送下され誠に難有拜受仕候。明治神宮の御守は直ちに胸に秘め、恩師の雄筆は繙帶所の壁に掲げ一目に示し胴巻は早速今朝から腹にしめ申候。去る〇月〇日〇〇〇に敵前上陸してより猛烈なる塹壕戦の第一線部隊として〇〇日負傷者のため微力を盡し壕生活に下痢氣味ある昨今本當の救の神に遭遇した感有之候。衷心より御禮申上候。



#### 四 條 龍 作

刀林臨時號有難う存じました。茂木先生の御不快には驚き入りました。折角御自愛の上一日も早く御元氣に御なりになられる様祈り上げます。

小生五月以降文字通り東奔西走最近漸く一地に落付き郵便物を一時に受領した始末で業務詳報等の整理に多忙を極めて居ります。

各位の御健康を祈ります。

#### 富 田 忠 良

其後先生始め醫局皆様には増々御壯健の由洩れ承り大慶に存じます。小輩も御蔭様で元氣旺盛勤務を續けて居ります。病院列車の要員として〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇〇方面に患者收容に進出し、九月末既に一萬里以上を突破致しました。本格的病院列車は有史以來本事變を以て創めて出來たものとの事で小輩の職務も亦極めて有意義と欣快に存じて居ります。

列車長佐藤淡香大尉は熊本醫大出身にて在學中乘馬部主將として活躍し、尙親しく前田先生の御薫陶を受けられた由にて大變懐しく存じました。

前線戦傷病者は悲惨の二字につきまます。○支戦線は最早一段落付き漸次勤務も寸暇が得られつゝありますが現在の情況より判断して或は○○國境に廻るのではないかと考へて居ります。右乍簡單近況御報告まで。

先生始め皆様の御健康を祈上げます。

赤 倉 一 郎

早くも秋冷の候となり醫局皆様には益々元氣にて銃後に御活躍の事と御慶び申し上げます。殘敵掃討も一段落し、砲聲に夢破られる事もなくなりませんが八月中旬より悪疫流行致し我々衛生部員は防疫に診療に忙殺されて居ります。當地の野戦病院には志田先輩が居て一度お訪ねして大いに愉快な日を過しました。其の後はお訪ねする機會がありません。中野先輩は相變らず朗らかに健闘されて居ります。出征一週年を迎へるのも間がありませんが士氣益々旺んで居ります。併し隊附醫官は段々醫者離れして行くようです。時節柄皆様の御自愛御健闘を祈上ります。

渡 邊 重 男

出征以來の御無沙汰を御許し下さいます様。

○支より○支へ轉進後四月中旬まで○支の守備、敗殘兵の討伐に従事致しました。四月十四日○  
出發の下命あり、十六日は○○に入り此處で一週間滞在し更に○山の山麓に一泊、翌日は孔子廟のあ  
る○○で少休後○○に到着致しました。此處に到着一週間で十五回生五十川軍醫より教官の大内先輩  
に會つた由の電話あり突然の事で人違ひではないかと半信半疑面會に參りましたが醫局に居られる時  
其のまゝの明朗な大内先輩を發見し思はず駆け寄り手を握り合つて喜んだ次第です。

數日後大内先輩は小生宿舍へ來訪され先般前田先生の御宅より御送り下された蜜豆の罐詰と野戰料  
理と一緒に晝食を致しまして色々教室の御話しを承り、少數の醫局員で先生始め醫局御一同の御骨折  
りは一方でないと御察し申し上げます。

五月十四日より○○攻撃軍に加り○○に達するまで三回の戦闘に參加致しましたが御蔭様で無事死  
傷も亦割に僅少で御座いました。

師團主力は十九日○○入城、此處の戰場跡は空軍の猛爆撃で完膚なき有様で御座いました。

戦ひの後の不潔と支那名物の蠅には全く閉口致して居ります。爲に赤痢患者の發生も多い様で小生  
も五十川軍醫もとう／＼やられました。幸ひ輕微で現在は益々元氣に働いて居ります。

皆様の御健康を祈ります。



左 奈 田 幸 夫

暫く御無沙汰致しまして申譯け御座いません。茂木、木村、前田三先生を始め醫局皆様には益々御壯健で院務に御精勵の御事と存じ大慶に存じます。

九月二十六日〇〇省〇〇〇に上陸以來、私は聯隊本部附と相成り親しく前聯隊長飯塚大佐の下に勤務致して居りました。九月三日飯塚大佐戦死まで連戦連勝にて流石の猛聯隊長も〇〇〇聯隊の諸兵の勇猛さには舌を卷かれて嬉ばれて居られた程で御座いました。

前線は敵が難攻不落と頼む〇〇山を占領して將校一同乾盃致した程で御座います。聯隊長戦死の數時間前に數ヶ月振りに各新聞社のカメラ班、映畫班に競寫され少々特意になつて居られました。當日はどん／＼前進して二ツ先の山頂に本部を設け、一同張り切つて前線を觀望して居りました。

敵は友軍の進出に後方に退く暇もなく右方〇山山脈の上へ／＼と逃れ、チェッコで側射を開始しました。然し聯隊長は裸で眼鏡を手より放さず一心に觀戰中不幸にも敵チェッコの一彈飛來し、聯隊長の右側胸部肩胛下角より左腹部に貫通し、大網膜は親指大に露出し私が駆け付けた時は最早意識不明で只聯隊旗を握りつゝ數回呻吟聲を發せられたので強心劑の注射其他適處するも効なく戦死されました。

た。

吾々は聲もなく只肅々と聯隊長の御遺骸を守り下山し附近の〇〇寺にて火葬に附し御遺骨は師團に届けた様な次第です。敵のチエツコ弾は日本の小銃弾より約二倍大で殺傷力は強大なるものがあります。

敵も仲々頑強に一山毎にトーチカと壕を造り抵抗を續けます。

當地は湖沼地帯でマラリヤ患者多く又山に寝る故か下痢患者續發し、日々五十餘名を出し兵の健康は相當害されて居ります。

悲飯塚聯隊長（九月七日詠）

日照 鄴陽 碧水

雲覆 廬山之香爐

征馬 東南 數百里

勇戰 奮鬪 來江西

遙望 武漢 三鎮

武人之華 散此地

愚作御笑覽下さる様御願ひ申し上げます。

二伸 小生儀相變はらず頑健にて勤務致し居り候間乍他事御休心下され度。十月二十七日〇〇に於て佐々木部隊蓮江中尉と會し、數日快談仕り候。蓮江中尉は長鬚豊富に蓄へ、威風堂々と濶歩致し居

り、稱して凱旋鬚と稱えおき候。當面の敵を目下豫定線迄壓迫致し、目下部隊整備中に御座候も、マ  
ラリヤ、急性大腸カタル、脚氣、イクテルス、等々のクランケ相當にて入院せし者甚しき數に達し候  
先は御氣嫌伺ひ旁々近況一報申候也。

## 大 内 正 夫

六月十七日待望の〇〇へ參りました。占領後一ヶ月の今日も亦激戦の傍がしのべます。城内家屋は  
殆んど一軒残らず爆撃に、砲撃に破壊せられ、震災後の東京を髣髴せしむるものがあります。當地は  
雨期に入り内地の五月雨の如く日に陰鬱の天候であります。最前線の將兵の苦勞は一通りでない事と  
御察致します。

吾々は次作戦に具へて目下待期中です、最前線に比し主食には事缺きませんが野菜に困つて居りま  
す。幾十萬の支那兵が喰ひ荒した跡に更に亦皇軍が幾十萬集結した事で〇〇近郊には野菜もありませ  
ん。何十キロと離れた驛に此れを買出しに行く始末です。水は全く悪く、吾隊で使用して居る井戸に  
は敵兵が石油を入れたもので瀘しても煮沸しても臭氣がとれず鼻をつまんで一氣に飲む有様です。水  
道の水を腹一杯飲んで見たいと存じます。

屢々腹痛で夜間往診を求められますが大隊本部より中隊まで一キロも離れて居る間を自動車で燈火



一つとない死の如き静寂の暗夜數人の銃劍に護られ拳銃を握りしめて往診する気分は終生忘れ得ぬ緊張があります。

昨日アツベの患者を野戦豫備病院に連れて參り偶然にも外科の佐藤壽郎君に逢ひ二人で手術を行いました。

戦ひはまだ／＼此れからと思ひます。

皆様御自愛專一に。

弓 削 中

其後は御無沙汰で申譯けあまりせん。

二十七日の午後四時半に漢口陥落、本日入城式(十一月一日)三日は内地に於ける祝典と存じます漢口は陥落しても前途は尙多端、此れより愈々大々的に追撃戦に移り殲滅戦有之事と存じます。

出征以來益々元氣にて大流行の「マラリヤ」「アメーバー」赤痢にも罹らず元氣に任務遂行致して居ります。

昨日は刀林臨時號落手しました。有難く厚く御禮申し上げます。茂木先生始め皆々様の御元氣の顔を御寫真で拜見し嬉しくなりました。先日飯田町一丁目の某女より慰問袋を頂戴し見知らぬ彼女ながら

お婆さんか、娘さんか、其れとも「モガ」か知らと東京に歸つたら其の人に會ひ度いと樂しみにして居ります。

遙に皆様の御健康を御祈りします。

松 丸 忍

此の度幸運の抽籤を引き當て、〇〇に出張致しました。

去る十月八日〇〇で整形の大内先輩に逢ひ、誠に偶然といへば偶然、本當に嬉しく存じました。大内さんは相變らずガツチリして居ました。又十月五日には〇〇で富田忠良君に逢ひましたが同君は〇〇司令部氣附で第〇病院列車長で方々に官費旅行をして居ます。良い身分と思ひました。又去る八月初旬佐藤壽郎さんに逢ひました。

皆々様の健康を祈ります。

林 利 治

初冬の折柄茂木先生を始め醫局御一同益々御健祥の段奉賀候。爾來御無沙汰のみ申上げ申譯けなく何卒御寛恕の程願上候。

先般〇〇省〇〇に參り神山君と久々に面會致し申候。

同地滿鐵病院は目下陸軍にて借り受け戰傷患者多數收容致し居候。神山君は陸軍の囑託醫として奮闘され居候間御休心被下度候。小生も亦御蔭様を以て無事勤務罷在候間乍他事御放念下され度候。

扱て今般同窓會より御鄭重なる御慰問の辭と共に先生の御親筆を賜り殊に有難く深く感銘に不堪謹て厚く御禮申上候。

將來小家の寶として末永く大切に保存致し度く存じ居候。

右乍略儀御禮申上候。

小 林 忠

十月二十九日付けの漢口陥落記念スタンプ入りの御寄せ書有難く拜見致しました。小生意氣益々盛んに〇〇病院に勤務致して居りますから御安心下さい。

廣東、漢口と旬日の中に陥落し戰地に於ての戰捷氣分も亦格別で、吾々將兵も本當に感激致しました。

吾が〇〇第一〇〇病院も益々充實し幾多の傷病兵の治療上極めて有意義なるものと喜んで居ります。〇〇も今や晩秋で朝夕は相當冷えますが日中は實に暖かです。此ちらは無煙炭が豊富で寒い冬も何

んのそのです。

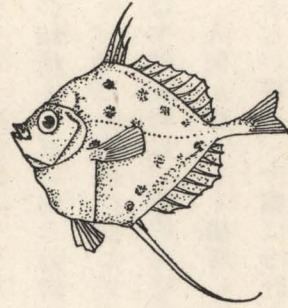
支那のクローニャンも仲々良きです。

皆様の御健勝を祈ります。



同窓會

海津釣り



大會根生

八月の焦きつくやうな陽も漸く西に落ちて、湯上りの體を廊下の籐椅子に、ビールのコップを靜かに傾けながら何を考へるでもなく、遠い海邊に寄せる白波を眺めて居た或る夕方、突然大洗ホテルからの電話である。

「茂木先生が見えた、遊びに來ないか」常磐病院の柴沼博士の聲が思ひなしか少し機んで響く。この頃は茂木先生と聞けば必ず釣りの事を想ひ浮べるやうになつて、即座に「釣りにいらしたナ」と直感した。先づ明日は一日ゆつくり浩然の氣を養ふ事が出來ると僕の肚は大洗へ向ふ前から既に決つて居た。

舊曆七月の、下弦に近い月は東海の空に牙え、岩を噛む怒濤は華と碎けて、涼風懷に孕む快きは流

石に大洗である。

茂木先生は膝の出さうなホテルの浴衣にメリンスの兵庫帶姿。座敷中所狭きまでに釣道具が散ばつて居る。釣の話に暫らくは餘念もない。柴沼博士は水戸釣友會とやらの會員で、勿論好きな道であるし、更に婦人科の富田君が參加して居る。同君に至つては既に素人の域を脱した其道の通であるから明日は魚籠が破れる程御土産があらうと豫想した。僕は凡そ論外の驅出しで、時々お惣菜物の鯊を釣つて來る位の程度であるけれども、子供の時分水戸の千波湖へ屢々釣りに出掛け、川に笹つて親爺に毆られた事もある位だから決して嫌ひだとは云ひ得ないであらう。

水戸と大洗を結ぶ幹線道路に交叉して、那珂川の支流酒沼川が流れ、先頃の大増水によくも落ちなかつたと思はれるやうな、いとも怪しげな木橋が架つて居る。山の上流酒沼川に盡きる邊り靜寂幽邃の佳境と、波に跳る銀鱗の群とは人の心を頻りに唆つて、春秋四季を問はず、好事家の往來は愈々繁く、最近この橋の袂に目立つて船宿がその數を増した。曰く越後屋、曰くなまこや、曰く〇〇。明日は午前五時に、船宿見晴屋に先生をお待ちする手筈を決めてホテルを辭した。

人間が恐ろしく横着に出來上つて居ると見えて、普斷ならば七時過ぎなければ、何としても目の覺めない僕が、今朝は時計も見ずにピツタリ四時に床を蹴つた。最早や五時といへば眞夏の夜は明けて東の空は目の覺めるやうな茜色に美しい。自動車を驅つて見晴屋に急ぐ頃までは將に文字通り絶好の

釣日と思はれたが、兎角かうした時には意外な邪魔が入るもので、先程まで南の森の端に蟠つて居た黒雲が見る／＼魔の手を擴げるやうに頭の上へのしかゝつて來た。珍しくも雷を伴つて大粒なやつがポツリ／＼茂木先生方も出鼻を挫かれたと見えて未だお見えにならない。豫想を裏切つた天候激變に災されて顔の揃ふまでに一時間遅れた。

「通り雨だから大した降りはありませんヨ」

船宿の主は巧みに客の元氣を付ける事を知つて居る。出漕つて居た一同は小止みになるのを待ち切れずに一齊に腰を上げた。

船頭の内にも、今でも深く印象に残つて居る一人がある。通稱「留やん」といつて、色は飽くまでも黒く、磨きをかけた羅漢様のやうに黒光りがして居る。恐らく五十の坂を越えてゐやう。釣にかけては此邊の名人として折紙を付けられて居るらしい。約束した時間を過ぎて居るのに中々姿を見せない二三回迎えをやつて不性不精にやつて來た。

「こんな雨に釣りに行つても仕様がなかんべ」

齒の殆んど抜けて了つた口を開けて笑つて居る、たつた一本抜け残つた下の犬齒がいやに目立つ。煙草の脂で眞黒だ。今日一日しかない楽しみを些かでも削り取られるのは辛いと思つて居る吾々の氣持とは餘りにも馳け離れた其の悠長な態度が焦立たしくもあつたが、また一面何處となくユーモラス

のある男で、尻切半纏一ツに、都々逸とも磯節ともつかぬ唄を口吟みながら先生と柴沼氏の乗られた舟の艫を押して行く姿は實に愉快だ。

今まで盛に上げて居た潮が漸く止つて來た。小石を役けても浮きそうな靜な流れである。兩岸に生茂る草が其儘の姿を水に寫して居る。遠くの森から湧き出して來るかと思はれる雨が思ひ出したやうに降つては止む。先生の船は何時の間にか上手へ遠く影も見えぬ。

正直に云ふと僕の海津釣りは生れて初めての經驗で少しく柄に合はない、同舟の富田君や船頭から手を執らんばかりの指導を受けた。さつぱりいけない。時々「ク、」と來る、「來たナ」と思つて竿を舉げると餌だけは見事に取られて魚はその片鱗も見せない、餘程合せ方に呼吸があるらしい。舟の周りでは大きなのが盛んに銀鱗を閃かせて躍る。些か翻弄された形だ。

然し釣りは決して魚の數ばかりを樂しむものではない、目を、耳を、指先を、全神經を竿に集めて糸から竿に、竿から指先に傳はる微妙な感覺を味ふ釣の三昧境、之が釣の妙味であらう、其處には我もなければ、煩はしい俗界もない、勿論魚の多寡は問題外である。

船宿の女が小舟に辨當を積んで、巧に櫂を操つて來た。お晝時が來たと見える。姐さん被りの下から白い襟足を覗かせながら

「如何ですか」と聞く。



僕は黙つて魚籠を水から揚げて見せた。女は聲もなく笑つて上手に去る。先生の舟へ行くのらしい  
「先生の方はどうか知ら」

チラと氣になつたが其儘忘れるともなく忘れて、また河面を見詰める。

富田君は晝食を認めるとすぐ用事があるからと云つて舟を上つた。氣が付くと舟に敷いた蓆も、座布團も、洋服のズボンも朝からの雨で絞るほどに濡れて、時々バナマの庇から雫が落ちる、煙草を吸はうとしてもマツチが濕つて火が付かない、竿を持つ手の雫は二の腕へ氣味悪く流れ込む、脊筋がゾツとして來た。

「先生は厚いゴムの合羽を着て居られたけれども、下から濡れる雨には矢張困つて居られるであらう」などと考へながらも、この驅出の太公望仲々執着が強い。

また一仕切り雨が強くなつて來た。下帯まで濡れて居るらしい。到頭我慢し切れなくなつて、宿から届けて寄越した重い番傘を指して見たが、片手に傘を持つて居ては竿が舉げられないし、傘がなければ横殴りの雨が襟元へ流れ込んでやり切れたものではない。染みく／＼本格的の釣仕度が欲しくなつた。

かう雨が氣になり出しては、どうせ釣りだつて上手くゆく筈がない。午後になつて何尾上げたか、兎に角知れたものだ、時計を見ると六時が少し廻つて居る。黄昏の色が流れに乗つてひた／＼と川上

から濛つて来る。岸邊に二三軒立並ぶ船宿の屋根看板も雨の中に烟つて見える。先生の船は未だ見えない。

一先づ船宿へ行つて先生の御歸りを待つ積りで歸り仕度に掛つた。魚籠の中を覗かれるのが少し極りが悪い。船から上つて獲物を算えて見たら、海津が五六枚、鰻が三本あつた。

「蒲焼二人前は出來ますヨ」

宿の親爺が慰めて呉れた。終日雨に打れての全收穫が是丈では家へ歸つて些か敷居が高いといふものだが近所に魚を賣つて居る家もないらしい。

「時に先生は？」

「三十分程前に、よろしくといつてお歸りになりました。」

「先生澤山お釣りになつたかネ」と聞いたら、親爺は「エ、」と言葉を濁して答えなかつた。矢張り水ものと見える。

雨は漸く止んで夕陽が赤々と山の端に照り映えて居た。



## 高原の日記

伊藤國男

今年の秋も空は高く晴れ上つて何處までも深く、山の紅葉も亦素晴らしい。昨年十一月末再生の喜びに胸を躍らせながら病後のはじめてのシユルツエを着て以來、富士見高原療養所に御手傳ひをしてゐる内に早一年が過ぎてしまつたが、私も御蔭様でどうやら元氣に健康人の仲間入りが出来る様になつたのを感謝してゐる。

この高原の閑村にも去年の夏以來出征の歡呼は絶えたことがなく、日の丸を振りながら戰場へ向ふ勇士を送つたのも幾度か知れない。近頃はそろ／＼凱旋する人もあり、戦場の生々しい話を聞くことも度々である。南京陥落の時も漢口陥落の時もこの近所の部落でも亦祝賀提灯行列をやつた。病院からも醫者看護婦總出で二十數人が村の人々と一緒にジンの後について日の丸行進曲や愛國行進曲を唱つて廻つた。線路傍の氏神様の境内に集合、枯れかかつた桑畑の間を歩き踏切りを越え小川を渡り

ぐる／＼歩いて、病院前を通れば入院してゐる患者達も病棟のベランダから手を振つて共に祝福する  
駒ヶ岳一帯の南アルプスが壁の様に聳えてゐる下の闇に提灯の火は夜の更ける迄揺れ動いてゐた。

行列も終つていつもの様な静かな夜となれば思ひは遙か遠征の將士の上に通ひ、友上知己の姿を想像し又同窓會諸兄御活躍の有様を胸に描いてみた。切に切に武運長久をお祈りする次第である。

\* \* \*

病院の前の畑の中にある家のお婆さんが孫娘を連れてやつてきた。

「先生又お願ひ申します」

娘は六ツばかり顔中一杯の腫物である。両手にも兩足にも出来てゐる。

昨年七月支那事變勃發後間もなく、この家の大阪の方へ出稼ぎに行つてゐる息子は歡呼の聲に送られて勇躍出征した。當分の間祝出征の幟が二本ひら／＼と風に翻つてゐた。

家では弟が郵便局へ勤めてゐる。もう一人弟があるが、これは赤坊の時の腦膜炎の爲とかで、二十四歳の今日白痴となつて生き永らへてゐる。短いゴム靴をひつかけて「エヘエヘ」と無氣味な聲を出して畠や田圃の中を歩き廻る。時々昂奮した時には家の中で何かたたきつける音が、又泣き喚く聲が一時間位は絶えないことがある。

「どうだネ、この頃は戦地から便りがあるかね。」

「家の奴は暢氣で去年出征してからへ一年になるが、一度も手紙も寄越しませんでした。今頃は何處に居るだか。一級上つて軍曹になつたとかいふことでござります。」

實に暢氣な兵隊さんである。又お袋も御同様だ。天皇陛下に差上げて戰場に送つた息子のことだ。このお袋は安心し切つてもゐるのだらう。

「さあ藥をつけてやるよ」

「ウーン痛い」

「痛いなんていふぢやない。父ちゃんは戦争に行つてゐるんだよ。先生にお願い申して、父ちゃんが歸る迄にすつかりよくしなくちやならねーだぞな」

「わしもこの子を病氣にしちや父ちゃんに濟まねーと思ふだぞ」

瞞したりすかしたりして顔中や手足に膏藥をはりつけた。

「さあ先生有難うござります」

お婆さんは孫と醫者とを半々に見て挨拶をして歸つて行つた。出征兵家族の給費診療である。

何時になく雨が多くて不作かと心配された稲作もどうやら平年作には行つたらしい。紅葉の美しく赤くなる頃、蓼科山の方へ段々と高くなつたこの邊の田圃も黄金色に美しく實つた。この家の田圃も近所の田圃と同じ様に眞黄色な穂を垂れてゐた。八ヶ岳の峯に初雪が來た。お神さんや婆さんが稻こ

きをしてゐる側で切株ばかりになつた刈田の中を、例の白痴はやはり頓狂な聲を出して歩き廻つてゐた。孫娘は顔中を膏藥だらけにして遊び廻つてゐた。父ちやんは大別山を越して漢口へでも攻入つたらうか。

\* \* \*

一年間朝に夕に結核患者と共に過した日々を振り返つてみると、悲しい運命に苦しんで死んでゆく人々の臨終の牀に、心を暗くしたことも幾度かであつた。又一方恢復の喜に充ちて退院してゆく人々を見送つた事も幾度かであつた。

療養所は閑村の中に一ツの別天地を作つてゐるが、外來には時々村の患者も訪れて、入院患者とは毛色の變つた仲々愛嬌のあるものもある。

外來で住所年齢姓名を聞く。

「住所は？」

「富士見村横吹でござります」

「生れたのは何時？」

「さあ一五十八ちゆう理だが」

「さう、それでは一明治一十四年だね、何月何日？」

「さあ、一向へ忘れちまつて」

「名前は？ 細川何ていふ？」

「え？ 細川りん？ 細川ぎん？ どつちだね？」

「さあ、皆んなぎんちゆうでぎんづらよ」

こいつは餘りにひどい。

\* \* \*

「先生お尻の痛い患者さんが待つてゐます。」

と看護婦に言はれて外來に行つてみる。六十過ぎのお爺さん。

「どうした？」

「へ、どうにも尻が痛くて痛くて。」

「どうしたんだね」

「實は二、三日前にわし等獵師仲間で八ヶ岳へ兎をぶちに行つてな、五、六匹獲つただが、そりよう山でたたいて喰つたが、それつきり糞が出ね、で今日はへ、尻が痛くて痛くて全くへ、やりきれね、どうも何かつけてゐる様だ。」

「骨も食べたかね？」

「骨もたたいて喰ふだ。若けえ者は何でもなかつたがおらは年寄だで駄目だ。」

「まあ診よう」

肛門部に異状はないが、さても汚い尻であることよ。指を入れてみる。さて奥の方に何か固いものが觸れる。

「之は何かあるぞ。」

早速直腸鏡を入れて中を見ると之は如何に、正しくたゞかれた兎の骨が一杯詰つてゐる。示指頭大の尖つた骨片が澤山入つてゐる。レントゲンも撮つてみると骨盤の中に野球のボール位の圓形の影が見える。粘膜にさゝつたりしてつかへて出て來ないのだ。早速コカインのアネステジィをやり、直腸鏡で見ながら骨片をかき出した。出るは出るは糞便と骨片の混合物が後から後からと出てくる。小一時間もかゝつたらうか。

「お蔭様で大きに樂になりました。ありがたうござります。」

爺さんは屁びり腰で歸つて行つたが、翌朝病院へ來てみると

「先生昨日の骨の患者さんが又來てゐます。」

又外來へ引張られる。

「先生未だ痛くて痛くて、どうかお願ひだ、救けておくれなして。」



「どれ〜」

と見れば又大變な骨がつかへてゐる。

「ぢや又取らう。」

昨日の如く澤山かき出した。便所の汲取りと大差のない仕事だ。

その翌日も又その翌日もとう〜前後四日間骨のかき出しを毎朝餘儀なくされたが、五日目からやつと便通がついて來なくなつた。

「先生、へー鐵砲ぶちは懲り〜だ。兎のことを考へただけで身慄ひがするで。」

と言つて歸つて行つた爺さんだが、喉元過ぎれば熱さを忘る、又山に雪が來る様になつたこの頃は鐵砲を持つて兎を追ひかけてゐるのではなからうか。

\*

\*

\*

澤を一ツ隔てた向ふの斜面には漆が眞赤に色づいてゐた。秋も半ばといふのにもうこの高原には寒い風が渡つてくる。この日遠來の客齋藤脩二君を迎へて私と弟と三人で霧ヶ峯にやつて來た。三、四年前スキーを擔いで醫局の同好の士とよく來たことがあるが、雪のない時に來るのは今日がはじめて秋にも珍しい上天氣に澄んだ青空には悠々とちぎれ雲が飛んでゐる。

「いゝな〜。」

「なる程霧ヶ峯は廣い。」

思はず感嘆の聲を洩さずには居られない。池のくるみでハイヤーを捨てたらしく昇りを歩きはじめ。八ヶ岳連峯から富士山、振り返れば遠く北アルプスの峯々までが、或は低く或は高く幾重にも重つて眺められる。富士見邊りと思はれる八ヶ岳の高原が廣く擴つてゐる中に點々として部落の白壁が光る。

目をさへぎるものもない。木もない丘の起伏が何處までも續いてゐる。この廣い草原に居る者は吾々三人だけ、遠くにぼつりぼつりと二、三人離れ離れに草を刈つてゐる農夫が見える。ポク／＼歩中に草を山のように積んだ牛車がガタンゴトンとやつてきた。

「今日は、その草はどうするんですか。」

「これかネ、こりや此奴に冬喰はす草だ。」

「自分で喰ふ草を運んでゆくといふ理ですね。」

「まあさういふ理だねハツハツ。」

牛車をひいた農夫はのんきさうに降つてゆく。その肩に秋の陽がさん／＼と降りそゞぐ。時々飛んでくる雲が日の目をかくして、もや／＼とした影が草原をかすめて走る。足元の草の中にはつや／＼とした濃い紫の龍膽、觸れ／＼ばはら／＼と散りさうなまつむし草、白い五瓣のうめばち草等が亂れ咲い

てゐる。吾亦紅は花の玉が大分黒つぽくかさくになつてきた。芒はもう晚い。とかくする内にグラ  
イダー練習場に來た。高い櫓がある。「昇るべからず」の禁札を侵して昇つてみる。霧ヶ峯ヒユツテも  
直ぐ下にある。格納庫がある。風が寒い。數葉の寫眞など撮つて他の路を歸路に就く。

日が西に傾いた。うす墨を流した様な諏訪盆地が眼下に見降されるところ、諏訪湖が鏡の様に浮き  
出してゐる。對岸の岡谷の灯が美しい。御嶽と覺しき彼方に横たはる雲の中に夕陽が輝きながら沈ん  
でゆく。槍ヶ岳の穂がくつきりと尖つてゐる。再び池のくるみに來た頃は濕原の邊りも夕闇に包まれ  
て、颯々と吹く風の他は寂として物音一ツしない。迎へのハイヤーを待つ間、齋藤君の母君への御土  
産にと抱へる程のまつむし草を摘んだ。降つてゆく上諏訪の町には暖い温泉が待つてゐる。

## 手術料の話

甲 府 住 人



夜半十一時過ぎ、箠頓「ヘルニア」の飛込あり、生後五ヶ月の男児、三日前より  
り箠頓、昨晝頃よ嘔吐あり。診るに全身状態は大して悪くはない。勿論腹は可成り  
に膨満して居る。

約鷺卵大の左鼠蹊「ヘルニア」である。中央部の皮膚に一錢銅貨大の擦り剥いた創がある。聞くと  
整復する爲めに揉んだ擦り創だとの事。少々驚いたが、揉んだ御醫者さんの根氣の好いのに感心した  
兎に角三日たつて居るので相當厄介な「シロモノ」だと思つたが早速手術した。「ヘルニアザック」内  
には餘り新しいとも思へない血液が相當量貯つて居た。箠頓して居たのは小腸だが、その腸間膜に約  
鳩卵大の「ヘマトーム」を形成して居る、腸は幸にも大した變化はない。扱、その「ヘマトーム」だ  
が「ヘルニア」門に絞めつけられた爲に出來たとは考へられない。何うも皮膚を擦り剥く位もんだ爲  
めに出血したものらしい。兎に角何うにか手術も濟んで経過も極めて良好で家人も大喜びであつた。  
扱手術後三日目の朝である。患兒の祖母なる人が来て「御蔭様で孫一人助かりました。もうすつか

り癒つた様だから、今日は退院し度いと思ひます、それで手術料をマけて頂き度い」との事。諸君こんな事は小生の勤めて居る所邊では當り前ですぞ。小生もこの位の事にはもう慣れ切つて居る。

「オバアさん。退院は未だ少し早い。兎に角あと四日たてば糸をとつて上げるから、そしたら直ぐ退院できる。手術料は夜中だし、可成り厄介だつたんだから、五十圓は特別安くしてあるし、入院料だつて、一日貳圓だから何とかしてもらひ度いが——」

「前にワシの近所の衆が先生に脱腸の手術をしてもらつた時は三十圓だつたさうだが、ワシの様な貧乏人はもう少しマけてもらひたいもんだ。大人が三十圓なのに、未だ五月しかたゝない赤坊が五十圓は高い。赤坊だから、大人の半額だから十五圓位にしてもらひたいのだが——」

冗談に云つて居るんぢやあないですぞ、婆さん本氣にそう考へて居るらしい。成程小供は何處へ行つても大人の半額と相場は決つて居る。手術を床やさんで髪を刈るのと同様に考へて居る。丸ツきり理屈に合はない事もない。

兎も角も、手術料をその儘五拾圓拂つてくれゝば入院料を半額にする事とした。そうすれば、入院料一日一圓だから安い。之で薬と母親の食事がつくのだから——。手術料を十圓まける位では大して安いとも考へないが、入院料一圓では之以上値切る餘地がない。長くて十日の入院だから手術料二十圓まける位なら、十日の入院料をロハにしてやると同じ事だ。之で妥協した。

之より先、腹膜炎で敗血症を起した患者があつた。輸血を三回施した。一回十五圓だから、四十五圓の輸血料を請求した。支拂ふ時輸血料十五圓は高い。注射と違つて血液は此方持ちで「モト」は只だからまける——との事。之には開いた口がふさがらなかつた。

此の筆法で行くと、外科醫者は一文だつて金をとれない事になる。中耳炎だつて、體は向ふ持ち、虫様突起も本人のもの「モト」は只と云ふ事になる、膿瘍だつて膿は本人のもの、切開して出すだけだから「モト」はかゝらない。

斯う云つた様な理屈を本氣で云ふ所、愛嬌があると云へば云へるが笑つてばかり濟まされない。開業醫の悲哀である。此の點醫局に居た頃は太平樂だつた。金をとる事は實に勇氣の要るものだ。往診に行つて、往診料を幾らと聞かれてドキツとする中は駄目だ。此方から先きへ幾ら／＼と云へる様にならなければ——。

「喉元過ぎれば熱さ忘れる」病氣も癒つて了へば醫者の拂ひは馬鹿らしくなる、昔こんな話がある或る大金持ちが病氣した。凡ての醫者が見離して了つた。所が或る一人の名手があつて、之の病氣を癒してやると云つた。金持は大喜びでその醫者の所へ入院した。幾日かたつとさしもの大病も次第に快くなつて殆ど全快近くなつた。金持は或る時、自分の秘書だか執事だかを呼んで、醫者に十萬圓を直ぐ御禮に持つて行く様に云ひつけた。執事は今直ぐでなくとも全快して退院後にしたら——。と云

ふと金持の曰く。「いやそうでない。始め自分は此の病氣さえ癒れば全財産の百萬圓全部御禮に遣つても惜しくないと思つた所。がその中に全部でなくとも半分の五十萬圓を醫者に遣るつもりになつた。段々病氣が快くなつてもう大丈夫となると、今度は十萬圓やるのが惜しくなつた。此の儘全快して退院すれば一萬圓は愚か、入院料以外は一文だつて御禮するのが惜しくなるだらう。だから今の中にすぐ十萬圓醫者に遣る様に……」と云つたとの事である。之が人情だらう。所が此の邊になると入院料は愚か往診料、非道いになると藥代を窓口で値切つて居るのが居る。中には初めつから踏み倒す氣で居る奴さえある。

「醫は仁術なり」蓋し千古の眞理である。而し醫を以て飯を食つて居る以上、慈善事業とは違ふ。醫は仁術には違ひない。而し醫業は仕事である。報酬をうける権利はある。吾人は、仁術を施しながら商賣をして居る。即ち、施しながら儲けるわけである。

所が健保だ、やれ組合病院だ、やれ軍人遺家族救護だ、その他ETC……。今の御時世だ「武士は食はねど高楊子」式で居ると、食へなくなる。事、金に關する限り特別の勇氣が要る。

醫局を出て四年。病氣を癒すよりも、如何にすれば手術料や入院料を踏み倒されないか？ と云ふ事の方が遙かに六ヶ敷い事を泌みく味つた。開業して自分で金をとる様になる迄は未だ、相當の修養が必要である。



猪  
ま  
て

良能流巢晚

田舎の人達は面白いことを言ひます。

隣村の醫師は耳鼻科専門ではあるものの、開業醫の常として内科もやれば、小兒科外科もやるといふ具合です。

そんな都合で、この附近の人達は「頸から上の病氣はAのところへ行け」と片づけてしまひます。

私のところは、吾々のバテントたるアツペで名を賣つてゐるのですが、こゝの人たちはそれと同じ調子に「何んでも腹の病氣ならばYに限る」と言ひながら、簡単な腸カタルから消化不良、それから疫痢、赤痢性のもので持ち込んでまゐります。

やはり開業すると、外科専門を標榜しながらも、全科に亘つて患者をあつかはねばならなくなりま



随分困ることがありますが、先日來た五十歳位の男子は、數時間も汽車に揺られねばならない遠方からやつてまゐりました。勿論先生の名聲を傳へ聞いて來たものに違ひないことなので遠いことには驚かないが、この留守部隊たる私をびつくりさせたのは患者の有様です。

榮養は良く自覺的には苦痛が無いが、上肢及下肢が左右全部ともに麻痺して運動障礙がある。數人の醫師を次々と歩く中に、どうにか人の肩にすがつて歩行する程度には恢復したものゝ、今迄の醫師の診断が皆違ふのさうです。

苦手も苦手、そりや無理ぢやと心の中に自問自答はするが、さて内科廻しとも行かない、觀念のほぞを決めて、内科のポリクリをやるつもりになりました。

患者は約十年前、今と殆んど同様な症状を患ひ二ヶ月餘りで全快したこと。この度診てもらつた最後の某博士はハイネメチン氏病なりと診断されたことを話してくれました。

尙彼は非常に焼酎を好むこと、平生は一回量の焼酎は約五合とのこと、私もアルコールでは苦勞したほうなので、この焼酎は面白いぞと思ひながら、よく尋ねてみると發病前は數日間石運びの力仕事をした後を晩酌に焼酎を五合以上を缺かさなかつたこと、最後の日には手足の具合の悪いのを承知で飲みすごしたといふ事情が分りました。

そこで私は、グローブな診断とは思つたが、焼酎中毒なる診断を與へました。

初めは處女のごとく終りは脱兎の如き、この迷診断には、附添の息子はいささか不満さうでしたが患者自身は吾意を得たりといふやうな顔色を浮べながら満足して歸つて行きました。

この地方では一本十三錢の葡萄酒も賣られて居ります。その焼酎なるものをもつとよく調べなければいけないと思ひます。

知らぬ土地へ赴任して困るものゝ一つに言葉の通じないといふことがあります。刀林にも度々拜見しましたが此處にもひとつ。

下腿の膿瘍か何かを切開した患者が私に尋ねました。

「先生足がはしつたらばどう致しませう」

「走らない様になさい」

「いやはしつた時は」

「走つてはいけません」

まだ患者は納得しません。

私は些さか中つ腹になりましたが、患者の言ふところのはしるは痛むことである。

はしる即ち痛むといふことであると分つてしまへば、いやまつたくお笑ひ草にもなりません。

山陰の山なみが、なだれをうつて日本海へ押し寄せる。その間の僅かな平地に點々と部落が續いて、

居ります。

猪と言へば上野の動物園で見たきりの私にはこの近傍の田畑がさかんに猪に荒らされると聞いてもどうもびんと來ませんでした。幾頭もの仔猪をつれた猪が一と晩の中に見渡す稻を食ひ荒してしまふといふやうな話も聞きました。

昨年暮れの頃であつたらうか、見識りごしの方が大猪を撃つてきました。

自轉車に積んで歸つてきましたが、餘程重いのでせう。くるまのタイヤが煎餅の様に押しひしやげて創口から出る血潮が自轉車の車輪を真赤に染めてその上點々と道に落ちて行きます。

その肉を持つてきてくれましたが、豚肉よりは寧ろ牛肉に似た肌理をもつてゐて、それより遙かに淡泊で野趣にみちた、なかなか美味しいものと思ひました。

山間へ往診すると、田の畔で人も住まぬやうなしじまの中を、たん／＼と音をたてるものがあります。

見ると小川に仕掛けられた子供の遊びごとのやうな他愛ないからくりがありました、これによつて猪を追ふのだといふことを聞かされました。

これが所謂添水といふ奴でせうか。

猪といひ添水といひ、吾れはるばると來しものかなの感がひとしほに深いのです。



## 検診小話

木本多喜雄

御無沙汰致しておりますが、醫局の皆さま益々御元気で銃後の御奉公にお務めのことゝ存じます。

早いもので、役人になつて最早一ケ年餘も過ぎまして今日此頃はどうかやうやら役人生活にも慣れて参りました。御承知の様に厚生省が誕生してからは吾々の方面は急に仕事が殖えて参りました。それに豫防係では我々が八人の醫者仲間が係長を除いてはこれでも最古参といふ譯ですから仲々多忙です。本年からは壯丁の豫備検診も初められ、過る三旬之が仕事をして参りました。

お笑ひ草までに當時の面白(?)かつたこと一ッお知せ致しませう。

「一〇〇番入つて来い」

花柳病検診室から斯く申す小生の聲、

倍一應検査も済んで

「小便」

「はい」

暫くして便所から歸つて來たが、檢尿コップに小便を入れて來たと思ひきや、彼氏は何も持つて來ない。

「小便は？」

「やつて參りました」

「コップはどうした」

「はあ、水をのんで參りました」

「水をのんだ？ あのコップで」

彼氏は檢尿コップでコップ洗滌用の用水をのんで來たと見える。斯く申す小生がどんな顔をしたかは御想像にまかせます。

勿論彼氏は醇朴な田舎の青年であつて、検査前の係官の注意を聞きおとしたに違ひありません。以上。

誌上より茂木先生を始め諸先生の御健康を祈ると共に、戦線で御活躍の勇士の方々の武運長久を祈つて筆をおきます。



## 錦州に到着するまで

辻 岡 浩

醫局の皆様お變りはありませんか。  
僕は至極元氣です。

錦州も最近めつきり冬らしくなり、毎日々々寒い風がほこりと共に吹きすさんで居ます。錦州市は未だ建設途上にあつて之と云つて云ふべきこともありません。

それよりも錦州滿鐵病院の外廓だけでも紹介致しませう。

病院は赤煉瓦二階建です。ベット數は七十位です。醫者は内科三人、外科三人、産婦人科二人、耳鼻科、眼科、小兒科各一人、齒科三人です。錦州病院のこのやうに大きくなつたのもこの半年位だそうです。之からもどん／＼大きくなる可能性があり、來年からは看護婦養成をするそうです。そして病院の増築も今立案中とのこと。或はもう案が出来あがつてゐるのですが、建物制限のため思ふやうにならないとの話もききます。

外科醫長は九大出の人でとても氣の置けない人ですから僕達は何事につけてもやりよく、毎日樂し

く仕事に従事して居ます。

皮分泌を兼ねて居るので始めはちよつとまごつきましたが、今はまがりなりにもどうやら通りぬけて居ます。

満語も始めはさつぱりわからずでしたが、近頃は覺えた單語をならべて居ますが、通じる時も多くなりましたし、又あちらの云ふ事もだん／＼わかるやうになりました。

患者は外科、皮分泌各半半位です。外科ちや外傷が一番多いやうです。次にやはりアツベですが、なんと云つても常に二十五人位の入院患者ですからそう多くはありません。皮分泌ちや土地柄ゴノ等のベネーリツシエ・克蘭クハイトが多いですから入院の方は割に暇ですが外來はとても忙がしいです。日に八十人位は來ます。

まあ大體こんなものです。

之ぢやあまり簡單ですから僕のメモより「赴任の際奉天より錦州迄の汽車の中の感想」をピックアップして之を補ひませう。

北京行の急行列車は奉天驛をたつたばかり、奉天郊外の工業地帯を左に眺めながらゆつくりと走つてゐる。

急行列車と云ふけれども少しも早くない。

だん／＼行くに従つて支那式家屋ばかりとなり、且支那式の土家屋もきたなくなりだん／＼少なくなつてゆく。あの近代味豊かな奉天郊外とも思はれない位である。

僕の乗つてゐる車は、三分の二が食堂あと三分の一が乗客用となつてゐてこじんまりしてゐる。この車内には三十一、二位の男と、准尉と伍長の一組。二十二位のお嬢さんと十三位の女の子、十位の男の子の一組、乗車警備員、専務、満鐵のマークをつけた僕と同年輩位の人、それに僕である。

汽車は少し早くなつたやうだ。もう周圍には家は見えない。廣い廣い野つ原だ。木は極まばらで稀に内地の柳に似た而しあれ程たるんでゐない樹がくつきり晴れ渡つた空にもうげに立つてゐる。

見事に耕された畑がすつと緑の線を引き地平線の彼方迄つゞいてゐる。所々に支那農民がめづらしげに汽車を眺めてゐるのが眼につく。

軍人、兩人が盛んに話をして居る。

私は本も讀む氣がしないまゝに又車窓より外を眺めた。相變らずつと地平線まで開けて畑だけしか見えない。ここなら海上でなくとも地球の丸いのがわかりそうな氣がする。

見渡すかぎり遮るものがない。眞夏の太陽がこの大平野をわがもの顔に照りつけてゐる。

乗車警備員がしかつめらしく銃を持つて車内を時々通りぬける。全部で十人位乗車して居るらしいやがて汽車は新民に入つた。地圖でみると◎と云ふ印がついてゐるので随分大きな所かと思つたら



土造の支那家屋が集團してゐるにすぎない所である。近代的な建物がたつた一つ街の中央に見えるつきりである。

汽車は新民以來益々遅くなる。これはつひ先日の豪雨のため川が氾濫して、この平野一帯が水浸しとなり、家屋は流失し、鐵路も破壊され、川であつた所が道路になり、川のなかつた所に幾つもの川が出来たり、川の流が變つたり、又畑の中に大きな池、否、湖と云つた方がよい位のもが出来、兎に角まるつきりこの邊の地圖を變へて了つたのである。

その後徹夜の復舊作業によりやうやく一昨日開通したばかりである。

車窓よりみると支那苦力が盛んに工事をやつてゐる。汽車の通るときは手を休めて汽車を珍らしげに眺めてゐる。汽車の速力は鈍牛の歩みである。

他の人々もあきたとみえてさかんにあくびの連發だ。それにつれて僕迄あくびが出る。

子供はたまりかねたとみえて「姉ちゃんまた」と云ひながらあちらこちらの座席へ行つてごろりくしてゐる。

僕もあまり退屈なので食堂車へ行く。奉天乗車以來コーヒーばかりのんでゐるのでコーヒーの中毒になりそうな位だ。

間もなく満人の列車事務が變な調子の日本語で「皆様おつかれ様でした、汽車は間もなく大虎山に

入ります」と案内する。

あゝまだ大虎山かと思ふと實際いやになる。この調子で行つたら錦州へは大分延着となる。

大虎山は新民より大きいし、且車窓よりみえる建物もやゝ近代的のものが多く見える。而し何んと云つても内地の田舎の小驛位のものである。

大虎山を出るときさすがに大陸の強い日光も傾きかけて来た。そして今迄全然見えなかつた山が小さいながら見えて来た。而し内地に見えるやうな山でなく、岩石の露出した樹木の少ない山である。寫真でみる萬里の長城のやうな恰好の山である。

山羊の群がどん／＼追はれて家へ歸つてゆくのであらう。あちらこちらに一群一群と動いてゐる。これについてゐる支那人も長い鞭一本持つてのんきそうに之についてゐる。これなら百歳迄も生きられそうだ。

七時半すぎと云ふのに未だ日はくれない。廣い／＼平原で高い山のないせいかも知れない。眞赤になつた大きな夕陽がずつと彼方の地平線近くに未だ浮んで居る。

日がとつぷりくれたのは八時半である。間もなくあたりが眞暗になつたけれども西の空は未だ幾すぢかの明るい空が残つてゐる。もう車窓よりは外景は殆んど見えなくなつた。本當ならもう錦州に着いてゐる時分だと思ふと尙あせり氣味になる。

やがて専務が、間もなく錦州であります。錦州でお降の方はお忘れものゝないやうに。皆さんおつかれ様でした。と云つた。

とう／＼来たかと思つて外をみるとやはり暗闇の連続である。何んだか錦州も小さい所のやうな気がして心細くなつた。

やがてぼつ／＼街の燈火が見えだして来た。

とう／＼来た。約四時間の所六時間かゝつた。二時間の延着である。

汽車を降りたらなんとなくすつとして今迄の憤慨も雲散霧消し疲労も全く恢復したやうな気がした。畑保健係長、大島先生の先輩と共に病院の連中が十數人位迎へに来てくれて居た。

北京天津附近の匪賊の情報のある折柄なんとなく今出發した汽車が氣がかりである。

もう汽車の音もきこえなくなつた。

さあとう／＼錦州へ着いた。頑張るぞ。

醫局の皆様の御健康を祈ります。



## 通信欄

### 山田 迪

小生昨年十一月三日開業以來お蔭を以つて極めて順調の成績を擧げつゝありますから乍他事御安心下さい。最近アツペの手術が目立つて増して來たのは實に嬉しく思ひます。今月は開業以來のレコードで六つ目の手術を昨夜致しました。開業以來アツペ二十七になります。當地の日赤支部病院も非常に評判がよいので結構なことです。最近ベット百餘を有する綜合病院（組合病院）が出来て開業早々から三百名近くの患者を吸収して居る由、吾々開業醫にとつてはしばらくの間苦痛です。

### 權守 英夫

廣島へ來てから十ヶ月に成ります。先日岩原助教と善通寺から患者轉送で御會ひしました。合原君が宇品から出征して意氣堂々と出發、久振りに學友に遭へ嬉しかった。産婦人科教室の澤井正太郎（十四回生）君が名譽の戦傷にて十一聯隊に歸つて居ります。ガイセンの折は御寄り下さい。

### 後藤 昇

小生も既に子供三人の親爺と相成り居り候へ共、意氣は懐かしき醫局時代と少しも異らず、時々牛飲馬食してハメを外し居り候。昨年九月以來縣下新庄町にさゝやかなる分院を開設、幸に諸賢の御指導による體驗が非常に役立ち、大いに仕合せに存居り候。過日國家總動員法に

よる醫療關係者の登録ありたるに際し、小生も五十餘名の出征會員が羨ましく、卒先應召の決意ある旨を申告致し置き候。匆々。

仁術のメスに興亞の光かな

### 今井秀雄

元氣で毎日戰傷患者の診療にあたつて居ります。仙臺は茂木先生の御郷里にて先生の御噂も時々聞きますので其の度に肩身の廣い感じがします。戰地よりは木村、守江、照井、佐藤其の他の先輩の病床日誌が來、患者から先輩の活躍振りを聞く度に羨しくてなりません。刀林に何か原稿を書き度いと思つて居りますが間に合ふかどうか。

### 中村寛

渡滿以來早二年に成りました。當新京も喜早、川上諸先輩の御指導により非常に愉快に會合して居ります。軍務は持久作戰のため花々しい處は御座いません。只々或

る目的に向ひ銳意努力して居ります。

### 龍野一雄

今夏横濱に開業し例の微の生えた古醫方で押通して居ます。虫様突起炎は七月より十月までに八十三名扱ひその内三名だけ他に入院を薦めました。かねて茂木先生、前田先生より研究のお許しを頂いた賜物としてみゝ感謝して居ります。拓大の醫史學講義も此程終了しましたが教へるより教へられる方が多かつた様な氣がします。今後は醫學による日支文化の提携に微力を盡すつもりです

### 森山成一

軍醫豫備員として十月十日宇都宮歩兵第五十九聯隊に入營仕り十月廿五日宇都宮陸軍病院に轉屬を命ぜられ目下宇都宮陸軍病院にて教育中に有之、戰地にて御活動の五十餘名の會員諸兄には衷心より感謝仕り候。長期建設の際小生等も不日第一線に奉公の日あるを覺悟致し居り候。

鍋島 勉

甲府へ来て丁度四年、早いものだ。相變らず舊阿蒙で家族も夫婦に一男一女！増えも減りもない。それでも長女は今年から學校へ行つてるし長男も四歳になつた。親父も歳とつた證據に鼻下に美髯？を貯へる様になつた慶應外科に籍を置いた事を無上の誇りとし常に感謝して居ます。

大曾根 幾次郎

日頃皇軍將兵の診療に獻身的努力を拂はられる吾が五十有餘の同窓各位に對し滿腔の敬意と感謝とを捧げ更に一層の御健闘を祈ります。銃後の吾々は益々學術報告の誠を致さん事を心密かに誓つて居ります。

富田 勝郎

小生御蔭で無事業業戦線の一員として及ばずながら努めて居ります。當地は十一月初旬と云ふのに既に降雪二

回あり、やがてスキーの時期となります。

柳 壯 一

刀林の同人方も五十何名御出征の由、當教室も三十名餘り應召したし、遂に一人を失ひました。醫局も僅かに六名となり忙しいながらも緊張して銃後のために働いて居ります。札幌のオリンピックもお流れになり及ばずながら盡力して居たのも駄目になつてガツカリして居ます。が致し方もありません。益々元氣で第二の國民となる青年の養成に盡して居ります。

渡 邊 敬

此處北關東の一隅に於て一筆。天下の名所日光に近く二里の位置を占めて今は秋晴のもと業務に服従、恙無く完ふ致し居る状態。山間の地故外傷甚だ多く耳鼻、婦人科に至る迄活躍、花柳界の方々相手故、其の方面に對する心臓も又仲々のもの。(否此れは技術ですぞ)

### 神山敏雄

相變らず戦傷兵の治療に従事致してゐます。當地は此頃専ら骨傷治療の増加でおかげで按摩がうまくなりました。満洲の田舎に来て既に滿二ヶ年半になりましたが未だに満語は話せません。近くに辻岡君が來ましたが一度しか逢ひませんが何だかにぎやかな氣がします。先づは近況まで。

### 布留文雄

田舎へ引き籠つてから最早三年になり二兒の親父となりました。

### 明樂治部輔

五月應召以來未だ大阪陸軍病院に残つて居ります。當院は直接患者を收容致しますので各方面の患者が雜然と入院いたして居ります。病症日誌上にて出征同窓軍醫の名前、記事を時々發見致し懐しく思ひ、其の奮闘を偲ん

で居ります。

### 松井八郎

近頃めつきり寒くなつて比叡の上にも雪が見えて居ます。例年より大分早い様です。銃後を守るは健康第一と始められた町内一同のラヂオ體操にも一家總出で霜を踏んで參加して居ります。前線に出動の日を待つて居ますが、何時の事やら。

### 牛久昇治

會員中五十餘名の應召者のあることは同窓會の無上の光榮であると共に應召各位に對し衷心より敬意と感謝の意を表し、併せて武運長久を祈ります。

### 中村次郎

大阪で一開業醫として働いてゐます。家庭は妻、女兒二人。此點だけは恩師と同じで辛くも御名を辱しめないだけ。同窓五十餘名の出征勇士の御辛苦に心からの感謝

と御禮とを申し上げます。

林 克 巳

昨今滿洲より東京に轉任致し武運の拙きを啣つて居ります。日常書類等で諸兄の尊名を拜し御活躍の程を偲むで居ります。

中 山 一 郎

着任後既に一年餘御蔭にて無事消光致し居ります。貧弱乍ら外科開設の設備も今は全く完了致し愉快なる勤務を續けて居ります。當工場従業員は工女二千名、工男二百名にて工場員のみ診療にて純然たる工場醫生活であります。従つて衛生、豫防醫學の知識を要しますが此の點素人の小生而も設備もなく只消極的態度に出でるの外ありません。家庭も今夏長男の生誕ありて多少賑やかになつて來ました。亦附近には日赤もあり十回生板橋剛氏の御援助を戴いて居ります。

高 橋 眞 雄

當方幸ひ無事に勤務して居り、此の夏長女をもうけたる他は相變らずの有様です。御出征の方々を初め皆々様の御健勝御祈り申し上げます。

戸 田 四 郎 平

戦地におられる皆様には御變りもなく國家のためお務め下さいます深く感謝致しております。

古 川 明

二月應召以來臨時東京第三陸軍病院に勤務して居ります。戦傷兵の病床日誌上で戦地の同窓會員に多數御目にかゝつてゐます。當院には現在伊藤原君、小柴君も勤務してゐます。前田先生、佐藤太平先生其の他多數の方が見學慰問又は患者の護送で來られました。東京に住んで居乍ら軍務多忙の爲醫局に無沙汰して何とも申し譯ありません。(十一月十五日)



## 玉村 一雄

大學院學生とは名のみで昨秋來引續き軍醫學校診療部で學生とも部員ともつかぬ勤務をしてゐます。井手先生も此處では囑託として活躍せられてゐます。全國からの特別な患者の集りで色々變つた患者が居りますし手術も多く極めて多忙です。こんな有様で來年三月には譯の分らぬ卒業をして終りそうです。

## 横山 虎雄

刀林の發刊に當りまして茂木先生の御健康を祝し同窓會の皆様近況を御知らせ致します。私が中島飛行機附屬病院に参りました間もなく三年になります。此の事變の爲め會社従業員が激増しまして現在では當時の五倍位に達して居ります。従つて病院の方も非常に多忙となり茂木先生に無理な御願ひを致しまして吉岡君、小林不二夫君、奥山君と同僚三人を迎へました外に本年卒業

の一名を加へ都合五名となりました。然るに小林君、奥山君が應召されて各々中支に北滿に活動されて居るので現在は三人でやつて居ります。三箇所診療所があるの各分擔して、軍の要求を満すべく不眠不休で活動してゐる従業員並其の家族の診療に遺憾なきを期して大車輪に働きつけて居ります。

此處で製作された機は直ちに第一線に出動し南京に廣東に又漢口へと新鋭機となつて大活躍をして居るので、従業員健康状態は直ちに製作能力に影響する事甚大であり、従つて軍の作戦に迄影響する事を思へば銃後とは申せ第一線に立つた積りで懸命の努力をして居る次第であります。此の事變に活動して居る發動機の大部分は中島の製作にかゝるものである事は皆様も御存じの事と思ひます。

此の十一月には群馬縣太田工場の附屬病院が開院する事になり先輩渡邊先生が赴任されました。東京太田の兩病院を合せまして慶應出身者が五十名となるのも極く最

近の事と思はれます。社會狀勢の變化につれて産業醫學が次第に一般の注視する處となりました爲め醫業の此の方面への進出は今後相當重要視すべきものと考へられます。

### 濱野碩太郎

晩秋の候となりました。平素は誠に御無沙汰して居ります。

茂木、木村、前田先生を始め會員諸兄には益々御勇健にて御活動の御事と拜察してゐます。

本春には京部に於て木村先生、整形の前田先生を始め會員諸兄の御奮闘を眼のあたりに拜見し、近年にない感激と喜びでした。

これにひきかへ茂木先生には御不例にて御参加なかつた由で一段と淋しい心持でした。

教室を辭して草深い片田舎に配所の月を眺めて十數年になる小生に取つては諸先生にお目に懸り親しく御教示

を仰ぐのは何物にも變へ難く、會員諸兄の學會に於ける御奮闘を拜見しては學へ對する憧れを抑へ難く、誠に嬉しい數日でした。

今春來、牛の歩み遅々ともにて、少しづつ勉強を始めました。只今の處では月に數回京阪に通學して居りますたどたどしい歩みですが意義のあるその日を送りたいと念願して、今後種々厄介な御教示御力添へを仰ぐことが多くあるだらうと思ひますが會員諸兄にはこの後學のためには御指導下されんことをお願いいたします。

終りに、速く出征をして居られる會員諸兄の武運長久をお祈りし茂木先生を始め皆々様の御健康をお祈りいたします。

皆々様へ宜敷申上て下さい。

### 今井光

紅葉の晩秋の雨に打たれ冷たく地上をうづめ、見知らぬ小鳥など來て残り實をつひばむ、わびしくも生きてゐ

る事の感傷をしみじみ身に感ずる頃になりました。

醫局の皆々様は其の後相變らず御元氣にて活躍してゐられる事と存じます。私在中は一方ならぬお世話になり心から有難く御禮申あげます。早いもの懐かしい醫局を去り故里に來てから最早三ヶ月を過ぎました。

晴れるにつけ降るにつけ醫局で愉快に自由に過して來た時の事を想ひだして居ります。田舎は吞氣ですが退屈です。

醫局の先輩方が多數に出征されて居られるのに不幸にして未だ召集が來ずに居ります。併しいづこに於ても生活の道、人世の道を教へられた慶應醫學に對して心からそれはづかしめない様に覺悟をし感謝をして居ります

いつも筆不精にてお無沙汰ばかりして居りますが上京の際は必ず皆様にお目にかゝり醫局の空氣にも觸れたいと思つて居ります。こうしてペンを持つて居りましても懐かしい皆様の事、あの時の事、この時の事、色々想ひ出はつきづに流れて來ます。

これから段々氣候も不順になつて來ます、どうぞ御健康に注意され一層御奮闘あらん事を。

末筆ながら

茂木先生の御健康を祈り

諸先生初め醫局みな様の御發展を祈りつゝ

### 遠山一郎

醫局の諸先生初め會員諸兄の益々御清勝の御事と悦び居ります。小生去る十月十日軍醫豫備員としまして弘前に入隊し十月廿五日に弘前陸軍病院に復歸を命ぜられて現在に到つてゐます。入隊以來早くも五十餘日を経まして廿日餘りにて除隊致す事になつて居ります。此方に來ましては會員の方には全く會ひませんでした、十一回の佐々木氏が弘前の陸軍病院に衛生一等兵として居られましたのに初めてお目にかゝり久し振りにて四谷の話も出まして愉快でした。氏は先日見習士官となられ出征せられました。氏はギネで居られるさうですが四谷で磨いた

テクニクにより外科で手傳ひ等せられてゐた様です。尙小生入隊中は整形の森田先生に留守番をして頂いて居りますので全く安心して勤務いたしてゐます。之は一に前田教授の御厚情によるものと毎日皇居遙拜に當り先生に感謝いたしてゐる次第であります。

### 成松清敏

先づ艱苦缺乏に耐えつゝ戦線に御活躍の會員諸兄に滿腔の感激と感謝を捧げ度いと存じます。偕て今事變以來産業報國の運動澎湃として起り殊に出發強調の重要性益々急なる爲めでありませう。小生産業第一線の診療に従事して以來、既に十五年になります。今年程の炭況活氣ある年を見なかつたのです。従て之に伴ふ犠牲者も相當多數あるわけで、それ等診療に不相變微力を致して居ます。先は近況御知らせまで。

### 加藤銀治郎

醫局を離れて滿六年。今春内地留學生として細菌教室

に籍を置く様になり、屢々醫局にも顔出し出来る様になつて嬉しい。時の流れか。醫局には昔なじみの者は少く氣分も大分變つた事が目に付く。然し新進氣鋭の諸士が多くの出征者を出したにもかかわらず各方面に活潑に研究をつとけつゝあるのを見て、慶應外科醫局萬歳を叫ぶ。

★

★

★

★



## 同窓會記事

本年度は別欄に弔意を表してあります様に四名と云ふ前例なき多數の會員を失ひました。一面此の事は會の成長を物語るものかも知れませんが、國家多事にして本會としても益々活躍をするべく要望されてゐる際に斯くも多數の而も有力なる會員を失つた事は悲痛の極であります。繰り返し茲に哀悼の意を表す次第であります。

日支事變も益々戦果を擴大し、本會よりも五十名に及ぶ優秀なる會員を送つて居ります。此の數は本會の四分の一に相當して居ます。一つの團體にして斯く多數の出征者を送つて居る事は全國にも其の比を見ないかも知れません。出征會員諸兄の御奮闘と御健康をお祈りするものであります。

昨年今事變應召會員後援費として銃後會員諸兄に御寄附を願ひ上げました所、直ちに御同意を戴き多額の御寄附を賜はつた事は厚く御禮申し上げます。次に其の御芳名を記して謝意を表します。

(順序不同、現在在局會員ヲ除ク)

茂木藏之助	木村博	前田和三郎	森信彦
犬養六郎	中村復一郎	近藤宗彦	弓削中
松井八郎	森山成一	今井金治	相見三郎
明樂治部輔	神山雅臣	酒井欣朗	高巢三四一
關市衛	大庭國紀	君塚正	阿部貞治
桑野鉄四郎	篠原靜夫	大塚廣	吉岡勝衛
森文雄	中村武重	島田信勝	久崎章
奥山俊夫	郭在禧	辻岡浩	加納保之

毎年に變らず本年も同窓會諸兄より醫局へ種々各地の御名産を戴きました。其の都度お禮を差し上げて居ります筈で御座りますが、或は手落ちがないとは云へませぬ。誌上を借り厚く御禮申し上げます。

# 昭和十三年度同窓會會計報告

前年度繰越金		本年度支出内譯	
本年度收入	一、〇五三・五二	出征會員餞別	七五〇・〇〇
本年度支出	一、七二四・六九	出征會員慰問及壯行會費	八三・七六
差引(支出超過高)	六七一・一七	刀林(十二年度)費用	三二八・九〇
本年度繰越金	二、一七六・三四	刀林(臨時號)費用	一一一・三三
内譯		會長令嬢結婚御祝	二六〇・〇〇
安田銀行預金	一、五一六・三四	香奠	一三〇・〇〇
振替貯金預金	五六九・一六	萩尾、高木、片柳、森信彦君	
振替貯金基本金	一〇〇・〇〇	大槻(父母)、長坂(父)、加藤銀(父)、布留(母)君	
現金	八〇・八四	通信費及雜費	六〇・七〇
本年度收入内譯	一、〇五三・五二		
同窓會費	七八二・〇〇		
同窓會員寄附	一四一・〇〇		
銀行及振替貯金利子	三〇・五二		
會長令嬢結婚祝返禮	一〇〇・〇〇		

昭年十三年十月三十一日

整形外科 同窓會會計係

鵜澤敏三

本年度同窓會役員

會長 茂木藏之助先生

副會長 木村博先生

同 前田和三郎先生

評議員 (いろは順)

犬養六郎君 岩原寅猪君

大庭國紀君 大會根幾次郎君

上石英造君 神山敏雄君

竹下貫一君 梅村六郎君

山本順君 町田謙二君

佐藤太平君 篠原靜夫君

百溪定七郎君

島中卓助君

鎌田竹次郎君

横山虎雄君

柳莊一君

藤原道純君

土方久顯君

以上十九名





學  
術  
欄

日本醫科器械學會總會 (昭和十三年四月四日) 於 京大法經第六講堂

(特別講演) 整形外科用器具に就て

日本結核豫防協會講習會講演 (昭和十三年十月二十日) 於 慶大平面講堂

結核の外科其ノ一、骨結核

第三九回 日本外科學會總會 (昭和十三年四月二日ヨリ四日迄) 於 京大法經第一講堂

一、葡萄狀球菌「アナトキシン」及同菌坑毒血清による該菌感染疾患と療法 (第一日)

二、虫様突起炎成因としての Schwartzman 氏現象 (第三日)

三、實驗的腸管過敏症の研究 第一報 家兔に於ける研究 (第三日)

前田教授

前田教授

小平正

渡邊治生  
木村將義  
山口恒造

第十三回 日本整形外科學會總會 (昭和十三年四月二日、三日) 於 京大工學部第一共同講義室

一、淋菌「ワクチン」(傳研製)を抗原とせる

淋毒性關節炎の皮内反應に就て (第一日)

島田 信勝

二、「ミエログラム」の解釋に關する研究

(二) 脊髓腫瘍の「ミエログラム」(第二日)

小泉 次郎

慶應醫學會第十九回總會 (昭和十三年十一月九日) 於 北里圖書館

術後急性性肺虛脫症の一例

百溪定七郎

外科集談會 (於日本醫師會館)

整形外科集談會

第三六五回、三六六回、三六七回 出演者なし。

第九七回 (昭和十二年十二月十三日) 於日本醫師會館

第三六八回 (三月十八日)

高度なる下肢痙性麻痺の手術的處置に對する考究

高位小腸瘻患者によつて見たる

前田教授

消化及脾臟機能に就て

若林研爾

第三六九回

第九八回 (昭和十三年二月二十八日) 於遞信病院

「メツケル」氏憩室を内容とせる

院 以上演者なし。

笹頓「ヘルニア」の一治驗例

山田庸夫

第三七〇回ヨリ第三七四回迄出演者なし。

第一百回 (同年九月十八日) 於東大整形外科南講堂

一、剖檢上より觀たる頸椎頸髓損傷知見補遺 西 新助

- 二、黄靱帶肥厚に依る脊髄神經根壓迫症例 安齋 直
- 三、先天性筋性斜頸に觀る腫瘤の病理組織學的所見 島田信勝 今井秀雄

### 抄 讀 會

#### 第一二五回 (昭和十二年十二月十四日午後四時)

於階段講堂

- 一、虫様突起斷端處理に就て 高 和 君
- 二、末梢神經損傷手術の遠隔成績 岩 崎 君
- 三、稀有なる感染經路をとれる破傷風の二例 吉岡 君
- 四、「アレルギー」の定義 渡邊(治)君

#### 第一二六回 (昭和十三年三月七日午後五時)

於階段講堂

- 一、腹膜患者は何によつて死するか 奥 山 君
- 二、手術上の膽道造影及び「フアター」氏乳頭の膽石の診斷 名 倉 君 小 島 君
- 三、感染。炎傷。血栓。

#### 第一二七回 (六月十三日午後五時十分)

於階段講堂

- 一、急性虫様突起炎 内 野 君 茂 木 君
- 二、新見解による「マスト・パチア・クロニカ」

#### 第一二八回 (十月十三日午後四時) 於階段講堂

- 一、(1)先天性股關節脱臼の早期診斷と早期治療の問題 (2)先天性股關節脱臼の特發性整復十例に就て

二、胃峰窩織炎に就て

三、胃切除術の技術に就て

#### 第一二九回 (十一月二日午後五時半) 於階段講堂

一、「グリオノイローマ」及び「スボンギオノイ

ロブラストーマ」大脳に原發せる神經外胚

葉性腫瘍の形態

二、大槽部皮下誘導管の研究

三、交通性腦水腫症の手術的療法

四、(1)炭酸瓦斯療法

(2)糞瘻の「リビョドル」療法

### 外科教室より出たる文獻

乳腺結核(左側) (圖説)

(臨牀畫報第九卷第五號)

虫様突起炎の臨牀的分類

(治療及處方第二一號)

「フィラリヤ」虫に依る淋巴腺腫 (圖説)

(臨牀畫報第九卷第四號)

小 泉 君

木村(知)君

津 留 君

堀 越 君

西 川 君

石 川 君

鶴 澤 君

茂 木 教授

同

同

同

麻醉に就て

(診断と治療第二五卷三號)

町田謙二

火傷に就て

(臨牀の皮膚泌尿と其境域第三卷第五號第二十冊)

同

腸結核の合併症

(醫學輯覽臨時増刊、合併症とその處置)

同

酸性及「アルカリ」性食餌の創傷治癒に及ぼす

影響に關する實驗的研究

(日本外科學會誌第三八回)

渡邊治生

急性腸間膜動脈性十二指腸閉塞症

(日本外科學會誌第三十九回六號)

渡邊治生

膽汁性腹膜炎の一治驗例及膽汁瘻整形手術に就て

(外科第二卷第六號)

瀨尾省三

虫様突起壁神經の組織學的(特に微細構造並に司配に就

て)及病理組織學的研究

石川七郎

余の考察せる小型硬度計に就て

(日本外科學會誌第三九回第四號)

井手行乎

(醫科器械學雜誌第一五卷)

久崎 章

甲狀腺癌を合併せる淋巴肉腫症の一例

(グレンツゲビート第十二年)

橋本文吾

大塚 廣

葡萄狀球菌「アナトキシン」に依る葡萄狀球菌感染疾患の

療法。附同菌抗毒血清に依る療法

(細菌學雜誌第五一一號)

小平 正

急性原發性盲腸炎

(日本外科學會雜誌第三九回六號)

同

家兎に突發せる特發性虫様突起炎の一例

(日本外科學會雜誌第三九回六號)

同

### 整形外科教室より出たる文獻

脊髓性小兒麻痺の合併(後胎)症

(醫學輯覽臨時増刊「合併症と其處置」)

前田教授

脊椎「カリエス」の鑑別診斷

(診斷と治療臨時増刊「臨牀上最必要なる疾患の類症鑑別及検査法」昭十二、十一、一)

同

外科學。脊髓・脊椎・交感神經の疾患

(日本醫事年鑑「日本に於ける診斷及治療界の展望」昭和十二年度)

同

絞扼性膿胸による胸壁塞性膿瘍

(診斷と治療第二五卷第八號)

同

後頭下穿刺法の普及を望む

(日本醫師會雜誌十三卷十二號)

同

整形外科器具に就て

(醫科器械學雜誌第一六卷第三號)

同

(「外科」第二卷七號)

大腿骨外側頸部骨折(特に轉子間及び轉子部貫通骨折)

の悲觀血的治療經驗

(「外科」第二卷第二號)

島中卓助

加納保之

「キヤデー」の脊柱彎曲に就て

(日本整形外科學會誌第十二卷第六號)

吉野史郎

人體脊髓神經根の電氣的並びに機械的刺戟所見の

臨牀的考察

(精神神經學雜誌第四二卷第九號)

野崎寛三

森田正朗

先天性脊椎骨(腰薦部)骨融合症の一例

(日本整形外科學會誌第十二卷第八號)

小泉次郎

開放せる脊髓硬膜の運命に關する研究

(日本整形外科學會誌第十三卷第一號)

同

鎖骨「カリエス」の一症例

(日本整形外科學會誌第十二卷第八號)

郭在禧

日本人の後頭下深程並にその豫測法に關する研究

(日本整形外科學會誌第十三卷第二號)

大内正夫

淋菌「ワクチン」(傳研製)を抗原とせる淋毒性關節炎の

皮内反應に就て

(日本整形外科學會誌第十三卷第三號)

島田信勝

頭蓋骨腫瘍(「プラスモチローム」及び「ヒペルネフロ

ム」)の二手術例

(日本整形外科學會誌第十三卷第一號)

西平賀健

肥厚硬化せる黃靱帯に依る脊髓神經根壓迫症例

(日本整形外科學會誌第十三卷第四號)

安齋直

先天性橈尺骨融合症の三症例

(日本整形外科學會誌第十二卷第七號)

西新助

弓削中

前頭骨骨髄毒の二症例

(日本整形外科學會誌第十二卷第八號)

田邊重信

# 報國活人劍

## 醫局近況

「外科より」

茂木先生には昨年來微恙を得られたが最近には全く御恢復され倍舊の御元氣を以て日々御診療に或は又我々醫局員の御指導に精勵されてゐる。殊に本年八月には先生の畢生の御事業とも云ふべき虫様突起炎の研究に對し啓明會より獎學金を得られたのは特記すべき事であらう。我々は先生の驥尾に追從するに汲々たるものではあるが而も尙愚鈍の誠を盡して微力乍らも先生の御事業に御助力申し上げ年來の師恩に報はんことを期して居る。

木村先生も益々御元氣で最近はアツペの小切開手術に就て努力され殆ど二糶内外の手術創で處理されてしまふ。これにつれて醫局員も餘り大きな創で手術するのが恥しい様な氣がして段々と小さい創を眞似する様になつたが及ばざる事尙遠い。先日木村先生の手術された某患者が郷里の某醫大の診療を偶々受けた際、其の創を見てこれでアツペを切除したとはおかしい。欺されたのぢやないかと云はれたとか、又快なる哉。

醫局の内部は相變らず十年一日の如く變らない。最近變つたと云へば時計の横に同窓會員應召者の名前を列記した紙が見られる位だ。この紙も始の間は短かかったが段々と長くなり現在では片隅から時計の所までとどいてしまった。醫局員の名札の上に日の丸の張られてゐるのは應召者である。出張してゐる醫局員もあるので現在では在局助手外科十一名、整形五名と云ふ淋しい状態で昔日の偉もな。されば一打のビールが二日もあつたり、お晝の御馳走のおすしが夕方まであつたりしてゐる。しかし一同は半減すれば倍働き、三分の一になれば三倍働けば良いと云ふ心掛けで張り切つて居る。

外來診察室の状態も殆ど變らない。但し最近の水曜日の部長初診がやめになつて町田助教が之に代つて居られる。

中野の小俣氏から『ゴンちゃん』と名付けられた猿を一匹寄附して貰つて外來の中庭に飼つてある。

此の猿は子供が嫌ひで子供を見るととても暴れて手に負へない。しかし近頃は大分落着いて來た様だ。皆から御馳走ばかり貰ふので好物であるべき握り飯等には目もくれない。

病棟は本年正月以來今迄になく入院患者が多く、毎年患者數が減る夏中も減る所か満員になつた程だ。患者はやはりアツベが多く大半を占めて居る。昨年は胃癌が多かつたが今年は割合少い様である。格別に稀有な疾患はなかつた様に思ふ。

# 信愛

「整形外科から」

前田先生には相變らず御元氣で講義に、診察に、學會に、扱ては時折晴嵐莊へ出張されるかと思へば雑誌「外科」の編輯等仲々御多忙の日を送つて居られます。益々深刻味を加へて行く事變下銃後の務もかくあれと一入の馬力をかけて居られるやに御見受けされます。前田整形外科学も初版以來二年に満たざるに第二版の發行となつた事は、専門書として時代の要求切なるものがある事を物語るものでありませう。岩原先生も應召されて一年半近くなりますが、其の後教室員も續々應召して現役はつひ此間迄は私共五人でありましたが、最近高橋、中井兩君を迎へて七人になりました。中井君は滿大松井外科から二ヶ年の豫定で整形外科研究のため留學に來られた方です。私共一同應召された諸兄の留守居を承つて張切つてやつて居る次第です。

扱て外來患者は事變の餘波を受けて非常に増加しあの廊下に溢れる始末、随つて入院患者も殆んど満員續きの盛況です。

外來診察は相變らず月、水、金曜日が前田先生の御診察日であり、火、木曜日は野崎君が、土曜日



は小泉君が診てゐます。永らく主任でゐた田村君はよき家庭の主婦となつてから一年餘りになります。其の後は西郡君が萬端を主任として切廻してゐます。診察室には先生の筆になる「信愛」の額がかゝげられ、小泉君の畫かれた山茶花の油繪が趣を添へてゐるのは御承知の如くです。

近頃始めた新しい手術としては側腦室穿刺による「ヴェントリクログラフイー」を數例に行ひ何れもよく目的を達した事、腦腫瘍の數例の手術があつた事等思ひ出します。

第一治療室では今年二月以降野村君が辭職して以來、中山君を筆頭に五人の技術員がこれも亦増へた患者を相手に毎日汗ダクで「マツサーヂ」をやつてゐます。

機械室には人氣者の整形外科保育園があります。子供達のよいお友達と云つた感じの門村保母は引退されて四月から香田保母が代つてやつてゐます。子供達のお母さんと云つた感じのする人ですが子供等はよくなつて仲々の賑やかさです。午前十時頃にはピアノの伴奏で可愛いゝ唱歌が聞えます。

アノ町、コノ町、ドノ町モ

オ空ニヒラ〜日ノ御旗

オ一送リマセウヨ兵隊サン

皆デ揃ツテ萬々歳

標本室は相變らずですが、あの流し場で「フォルマリン」の香ふ脊柱を手にして研究されてゐた高

木先生を思ひ出さずには居られません。

義肢研究室も事變のため真に多忙で柴君は此の所眼をまわしてゐます。

最近整形外科外來へ行かれた方は受付脇の廊下に掲げられた一幅の典雅な日本畫にお眼が止る事と思ひます。これは畫家西村廣耕氏の筆になるもので、海邊に外科醫の祖と謂はれる大國主命と赤裸身の兔とが描かれてありますが、前田先生に伺へば宿痾に惱める者の訴をきいてそれを慰める所の趣を表したものと、この事で誠に先生の御心の床しさがしのばれると思ひます。

同仁會 中支 派遣 第二診療救護班

同窓會瀨尾君を班長とせる本班は四月二十六日東京驛出發、其の後上海市を根據として活躍されてゐることは新聞紙上にも屢々報道された所である。同窓會からは他に小平君が參加され、又看護婦には手術場の石合君が加つてゐる。次に本班員の御氏名を掲げ今日までの御努力に敬意を拂ひ、我々の感謝を捧げる。

藥局長	齒科	耳鼻科	眼科	皮膚科	同	内科	同	外科	調査	班員 産婦人科	班長 外科
田邊定吉君	鳴海尙彦君	富塚明君	平澤英司君	大森周三郎君	高橋昇君	大竹巖君	西原敏男君	小平正君	桑島謙夫君	中村勝君	瀬尾賓三君
同	同	同	同	看護婦	看護婦長	同	同	事務員	事務長	調劑員	
高橋マツ君	清水和子君	中村京子君	柴山京君	石合壽子君	古川のお君	角掛實君	大山正一君	延原謙君	米倉又記君	多田新次郎君	
	運轉手	助産婦	同	同	同	同	同	同	同	看護婦	
	茂木松雄君	井川てる君	田村なを君	山田ミヨ君	大畑あき君	寺田つき君	猪瀬掬江君	渡部クマ君	申田ゑつ君	富安松枝君	

文藝欄

善通寺便り



岩原寅猪

嚴寒の砌茂木、木村、前田三先生を始め醫局員御一同は愈々御清祥の御事と存じます。

少い人手で多い患者を御診療で御繁忙御骨折れの御事と推察致し、公用とは云へ自分の居合はさぬ事を心苦しく感じさへ致します。

昨夏應召以來既に一年餘、戦局は益々發展して行き何時果てるとも知れない現況で御座います。吾々の傍からも次ぎ／＼と出征して行きます。歸學の日の豫測は全く付きませぬ。今は一途に自らの持ち場を守つて自己の最善を盡すのみであります。

當病院では相變らず仕事に恵まれて日々を有意義に過して居ります、現在〇〇師團が〇〇して居る

關係上新患者は少いのですが最近○師團、○師團の患者を收容致し仕事は一入増しました。相變らず  
神經損傷患者は絶へません。關節成形、假關節成形等をも行つて居ます。戦時内地陸軍病院外科の仕  
事は整形外科が其の大部分を占めて居る傾向です。

末筆ながら御健康を御祈りいたします。

★

★

★

★

★

★



## 同仁會中支派遣

### 第二診療班便り

小平正

上海到着後約二週間は照井少尉の病院の近くの兵站病院内に起居が班長は事務上の事で殊の外忙しく此の所聊か瘦せた様に見受けられますが全班員の信望は勿論他班の噂も大變良く吾々一同喜んで居ります。

開院間もなく「コレラ」大流行で全員毎日雨の中や酷暑の中を出張豫防注射を始めて居ります。黃浦江兩岸の碼頭に陣取つて軍に協力強制注射を行つたり、自動車で走り廻つて街頭で防疫したりして二週間程の間に數千名の人に施しました。共同租界の内部で數百名の「コレラ」の發生に比し日本占領地區内に於ては極めて少數で一同自慢の態で御座います。現在吾々の病院は南市の黃浦江岸にあり以前は上海市立滬南醫院と云つた病院で赤煉瓦四層樓の堂々たるものですが診療器具は殆んど残つて居らず、最近X線から検査室の道具まで全く完備し大學病院の體を具へました。附近は猛烈に爆撃せ

られて居りますが此の病院のみ故意に残された模様です。

別棟の病棟には約三十名の入院患者があります。尙分院は南市城内と黄浦江對岸、浦東とあり班員交替で出張診療を行つて居ります。班員は少い爲毎日多忙を極めて患者總數は一日に最近六〇〇名を越える事があり益々増加の傾向です。最近支邦人も非常に當病院を信用し大變な評判で御座います。アツペは自宅で加療するらしく十名近く診ましたが何れも膿瘍形成で二例手術を行つたに過ぎません。肝臓の刺創で大出血のあつた患者を二週間で全治させたのが大手術の手始めでした。目下其の患者は恩義に感じて無給で病院に通譯として勤務して居ります。

日中の治安は嚴に保たれて居りますが夜間は強盜が可成り横行するらしく屢々猛烈の開放骨折に悩まされます。

本部からの話では大手術など無いとの事でしたが事實は全く相反して機械類其他の品の不足で困る事があります。色々の家具等を利用、細工をして牽引療法や骨接合法を試み大體良好の成績をあげて居ると自負して居ります。

患者は軍使庸の苦力の外傷、支那警官の銃創等が多く、甲狀腺腫、象皮病も見られます。尙骨結核も多く、患者數から云へば皮膚病が最高で靜脈瘤が原因する下腿潰瘍が澤山あります。

數日試みに普通の絆創膏をグル／＼巻き付けて置きました所極めて成績良く勞働を續けながら治つ

て行くのは面白い程です。内科方面はチフス、赤痢が可成り流行して居て赤痢は志賀本菌によるものが多い由です。コレラ患者は病院前の廣場に數名隔離して收容して居ます。

内科では菌の培養をして各種疾患を可成り正確に決定して居り、外科も出来るだけ摘出し標本を作り検鏡を行ひ又普通寫眞も相當撮影をして澤山の土産をと心掛けて居ります。

私共の生活は朝當地の五時半に起床、六時に全員屋上整列して皇居遙拜、ラヂオ體操、九時診療開始、午後三時終業、夜七時會報と稱して一堂に會し、相談報告等あり、九時消燈と云ふ日課を規律正しく行つて居りますが外科、内科は屢々特診に引つ張り出される事は東京と同じで御座います。軍特務部でも私共の生活が軍屬として辱かしからぬものだと言ふ程で御座います。

瀬尾班長も私も先生の書を額に納めて掲げて居りますが、先日某支那人訪れ來り「殺人劍殺惡人、活人劍治善人」と筆談して行きました。

上海市街とは厄介な佛蘭西租界により界せられて居る南市の事故市街に出るのも月一、二度で而も日中に限られて居ます。夜間の歩哨警備は非常な嚴重であります。

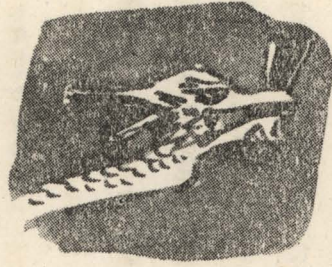
班員一同品行は驚くべき程良好で先生方の御注意も一同忘れて居る程の状態で此れに超したる事なしと存じ居ります。

茂木、木村、前田三先生始め醫局員御一同の健康を遙に御祝し申し上げます。



## 再び同仁會中支派遣

### 第二診療班に歸りて



瀬尾 賓 三

先般上京の折に茂木先生の御元氣の御姿を拜し嬉しく存じました。尙木村、前田兩先生始め醫局員一同益々御元氣の様子で此も亦同様衷心から喜ばしく存じました。

又滯京中はいろ／＼御配慮御慰勞を戴きまして有難く感謝致して居ります。

上海歸班の折は班員一同に大變結構なる慰問の品頂戴致しまして厚く御禮申上げます。四日無事に歸班致しまして今回の上京の大體の話を一同に致しました所、大喜びにて兎に角有終の美をなすべく一層の緊張と努力をいたすべく心掛けて居ります。

右乍簡略御禮旁々御通知まで。

## 岩手縣遠山醫院臨出張通信

森 田 正 朗

えぶたい(煙) い  
おが、る(成) 長)  
おどげ、(下あこ)  
おきやる(倒る)と)  
おどがる(目の覚むる)  
おやぐ(親) 族)  
おこなじよ(鬼て、こ)  
おどさ(父) )  
おかさ(母) )  
おかわ(便) 器)  
おふるめえこ(まゝごと)  
がいだが(毛) 蟲)  
からげねやむ(骨惜しみ)

其後教室は益々御多用の事と存じます。此ちらへ参りました二、三日は遠山君の入營を祝して村人が毎日大勢押しかけて來ると、此ちらの診療様式、X線撮影法等を覺へるのに忙しく、何んだか莫迦に疲れてしまひました。したが遠山君も出發してしまふと後は外來患者が來るばかりで至極靜穩です。

入院患者は十五、六人位ですが附近に金山や其他の鑛山が多いので骨折が主で上肢、下肢、鎖骨、脊椎等の諸骨折の見本が揃つて居ります。

其他に股脱、「カルブンケル」、淋毒性關節炎も居ります。外來では殆んど各科の患者が東京から來た名醫(?)の診察を乞ひに來ます。「ゼイタミン」A不足で失明に近い子供や肺炎で全く元氣のなくなつた子供、「シャイデンスビューリング」をせねばならぬ可哀想な幼児も來ます。耳鼻科の患者も三人

程來て居ます。

此ちらは生活様式が低いので十人中八九人まで垢にまみれて患者は何れも異様な臭氣を發散させて居ます。おまけに風呂に這入るのが嫌ひらしく手や足には厚い「苔」が生えて居る有様で「マツサージ」をしてやりますと手の掌の皮がザラ／＼として來ます。然し何れも醫者をつつかり信用して居て尊敬される事神様の如くです。

「オジギ」は實に丁寧で頭が地に付くと思はれる程です。患者は毎日ボツリ／＼とやつて來るので結局机に向つてまとまつた事をして居る時間はありません。時々往診に行きますが殊に昨夜は眞暗い山の中に呼ばれて行つて見ました所五十五になるお婆さん、東京ならば未だシャンとして白粉でも付けて居るのがあると云つた年頃なのにひどく老ひこんで皺だらけでした。そしてゲー／＼と生唾を吐いて居ましたが、聞けば一昨日「アスカリス」が二匹口から出て來た由、すぐ診断は付きまして面目を施しました。所がすぐ横に枕を竝べて垢で光るヨレ／＼の蒲團にくるまつて何んだか寝て居る様子で聞いて見ますと矢張り病人ですからついにて診て下さいと云はれましたので五燭位の薄暗い電燈を引つ張つてのぞき込めば娘さんでウン／＼と唸つて居ます。五日程前に島の中で働いて居る内に倒れたそうで仕事着のまゝで顔は泥と汗にまみれて眞黒です。熱を測ると四十度五分あり、頭痛と腹痛があり、腹壁も緊張して居ます。同時に頸部強直もあり又「ケルニツヒ」もある様です。何んだか良

く判りませんでしたので「カンフル」注射と水枕をあてゝ歸つて來ました。

遠山醫院には有名な膏藥がありまして村の名前を取り「横田のお膏藥」と云はれて居ます。先日も十數里の山の向ふから五十歳位の男が診察を乞ひに來ましたが肩胛關節周圍炎でしたがつかり習ひ覺へた通りの療法と注意をしました所、何んだかひどく不服らしく膨れ返つて居りました。ふと思ひ出して「お膏藥」を肩胛部に貼付しました所大層喜んで此の地方の訛で申しますには「此のお膏藥は實に良く効く、しかも患部なら吸ひつく様によくつくものである。自分は此のお膏藥を貼つて貰ふ心算で來たが此處の鬨を跨ぐともう肩の痛みが取れた様な氣がする。後で又葉書で注文しますが其の節は送つて貰へるか何うか」と眞剣な面持ちで申して居りました。原料は何か知りませんが實際よく効く様に思はれます。

又「シーネ」は獨特のものでありまして杉の皮を日本紙で包んだものを用ひます。濕布を用ふべき所には前に書きました「お膏藥」を貼つて居ます。従つて初めは随分心細かつたのですが、膏藥の上に濕布をして其の上に「シーネ」を當てゝ居りますが其れで充分治つて行く様です。

今迄教室で患者を診て居りました時とは異つて兎も角も自分一人で責任を持つて治療して行く様になりますと事毎に疑問や不明な點が湧いて來ます。心細いと云へば正しく心細い限りですが患者が少しでも快方に向ひますと自分の力で治してやつた様に感じて嬉しく思ひます。

教室は大層人手が少く御困りの事と思ひます。向寒の折皆々様の御自愛を切に祈ります。

## 萩尾君を憶ふ

山口恒造

萩尾又八君よ、君と永遠の別れをする日がこんなに早く來るとは思はなかつたぞ。君が郷里にあつてそんなに迄重症に居られた事を知らなかつたのは全く申し譯けがない。

「ハギオマタハチシス」の電報が醫局に來た時丁度僕が居あわせて受け取つた。一瞬秋の風に似た寂しさが心を吹き通つた。全く起るべからざる事が起つた様な、そして又一方には起るべき事が起つた様な氣がしたのは奇妙な事だつた。

一昨々年君が北海道で病を得られたと云ふ事を旅行中の神山先生から知らせて戴いて君に歸郷をすゝめる長文の手紙を出した事があつた。君が長い返事を呉れて色々と苦しい事情を訴へもう少し頑張るつもりだと云つて來て僕は何だか薄氷を踏む様な心細さといらだちを感じた。しかし君の頑張りもそれから二ヶ月とは續かすその秋にはとうとう歸郷することとなり上京して來た。どんなにか窶れて

ゐるだらうと君の顔を見るのが苦しかった。會つて見れば以前と變らぬ元氣さうな顔だったが絶えず軽い咳嗽と痰に悩まされてゐる様子が氣になつた。

レントゲンを撮つて西野先生の御診察を受けた。

「當分國へでも歸つて靜養するさ」

と吐き出す様に云はれたのを今でも覚えてゐる。

ゼンクングを採つて呉れと云ふので僕が採つたね。何でも八十位あつた。君が北海道で診た時は七十だと云つたので僕は今は六十だと嘘を云つた。その時君は本當に嬉しさうな顔をした。一體ゼンクングの七十の所が六十であつてもそんな事は問題でない筈だ。そんな瑣細な事が君には大きな慰めになつたのは君はもうその時醫者ではなかつた。一個の素人になつてしまつてゐただね。

その日に藤田君に容態を西野先生から聞いて貰つた。あんな廣い浸潤が一年や二年で吸収すると思ふのかいと云はれたとか。これは君には云はなかつた。

次の日の特急で歸國すると云ふので大塚君と二人で東京驛に見送つた。君はいつも發車間際に駆けつけるくせがある。大塚君も僕もよく知つてゐたのでさつきと二人で座席を取つて待つて居たら流石に十五分位早く來たね。奥さんをデッキへ呼び出して君の容態の樂觀を許さぬを話してくれぐも無理をさせない様に頼んでおいた。

それつきりでとうたう君に會へなくなつてしまつた。

その後身體が恢復したから何處か樂な所があれば就職したいと云はれた話も聞いた。其の話で重盛君が大分心配して奔走した話も聞いた。

その後の事だつたのだらうか、君が村醫を務める傍ら開業されたのは。

それから何時君は倒れたのだ。何處で、どんな風に病と闘つてゐたのだ。其の二年間はさぞ君には苦惱多かりし月日であつたらう。しかし君は最後まで希望を捨てずに闘つたに違ひない。

三田の學生時代に君が倫理の試験を受けるのがいやだ、俺は一年落第する、皆先へ行つてくれと頑張るのを何だ、外の試験ならいざ知らず、倫理の試験などに棒を折る奴があるか、とにかく受けてみろと忘れもせぬときわの三十錢の天井をばくつき乍ら皆で勵まして受けさせた事がある。受けて見れば何の事はなく見事にパスして君は大いに喜んだものだ。あの事を君は覚えてゐるかね。此の話は君の面目躍如たるものと未だに僕等の間の語り草となつてゐる。

其の頃の君の憶ひ出を手繰ると僕の心は自らはすむ、しかし病を得られてからの事を考へると心は重くなるばかりだ、それだけに君に對する追慕の念は大きい、今一度以前の君に返らしたかつと思ふ。しかしもう總て事は了つた。悟のない僕に残された事は人間の約束の冷酷さに今更乍ら驚嘆し、そして恨むことだけだ。萩尾君よ、さよなら、希くば君の靈よ安かれ。



## 茂木先生御招待國技館大相撲觀戰記

K  
生

二月五日今日は茂木先生が醫局全員を御招待下さつての大相撲觀戰日であるが相憎く朝から陰氣の空模様で八時半頃からは雪に變つてしまつた。然し思つた程寒くなく一同大張り切りで喜び勇んで居る。吾々外科、整形外科醫局員の内では相撲救護に當り俺は初めて相撲を見たよ、なんて云ふ人も時にはあるが一年、二年と經つ内に何時の間にか醫局で若い連中を捕へてひとくさり相撲談義に花を咲かせて襤褸を出さぬ位の銚々たる(?)角通に變ずるから偉いもの。

然し事其處に至るまでには數々の面白い逸話が殘つて居る。現在醫局で自他共に許す角通を以て鳴る某君の如きは最初より己を知り救護に行つて力士の處置が濟んでも自ら決して名前を聞かない。此は單なる自己防衛からと云ふ點からではなく、少く共十兩以上の關取りの自尊心を傷け度くないと云ふ老婆心からとのであ





つた。で密にブレ君に「お名前は？」など、聞かせて御自身何氣ない風で全神経を兩耳に集中させて其の傍力士を仔細に觀察し、若し十兩以上と覺しき場合宛然試験勉強の如き眞摯なる態度で顔と名前を結び付けて記憶すべく努力した由だが、其れでも時々飛んでもない失敗を演じ今でも想ひ出すと冷汗ものと云ふ話がある。其れは射水川が幕内の中軸で元氣一杯に暴れ廻つて居た頃、耳に大きな「ヘマトーム」を作つて濕布だ「ブクチョン」だと毎日救護所へ通つて居た。某君救護の目型の君く處置を終りブレ君に「お名前は？」とやらせて例の如く耳を働かせて其の返事を聞き取り、力士は射水川なる事を確め、事此處に至らば大地を打つ槌は外れるとも此れこそ絶対に間違ふ事あらじ！と、「御大事になさい、射水川關、随分猛烈に稽古をされたんですね、此んな大きな血腫を作る位だったんだから」とか何んとか御世辭を云つたまでは大出来だったが、扱て此の射水川が首尾良く敵を土俵の砂に埋めて風呂を濟せ此れから御最負の旦那方へ御挨拶にでもと先刻の水々しい櫓落しを無造作にひつゝめた簡単な鬘に改めて再び救護所に現れて意氣揚々と「先生！頼みます」……此の時射水川は心の中で先程は射水川關とか何んとか呼んで呉れた先生だ、俺の顔を知つて居て下さるんだ、黙つて坐つてもピタリと患部の治療をして下さるだらう。と思つたか何うか保證の限りではないが……某君の細心の注意は不幸にも射水川が鬘を改めて風呂を濟せて綺麗になつてやつて來た爲に試験の一夜漬けの勉強の果無さにも等しく今は水泡に歸した。顔を見ながら射水川なる事が判らない、従つて何處

が悪くてやつて来たかも知らず思はず「何處が悪いんだい」と聞いてしまった。射水川も一寸異様な顔をして「此處ですよ」と耳を指示した。某君は「あゝそう」など云ひながら處置を開始し驚いた様な大聲をあげて「先刻射水川關がアンタと同じ様な血腫を作つてやつて来たよ」黙つて手當を受けて居た射水川もさる者、ニヤリ／＼しながら「先生！誰れですつて？」「ウン射水川關さ」「どうですかい、良く耳を見ておクンなさいよ先生！」で途端に想ひ出して某君「アッ！イケネー／＼」に側で聞いて居た連中やブレ君の喜ぶまい事か。爾來發憤研鑽よく今日の角力通たる榮譽をカチ得たりと云ふ。

更に愉快なものになると武藏山と男女の川の勝負を見ないと角力を語る資格がないなどと醫局で炊きつけられ餘りピンと來ないながらも「ソウダ／＼」とか何んとか云つて國技館に駆け付けた某君と某君酔餘の錯覺か何うか知らないが兩力士の顔を知らぬ悲しさ東と西を取り違へて「オイ！ピー公、武藏山は良い男だと聞いて居たが、なんて妙な汚い面をして居るんだ、第一莫迦デカイにはあきれたもんだなあー」「トンちゃん其れもそうだが醜男で怪物みたいにデツカイと云つて居る男女の川が其の割ではなくかへつて良い男ぢやーねえか、莫迦にしてやがるなあー」など知らぬが佛の譬の如く、見物席で大聲をあげて吐鳴り散らして附近の見物連中の爆笑を買つた話もある。此の長い臺詞を終りまで續けさせた同席の先輩連中の膽の太さも共に感嘆して餘りがある。

更に旭日昇天の勢で三役を目指して驀進を續けて居た頃の前田山を救護所で「名前は何？」と聞いて「前田先生に聞いてオクンなさい」と聊か凄んだ前田山に竹篋返しを喰つて其れでも氣付かず膨れた某君の話もある。

又玉錦と兩國の取組みに相撲は拳闘の様に重量で區別しなければ不公平だよ、此れでは身體の大きい玉錦が勝つに決つて居るぢやいねえか、と憤慨して其の餘爐も冷めぬ内に兩國が特意の櫓で玉錦をキリ／＼とブン廻して快勝するや彼氏慌て、「アッ！此奴はオモシレエ、角力に限らつてんだ」と云ふ様な失敗談やら笑ひ咄を残して醫局は相當の角通の寄り集となる。

従つて毎場所醫局のラデオの前には早慶戦以上の熱心なファンが取り巻き大騒ぎ。斯て一年二回の角力救護が又とない楽しみとなつて行く。

茂木先生の御招待下さつた大相撲は所謂花相撲で死物狂ひで血で血を洗ふ凄壯はなくとも悠揚迫らず名力士が夫々力一杯に己の特意の技を充分發揮して云はば來るべき次の場所の前哨戦ともなり、尙敵も味方も和氣靄々自由に戦ふ所、本場所にも味へぬ面白味のあるものである。

さてこそと全醫局員の張り切りは實に當然の歸結で正午頃には既に大半の醫局員は國技館に移動して醫局はガランとしてしまつた。

此の頃國技館では先生の御馳走の美酒佳肴に顔をほてらせた醫局員は夫々最負の力士の聲援に吾を

忘れて熱狂する、茂木先生も木村、前田兩先生も遠方はる／＼參集した先輩諸兄も若い人達の喜ぶ顔を眺められ微笑して居られる。

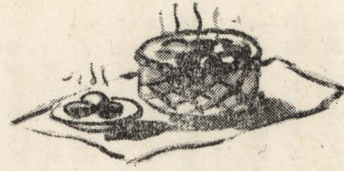
當日の取組の白眉は何んと云つても前田山對玉の海の一番で兩力士互に祕術を盡して土俵一杯に龍攘虎搏の熱戦を續け、結局前田山は良く玉の海の強襲を喰ひ止め西土俵に寄切つての勝は吾々一同ホッ！と安堵の胸を撫で下した。此の時茂木先生は前田先生を顧られてニッコリ微笑されると、其れを受けられた前田先生も亦ニッコリと應ぜられたのは美しい情景であつた。

更に双葉山と玉錦の結びの一番は玉錦寄り切つて勝つた時兩力士互に顔を見合せニッコリ笑つて東西に分れて行く、喧々囂々嵐の歡呼である。此れは双葉山が先輩に花を持たせた床しい心根を稱讚した聲か、其れとも玉錦の健闘はよく本場所の雪辱を遂げたりとて感嘆した聲か、何れにもせよ重ねて見る麗しい情景に一同大滿悅の態であつた。

周防洋の弓取式で茂木先生の御招待下さつた大相撲觀戰も終了し雪より霖雨に變じた中を各自淺草米久に向ひ、更にすぎ焼の御馳走になり、茂木先生の御健勝を祈り乾杯の後宴酣とならば醫局員の隱藝百出、本職の万才氏も出演して巧みに茂木、木村、前田三先生と町田、岩原の二先生の御名前を織り込んだ即席万才には滿場の大喝采を博し、十時頃茂木先生の御健康と醫局の益々隆盛を祈りつゝ夫々散會した。

## 伊香保歡迎旅行記

M P 生



今春の新入局員歡迎會は時局柄餘り大騒ぎも出來ず、内輪でさゝやかにといふ計畫の下に行ふことにした。

往きの汽車中は例年酒氣滿々たるものがあつたが、それも酒は禁止といふので幹事もいさゝか張合ひがないと思つて居たところ迷案あり、ウイスキーなら酒ではない(?)といふことで、まづ車中も退屈せず、目的地伊香保温泉塚越旅館に入る。帝都の櫻は散り盡したといふのにここではまだ蕾だ。

まづ一風呂浴びて三々五々町へ散策に出る、恐らく偵察も兼ねて居るのかも知れん。

新入局員を歡迎するのだから、なにか先輩諸先生にも餘興の一つ二つしてもらはねばと幹事も事前  
に考へる所もあつたのだが、アルコールの効果現はれるにつれて堂々たる美丈夫十數名、七本鎗ならぬ一本鎗の初名乗りには古つはものゝ揃つた醫局員もたじゝの態たらしく。

太鼓も三味もあるにはあつたが舞臺を占領せる新人群の裸像に氣をされて、歌も出ぬ始末、舊人は

新人の歡迎どころかかへつて慰安された形だ。

なかにも根本君のタコのユデ上りは絶讚！

夜の更けるのも知らず新舊渾然一日の歡を盡した。

あくれば春日うららかに○○城陥落の報も感一入であつた。伊香保にて解散し自由行動をとる。聞けば心臓の強い案内者に引づられて山又山をハイキングした連中もあつたとか、夜になつて澁川へでも墜落しなかつたのは幸であつた。

### 快談コント

寸暇を得て或る山間の温泉へ、二―三日骨休めに行つた某君は案内されて驚いた。妖怪變化の棲家も斯くやと思ふばかりのアバラ家が只一軒。其れがお宿と聞かされて怖氣を慄つて見たものゝ今更歸れもせず。エイ！まゝよと蕪度胸。此の温泉場に只一人と云ふ姐さん相手に飲めや歌への大騒ぎ。數刻の後、萬事OK！聽て著つたハルンの處置には辛抱ならず、聊か力の抜けた兩足をギシ／＼軋む廊下に踏み占め／＼蜘蛛の巣だらけの便所に赴く。破れた壁や、毀れた扉の間から生温い風が吹き込んでスーッと酔醒めの顔を撫で／＼行く。途端に折角忘れた恐怖心が再び頭を持ち上げて齒の根も合はず。ト恐るべし！見えざる異様の怪物が眞暗闇の便所の中から排尿半ばの某君の大切な場所をムンズとばかりヒツ掴んで、グイ／＼／＼と引つ張つたり。驚くまい事か某君は、悲鳴を擧げて怪物の手を振り離し、轉ぶが如く自室へ逃げ戻る。素破何事ぞと、驚く相手に齒の根も合はぬ其の口から、委細の様子途切れ／＼に物語る。扱て掴まれた坊やにお怪我はなきや否やと薄暗い洋燈の光の下で、不安に慄く四つ目の眼で調べて見るに、何んと慌てた某君ならん、ある種の袋を付けたまゝ放尿せる爲、大きなゴムの提燈がブラリ／＼と親父の心配も他處に、重たげに股間に搖れて、居たりとぞ。

坊やは安泰めでたし／＼。



## 軍醫豫備員習志野陸軍病院入隊記

S. u. M. 生

支那事變の勃發してより我が外科整形外科醫局からも軍籍にある諸君は相次いで應召、出征したのであるが事變の進展と共に第一補充兵役にある者は軍醫豫備員として補充に應ずる爲に必要な教育を受けることとなり十二月半ばより二月初めにかけて同窓會員から横山・渡の二君醫局からは伊藤、山口、小島、大内、左奈田、小柴、西平、松丸、奥山、西、植草の十一君が前後して習志野陸軍病院に入隊した。

扱て入隊ともなれば、普通ならばお頭付の魚に御神酒、次は萬歳となるのだが、吾々豫備員の入隊は甚だ安直である。でも第一回目の五君と第三回目の二君に中島飛行機の横山先輩に渡君との一行は入營時間に間に合はないと困ると云ふので前日に行つて兵營近くに宿泊したのである。甲種合格で入隊する新兵さんの氣分と豫備員の吾々の氣分との間には多分大きな差があつても矢張り氣の揉めるものらしい。それでも一流(?)どこの旅館を見附けて泊つたのは良いが、一時間たつても女中一人來

ない。何回か手を叩いた揚句子供を背負つたお婆さんがやつて来て、「何んか御用ですかいの」と聞く、「吾々は泊りに来たんだが寒くて何うにもやりきれない、酒を買つて呉れよ」、「あの瓶詰の方ですかいの」間が退けた様な挨拶に微笑。結局は四人で一升の「月桂冠」を平らげた。酒豪揃の一行は此れで酔うはずはないけれど、まあ酒の元気で一夜を汚たない布團で震えながら明かした。此んな事も良い想出になるだらう。

入隊當日驚いたのは、所謂「祝入營○○君」なる幟を立てて、何十人かの見送人に取捲かれた豫備員さんも居た。又、親類中餞別を貰つて歩いて、えらく豪勢な結果を勝ち得たと云ふ仲々の達人も居る。

兎に角色んな珍談を持ちながら入隊。初めて着る軍服も案外板に付いて先づ一安心する。先づ上等兵さん。營内で間違つて星一つの召集兵に敬禮したりして、「シマッタ!!」と苦りきる等、馴れない兵營生活が初まつたのだ。

## 日 課

朝は五時半起床ラツバと共に飛び起る。一月二日の凍いた營庭に曉天未だ星を仰いで牛蒡劍を振つて片手短劍術の寒稽古である。或は天突き體操、舟漕ぎ運動等蠻聲を振り絞つて寒氣の撃退に努める。點呼が済むと飯である。食事當番が麥飯と味噌汁のバケツを受け取りに行く頃は一様にニュームの



食器と箸を両手に首を長くして待機してゐる。

### 講義

診斷書の作成要領、野戰病院開設の順序、毒瓦斯に就いて等々。そして晝食。

午後は擔架演習、行軍、見學等々。運動不足の者にとっては仲々徹へる。夕食を鱈ふく詰め込むと各自床の上に毛布を重ねて褥を作り始める。暫らくストーブの周りで話のはづむ。話が漸くナツハ、ウンテン、ゲーエンする頃點呼のラツバが鳴る。軍人勅諭の奉讀を終つて就床。

日課は大體以上の様であるが、斯んなに整然とした「ヘルラウフ」をとらない。まあ寒稽古には誰しも軍隊生活の辛苦を味はされた事は云ふ迄もないが、此の寒稽古に直面したのは第三回目の諸君だけである。第一、第二回目のお方様が御亂業(?)なされた爲めか、第三回目の者は星のめぐり合せが悪く出来て居るのか、兎にも角にも之れには大概の者は「ふう〜」弱音を擧げた事は確である。「その後に出た甘酒は美味かつたぞ、軍隊でなければ飲めんものさ」なんて負惜しみを云つて慰めて居る。

偕て、午前。講義。九時半になると誰からとなく講堂に集まる。第一に手をつける所は「ストーブ」だ。「ストーブ」當番と云ふ役があるが特志家は何時でも此の當番の代りを演じて居る。それだけ早く行つて「ストーブ」への最短距離を取るのである。期定時間より一時間位遅れて大尉殿が來て何やら

を講義する。一番前列（殊に遅く班室を出る動作の鈍なる者）の五名位は止むを得ず（？）聽いて居る。その他は大概、否、大部分は睡つて居るのである。殊に「ストーブ」の前後左右は良い氣なもの酷いになると高野である。も少し念の入つたのは時々寢言を云つて自から不自然な笑方をする。斯う云ふ輩は良く服の焦げて居るのも知らずに白河夜舟だ。「どうせ官物だよ」てな具合だね。

氣のきいたのは近邊の似顔を描いては何んとか文句をつけて嬉しがつて居る。まあ人間社會の通性で同校の卒業生は一所に集つてしまふ。だから話もはずむ。講義は何んの面白もないのにお互の漫話に大聲で爆笑する者もある、と云つた様な具合、「もう全くお子供さんの様ですわい」。それからだ、髻を生やした大の男が木蔭で大福を頬張つて居る。御家庭で斯んな事をしたら忽ち倅に馬鹿にされてしまふ事受合だ。

監禁一週間で大概の者はすつかり實社會から遠ざかる。賣店（酒保）の凹凸の賣娘うりこの側にねばつたり、時たま來る慰問團の藝者「ガール」に眼をつけたり、とんでもないのになると樂屋裏まで入り込んで、出齒龜の様にお醫者様がのぞき込んで「あの妓はマンマが何うの、否、何んだの」と、もう奥様方には知らせられない様な有様。然し此れは誰にも内密にして置いて下さいよ。「軍規の機密を洩すものは重營倉だぞ!!」と前任衛生軍曹殿の仰である。

## 除 隊

忽ちの内に上等兵、伍長、軍曹とすばらしい進級ぶりを見せて此の分では衛生大將となる日も遠からじと思はれたが残念乍ら十五日の期間も終つて、召集下命の日を期し張り切つて除隊したのである。短時日の體驗で僅かに軍隊生活の一片に觸れたに過ぎなかつたのであるが戦地にある將兵の艱苦に思ひ到れば嚴肅なるものを感じざるを得ない。

今や此等軍醫豫備員の諸君の内からも更に名譽ある召集を受くる者相次ぎつゝある。筆を擱くに當つて出征醫局同窓會諸君の御奮闘御健康を祈つて止まない。(十三、十一、三十)



## 學會餘聞



笹島生

### 一、出發の事。

學會行一行の乗る鷗は大混雑だ、大分所謂消毒藥臭の連中が乗つて居た。八本を總動員させても京都市の切符が買へず取り敢えず横濱迄買つてやつと間に合つたのが鮫さんだ。

### 二、切符が麥酒に化ける事。

恒公はしきりと食堂車行きをあせる。

富士が見え始める頃重い腰（眞實に重かつたかどうかは詳ではない）を擧げて旅の幸先を祝して乾杯した。

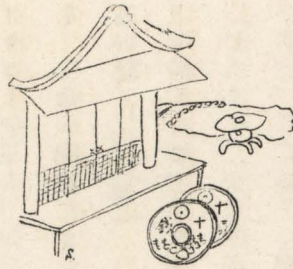
實はこのビールは町田先生の特急券の成れの果だ。

これがほんとの泡銭だった、遙かに田村君の健康を祝して寄せ書きする。



### 三、銀閣寺事件。

宿に着いたら次郎んべえがポツンと一人で待つて居た。可哀想だから皆で車中の珍談の御披露に及ぶ。彼は今朝京都に着き早々前田先生の御案内で御所を拜觀させて戴き、其れより單身加茂神社参拜糺の森の散歩を濟せて銀閣寺と廻つた由。で銀閣寺は拜觀料として金十錢也を取られたが安いもんだと云つて居た。



翌日鮎さん一行が見物した時は何んと何れも二十錢也に變つた居た小泉の奴は昨日十錢だと云つて居たが正しく彼は隣家の庭でも見せて貰つてお上りさんだからと十錢胡魔化されて取られたに相違ないと歸宅して聞き正して見ると矢張り十錢だよと頑強に主張する。其してお前達こそ田舎者だと思はれて倍額取られたと嘲笑する。

此うなると何れが何れとも判らぬながら人數が多いだけに鮎さん軍斷然優勢で彦、恒の二人も此れに加擔して『一人では何處へ行つたんだが判つたものではねえなあ』次郎んべすつかり悄氣て居た所前田先生此れを聞かれ『小泉君は嘘は云はんよ』で形勢逆轉し、小泉喜ぶまい事か小さい聲で『流石前田先生は御見透しだ』此處で一同をズラリ！と見渡して『ザマを見ろ』と云はんばかり、得意満面感激の餘り聲も出ない。途端に恒公美しそくに『お前は信用があるなあ』で一同爆笑する。結局よ

く聞いて見る金十錢也は座敷の修繕中なる爲に其の日限り半額であつた事と金二十錢也は座敷の修理なつて其處に通されお茶とお菓子の御馳走になつた事の相違と判る。

#### 四、『ケーブルカー』の怖い話。

『誰か叡山に登らんかね』の前田先生の御言葉の下から飛び出したのが彦、恒、次郎、午後の特別講演迄と急いで出發する。前田先生の御案内でお山の麓に來て急な斜面に喰ひ付いた様になつて動くケーブルカーを見る。恒公突如蒼くなつて『あれに乗るのか、あれがケーブルカーか』とぶつ／＼云つてる。生命の問題だからと辯明する文明の利器を信ぜざるものも亦度し難いものだ。

#### 五、古い話(山頂問答)。

頂上で遙かに湖水を眺めながら一と休み、前田先生の仰有るには、『はて此所が頂上かな、將門岩と云ふのがある筈だがな』茶店の親爺『その岩がそれですよ』『いやもつと大きかつたが』『段々埋もれたのですよ、でも旦那の來られたのは何時頃のことですか』『二十年餘り前かな』一同『ダァーッ』。

#### 六、根本中堂の出現難産に似て、尚鰻化して蕎麥となる事。

前田先生の御案内で山中を見物する『あれに見えるのが根本中堂だ』を數回繰返してとう／＼眞物にぶつかつた。寫眞班『活躍せんとする度に生臭坊主が出て來やがる』とブン／＼。

恒公をなだめすかして又ケーブルに乗せて坂本に降る。山科の鰻を御馳走して下さると云ふ先生に

坂本の名物は蕎麥ですつてね、と誰れかど云つて丁度時間も切迫したので鰻化して坂本名物そばになつた。後で餘計な事を云つた某君は恨まれた事。

### 七、みの常で夕食の事。

宿屋の紹介で夕食に出かける、ゾロ／＼と不案内の京の町を連れ立つて食ひ度い一心に美濃常を探す。口に税金のかゝらぬを幸ひとその騒々しいこと／＼第一の問題は銀閣寺の件、次いで、金柑を買つたら種をやると云ふ話、段々酔つぱらつてわけがわからぬまゝに唯げら／＼と笑ふばかり、喧嘩は止めて下されと、若い衆が飛んで来る程の騒ぎ。

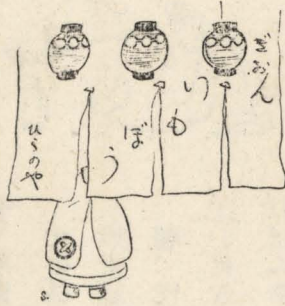
### 八、『いもぼう』の事。附丸山の櫻。

木村先生の御案内で京の名物中の名物平野屋のいもぼうを御馳走になる、こればかりは名物で居て美味い。(何も、宣傳費をもらつたわけではない)

晝間の丸山の櫻は昨夜見た時より、餘程埃りぼくうすぼけて居る。

### 九、關西四谷會盛會なりし事。

『矢尾政』の會程盛大な充實した會合もめつたにはない。



お互ひの同級生の挨拶、先輩後輩の挨拶、乾杯、立つたり坐つたり、お蔭で珍らしい方々に澤山會つた、世話人の方々に場違ひながら御禮申し上げる。

#### 十、早目の晝寝の事。

丈の長いことでは先づ引けを取らぬ濱野碩太郎先輩と鮎兩氏、その夜は圖の如く徹宵痛飲された由。



朝、洗面後部屋に戻ると自分達の蒲團に長い男が三人寝て居るので驚きながら良く見ると前記の夜通しが祟つた三人男がもぐり込んで居た。でも當事者談によれば『少々早目だが一寸晝寝をするのだ』

#### 十一、吉松の御馳走の事。

木村、前田兩先生の御馳走で吉松なるお茶屋で京の美人を拜見する詳細は次郎んべえのカメラに譲る。

會するもの、地本の中村次郎先輩、滿洲の畠中君その他多數、期せずして同窓會の様な態になった。皆さん方大分尻が下向いて居られました。



#### 十二、牛肉も忙しい事。附品切れの事。



解散會をやるべく、最後の宿題報告を聞いてから三島亭へ集つた。その混むこと／＼『一寸』『一寸』と大分待たされた、十人越すと何所でも邪魔にされる。

元より、音なしで待つて居るわけではない。空腹に鞭打つて無駄口を叩く。さて食ひものが前に並んでは他愛なく御機嫌になつて賑かに面白くなる。藤ちゃん一人先へ出發するので切り上げ際に財布を眺めて曰く『品切れだ』。

### 十三、思ひ／＼に歸京の事。

眞直ぐ歸るもの、名大を見學するもの、保津川下りをするもの、奈良へ廻るもの、天の橋立を見物するもの等々バラ／＼に解散した何れも時間に追はれて飛び出した。

以上取り止めもなく、唯思ひ出るまゝを書いて了つたが、讀み返して見て廣範圍の諸君に對し失禮な言辭を用ひたことを深くお詫び申し上げます。

但し事實に多少でも外れた所がありましたなら訂正致します。



### 三四會醫局リレー外科優勝す

三  
太

孫子に曰く「帷幕に在りて謀る者無くば強兵も烏衆のみ」と個々の自力をたのみて合する事を知らざれば支那軍の如く百戦百退致す事を喝破せるもので、團體競技には之を兼ね運用する者があると無いとでは其の効果殊に勝つか負けるかには數段の差が現れる。今回外科の「リレー」が非常な大差で優勝してゐるが、記者は之を觀戰して、二三年來外科が優良な素質を持つ澤山の選手を有し乍ら色々の競技に優勝を逸する理由が良く解る様に思はれる。

今回の優勝の原因は、二つあると思はれる。戰略的に云つて全く各科は氣乗りがしてゐない、即ち油斷である。茲に於て之に僅かの準備を支拂へば必ずとは謂へずとも、優勝は近きものである事は察し得られる。外科が茲に着眼したのは優勝の原因の一である。

他の一は周到なる準備である。當日の朝、外科の醫局の黑板に忽然として細々した注意が記載され、又人員が遠きは横濱から集められて居つたが、人員に動搖なく又各員が同一の觀念の許に協同働作に就く時は、不意の事故に對する突發事件を減少せしめ、少くも此の事件が無ければ優勝したらう等と老人の様な事を言ふ必要が無くなつて來るわけである。

而して觀戦子の驚いた事には愈々優勝戦が始まつた時に、集つた各科は五科に達し其の狭い競走路に於ける混雜の計り知られざるものを感じた。然るにだ、外科は一勢に白鉢卷をなし勇氣粟々として出場したのは其の準備の益々淺からざるを觀てとつたわけである。之は全く外に對しては敵を威嚇し、内にありては同志の識別に役立つもので、あの夕暗せまつた有様では益々有難味を感じらる處である筈である。

愈々競技が始つてその戦果を見るに「ラツキイポイ」藤原の「スタート」は各科選り抜きの一スターが揃つた爲か、今年は効を奏せず第一位との差八米で第四位となつて來た。第五位は出發後、轉んだ組である。夫々の差、極めて僅少、「バトンタツチ」の混雜や少なからずである。見る可し二位三位の組は「バトンタツチ」に連續して轉んで了つた。茲に於て外科は老練百溪を起用して此の混雜を處理せしめたるは策戰の妙にして又、不計も彼は第一位を抜く事八米にして三番根本に連絡した。爲之根本以下は全く無人の境を力走して三〇米四〇米と次第に二位との差を離し、つひに半周七十米

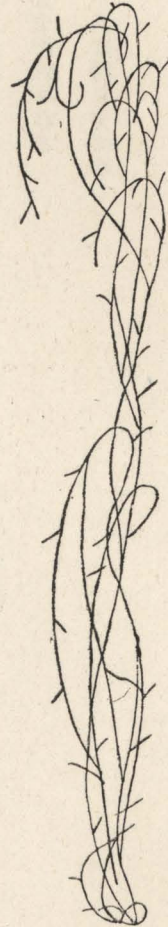
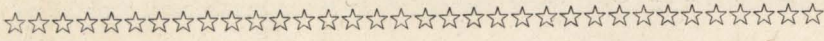
以上を離して悠々「ゴール」したのは驚嘆の外ない。

餘り圓滑にいつたので黒板に書き出した策戦がどんなものか、亦之に出て居ない秘密事項をも聞き耳たてゝ見ると、至極簡單な事である。何でも小さい運動場で不馴れな者が走る時は轉び易いので、順位から走法迄皆之を目的として作つてあつた相だ。

さてこそ之を觀、之を聽きて、各々が其の實力を充分發揮する事が出來たのであらう。戦子全く感に堪へず。それ孫子に言はずや「天運良策に與するや戦はずして勝つ」とな。目出度し〜。

(メンバー)

原	溪	本	泉	草	留	野	川
藤	百	根	小	西	植	津	内
						渡邊(仁)	
							石



學 會 行

治  
生

○ 五つ六つ 杖ぼうの頭や春の水

○ 桃櫻駿河を越える午下り

○ 鴨の水稍かさまりぬ草蒨える

○ 大阪の苺つぶすや一人旅



足利晩秋

渡良瀬の水は濁りて

釣人の姿も見えず

肌寒し細かき雨に

織姫の社光れり

足利の工場の烟

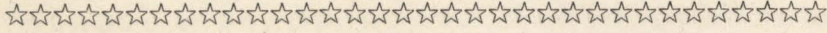
四つ五つならびて立てり

風は未だ吹かねど

行く人は肩をすぼめつ

治

生



お留守番

一 醫局に長い紙をはり

出征なされた皆様の

お名が記してありますが

「そんなに長い紙ならば

足りない事はなからう」と

去年は笑つて居りました。

二 上海、南京、廣東や

武漢三鎮陥落と

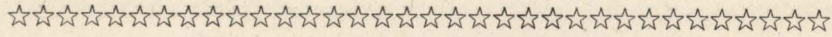
勝利の報が来る毎に

そんなに長い紙なのに

段々ふえるお名前前で

治

生



足りない程になりました。

三 朝 醫局に来る度に

夕 家路につく前に

我々残つた醫局員

紙を仰いで祈ります

「どうぞ御武運長久に

お手柄お願ひ申します」。

四 やがて事變の目的が

達成された曉は

こゝに掲げた皆様が

一人残らず御凱旋

その日を待つて朝夕に

紙を仰いで祈ります。





昭和十二年十二月二十六日

故檜崎軍醫大尉の遺骨を東京驛に迎へて

冬陽さす東京に君凱旋す

肌寒き驛頭に首下げにけり



古いノートより

○ 雲 雀

羽ふるはせてなきのぼる

治 生

丘 葉 一



雲雀の聲ははや見えす  
空見あぐれば唯眞青なる

○眞晝

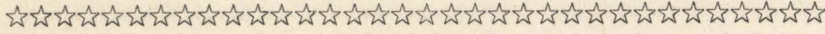
思ひに沈みてあれば松籟もかすかにきこえ  
ふと目を下して見る路の臺です

○春

淡い光に照された台所のジャガイモはすつかり  
芽を出して春です

○郊外風景

ほつちほつちによくほきた麥はどこまでもうちつつき  
切り通しの粘土道を牛車がゆるゆるとのぼり  
後からほこりを立てゝ走つて来る貨物自動車に  
たちまち追ひ越される



士肥温泉雜景

遠くかすむ山々は肥桶にふせた藁屋根よりひくく  
道ばたの樺はすつかり葉をひろげて  
さんくと降る光を鈍くはね返し  
小供達は胸をひろげて麥をけちらして  
遊び廻つてゐます

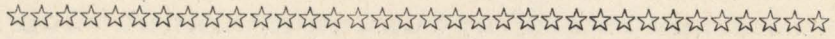
○土肥神社 逝く秋や、祝詞に征旗ゆれもせず。

○慶應堂病院

内科 ベランダに微熱いたはる日向ぼこ。

外科 手術終へし窓虫の聲降るばかり。

相見漁人



産婦人科 廊下ひそと産婦のうめき冴えかへる。

○明治館 朝寒やひとりの湯槽あふれつゝ。

○土肥金山 選鑛婦レールに憩ふ日向哉。

○屋形辨天汽船發着所

征く人の舉手爽やかにテープ切る。

○土肥灣 閘を漕ぐ艀のやはらかさ鱒はねる。

○土肥遊園地 怒濤かむ岩ひねもすをかいづ釣る。

○土肥公園 松林の日こぼれ深く落葉踏む。

○土肥大川 鮎の人の眉一筋にほのあくる。

○温泉川 湯の川の閘肌白う浴びて居り。

○海水浴場 碇綱にまつわる若さ泳ぎ居り。

○枇杷園 枇杷山や人聲に枝ゆさとゆれ。

○ネーブル園 西風吹くやぬくさネーブル陽にゆれて。

當直日誌募集

(醫局川柳)

刀林編輯部選



天勝の様に麥酒現れる (カクスナ)



殿様の様に手術場

汗ふかせ

(手術場)



「コルセット」蚤の「トーチカ」

暑い事 (整形)



股脱巻き初めて子供の力知り

(整形)





見學は一寸離れ延び上り

(手術場)

「ゲレラン」と一聲  
夜具を引つかぶり

(當直)



看護婦は氣の毒そらに照しつけ

(當直室)



- ◆ はあはあと息切りながら創を拭き
- ◆ 特診に王手飛車取り口惜しがり
- ◆ 醫者共の眞白き白衣月曜日
- ◆ 澤山の眼尻目に蠅は逃げ
- ◆ 齒ぎしりにおびえてプレは引返し
- ◆ 高官も尻では後に廻はされる
- ◆ 暑いのにヒモ一ゼ襟巻巻いてみる
- ◆ 手術場の褒美もらへたためしなし
- ◆ ムンテラに閻魔釘抜きもてあまし
- ◆ 醫局では見てゐる奴が將棋さし
- ◆ 尻をヒッてお可笑しくもなし當直子

- (總廻診)
- (特診)
- (廻診)
- (手術場)
- (當直)
- (手術場)
- (包莖)
- (手術場)
- (ムンテラ)
- (醫局)
- (別館當直)



## 「國を異にすれば」

轉 山

由來支那は文字の國であるとされてゐるが、成程と感心させられる數々の字句に逢着することが多い。卑近な例を舉げてみると汽車である。滿支で言ふ汽車は實は自動車の謂であつて、其昔汽笛一聲新橋を離れたであつたらう我々の汽車に對する概念から、凡そ縁遠いものにされてしまふ。石炭を燃料とし、蒸氣の力で走る所の車は、彼國では火車フオチヨウでなければならぬ。従つて、鐵道の踏切等に屢々樹てられてある標識には「小心火車」と讀まれる。此處に出て來た小心からして、成程心を小にし、小さな事に迄も、逐一意を注がねばならぬぞと言ふ風に受取れる。

次に御當人が耳にされたら甚だ立腹されるかも知れないが、日本畫壇の重鎮として、特異の彩管を振ひ、殊に美人畫をよくものされた〇〇深水と申す御人が在るのは、讀者諸賢には既に御案内の通りであるが、この深水と言ふ字句は、彼等滿支人をして謂はしむれば、こは實に、龍の男根を細斷して埋没した塚と言ふ突拍子もないものにされてしまひ、優美な雅號も茲に到つて恐れ入る様な事にもな

つたりする。

亦漢字を横書きにするには右から左に向ふのが定石となつてゐるが、我國では近頃能率の上から左より書き始めることが喜ばれてゐる様である。よく年の暮になると左よりの横書で「オトオト田」と大書された廣告が店頭に掲げられるのはよいとしても、これを滿支人が見ると右の方から「出賣大日本」と讀んでしまつて大變なことになつたりする。兎も角國を異にし、言語、風俗竝に習慣が違へば斯く迄物の表現法と概念に霄壤の差があるのかと、今更乍ら驚き入るの他は無い。

話はちと外れるが、私は奉天在住の一獨逸人に知人があつて、去る眞夏のある日病院の廊下でバツタリ彼に出遭ひ、其折時候の挨拶として「今日は非常に暑いぢやないか」と言ふ時に“*heiss*”と云ふ言葉を用ひたら、早速彼はニヤ／＼しながら“*heiss*”と云ふのは助平（彼は多少日本語を解し助平なる日本語を以て説明した）と云ふ意味が含まれてゐるから“*warm*”と云へ」と一本やり込められた。斯うなると他國に云つてうか／＼話も出来ないことになる。私などはとんだ事を喋舌つて恥をかき、顔が *heiss* になつてオットしまった *warm* になつて常に汗顔ものになることだらう。

(一三・一一・二八記)





たはごと

蛸 入 道

筆のたゝぬ俺にとつて筆のたつ奴は全く美しい。舌癩にさへさわる。しかし俺にでも一寸の虫の譬の様に云ひたい事は山程ある。たとへ筆のたつ奴程に巧みな云ひ現し方が出来なくとも俺は俺なりに、何とか書けるだらうと、讀む奴の迷惑も考へず秃筆を取つた次第。

○ 「醫は賤業なり」と喝破した斯界の先覺が居る。まこと人のいやがる糞尿を汚しともせで、打ち振り眺めるはさる事ながら、舉句の果は嘗めんばかりに覗き込む。こんな事は序の口で、血は見るもいや、人の屍などはもつての外と云ふのが人情なのに、生きてゐる人を切り苛み、尙飽き足らず殺した後も臓腑を摺み出し、ばら／＼事件どころか目に見へぬ程にまで切り刻み、そして何とも感じぬと云ふ。これは一體どうした事だ。勿論畜生には自分の糞を喰ふ奴が居る。同屬相喰む奴も居るだらう。この點どうも醫者と云ふ奴は畜生道に陥つてゐるらしい。鼻下に貯へた美髯は己が淺間しさを隠さん

が爲のカムフラージュでもあらうか。

○  
醫者のくせに腰の低いのはおかしいと云ふ馬鹿者が居る。腰の低い位な事で醫者の内容が定められてたまるものか。これが又世間一般の考へと聞いては唯啞然とする。この考へが醫者を誤らしたのだ。醫者を誤らしたものこれ世間で、悪醫者に害されるものこれ亦世間、因果應報、恐るべし。

○  
あんな田舎の病院に、學位を持つた人を二人も三人もやるのは惜しいと一人が云ふ。折角學位をとつた人だから、他にもつと良い使ひ道があるだらうにと他が應じた。二人ともこれが學位價値低下の現れとは氣がつかない。

○  
「何だ、又手遅れの患者を擔ぎこんできたのか。大方今まで診て居た醫者は博士だらう」と云つた先輩が居るとか、再考含味すべき言葉と思ふ。

○  
とても助からぬ患者を診て居ると、若い者と古い者とは食ひ違ひが出来て来る。これは何とかならぬものかと、醫學の愚劣さを呪ひ、自分の菲才を啣ち乍ら最後まで苦しむのが若い者で、これは何

をしても駄目さとうそぶくのが古い者だ。けだし又前者のその氣持は尊く後者のその態度は味ふべきだ。又古い者の悟らぬは醜いものだが、若い者の老成ぶるのは害がある。

○  
あの患者はこんな無理を云つた。この患者はこんな我儘を云つたと、腹をたてゝゐる醫者、看護婦が居る。おい〜お前の相手にしてゐるのは病人だぜと云つてやりたい。

○  
こんな事は患者の家族の場合に屢々ある。患者の病的精神状態が家族のものにうつつたので、こんな五月蠅い家族は傳染性精神病患者と思へば何でもない。

○  
未だに外科は腹痛は何でもアツペだと云つて切つてしまふと、嘲ける内科醫が居る。その頑迷には呆れる。一番多くアツペ患者を診てしかも實物まで取り出して成る程と驚いたり、合點したりしてゐるのが外科醫だぜ。そして苦勞して進歩させたアツペの外科學に遅れるはおろか逆行しさうな氣配さへ見せるのがそんな事を云ふ内科醫だ。その點では世間の素人の方が進んでゐる様にさへ思へる事がある。暇な時に手術を見學にでも來て恥をかゝぬ様にするが良い。

今日の問題は何、戦ふことである。

明日の問題は何、それは勝つ事である。

(ヴァイクトル、ユーゴー)

しかり。我々は今戦つてゐる。そして勝つ爲には總ては極度に能率的であらねばならぬ。感情は第二、第三の問題だ。

さうだ手を取つて進まう。あらゆる女々しい感情をふり捨て、最も能率的に明日の問題たる勝利に向つて邁進しやう。

×  
×  
×  
×  
×  
×  
×



# 外來病棟阿呆陀羅經

刀林寺和尚

チャカポコ〜まかり出でたる刀林坊主は、お經を讀み〜「ビール」を飲むで、四方八方アタリにアタツテ、アタツタお方は冥土とやらで、極樂往生疑ひなしだよ、さあさ多くの亡者達奴よ、刀林寺和尚のお經を聞いて、朗らに、笑つて三途ノ川も、さてはトーチカ、クリークも、笑つて〜通らうぞ、笑ひは此の世の極樂ぢや。チャカポコ〜。

森田ケ原のばあぢやないが、鎌を取る手に、アツペを持つて「こんな虫奴がお腹の中で、暴れたからだ」と、ムンテラやつて、偉大なお尻を振り〜ながら、助手連尻目に得意顔。時にや醫局でオハナの上に金縁眼鏡をチョットのせながら「妾が看護婦見習時代にや、シエンシエはまだまだ液體で御座つた」。チャカポコ〜。

外科は外來第一、第二、小さな體をクニョ／＼しながら、大きく見せよと、苦心の帽子、お家の中でも高下駄はいて、妾此れでもミスですよ。毎日怒つてゐる様なお名前、それで中々怒らぬ所、御損な名前に生れて御座る。又其の他に肥らぬ姐さん、肥り薬の「きくもと」錠をたんと飲んでためして見たが、お通じ付き過ぎさつぱり効かない。その爲會社ぢや大あわて、「わかもと」錠と改名し、途端に賣れ出しお目出度し。コレ／＼後から押すのは誰れた、面を眺めりやギヤングぢやないか、お前は未だ／＼出る價値ない。チャカポコ／＼。

整形外來邊鄙な處、處の御名前西郡、岡村。村のハナ見は低うて見えぬ。丈の低いは高下駄使へ、ハナの低いは扱て牽引と、騒いで御座るが流石自慢の機械室でも、ハナの牽引装具は無。酒も呑めぬでお尻が冷えて、炬燵(股脱)々々に嚙り付いて御座る。チャカポコ／＼。

外科の手術場風流な處、夏は冷水、冬でも霞、花を咲かさうと山中娘、涙もろいは年頃なれど有明月では感じも出まい。チャカポコ／＼。

口律廻るも廻らぬもヒとフをはつきり云はしやんせ。若も喋れぬ其の時は、酉に似た方がヒの字で

あつて、亥に似たのがフの字で御座る。姿すがた形かたちは生寫し、防空演習見た人判る。あれが有名なガリバーの日本娘。チャカポコ〜。

ニ下り半で三ン曲り、酒々か神酒かで酔どれの藤の大枝ひつかつぎ、お夏狂亂底ぬけで、出たのは良いが重さうだ。そりやそうさ、榊ささきの枝とはちよと違ふ。チャカポコ〜。

ホの字の下にレの字が付いて、人目忍んだ伊東の旅に残した夢が忘れられず、明日は熱海か湯河原か、東京みやこに歸つて其の夢破れず。窪田くぼたに足を入れたる如く、する〜べつたりべつたりと、「妾此の頃變なのよ」。チャカポコ〜。

チリも積れば山川の有るか内科の仇情け、判るも知るも主のまま、知らねえ奴はハラタつばかり。

チャカポコ〜。

別館病棟に行く迄は、二段三段馳け降りて、地獄極樂一丁目、三途の川を渡る邊に、文明開化の餘波を受け、ガスのタンクがあるかと思ればシダレ柳と書いてある。其れでも地獄の嵐の晩は、ハイゼルカイトで睨り出す。チャカポコ〜。

いんにこもつた寺の鐘、夜もしん／＼とふけわたり、橋にしよんぼり二人の姿、行きつ戻りつ思案のあげく、どうせ添はれぬ二人の身體、あの世で思ひをとげるが望、トンダ奴等と御ぼしめさずととに父さま母かかさま許しやんせ。女がマツサキとびこめば男もそれにおくれじと、バツと擴がる二つの渦が、やがておさまるその後、水をば照す夜半の月。どうぞ皆様二人のために成佛する様念佛唱え、四百四病に惱める奴も、コヒの病に惱める奴も比翼塚など建立させて、一万二万の賽錢上げて刀林坊主に供養を頼めば、どんな病氣もケロリと治り、後生安樂、極樂成佛疑ひなし。チャカポコ。

おつと忘れた何時もの傳で、坊主もはげれば滑るが得意。ほつと一息入れたで氣付いた、ホの字の上さま、五人で一室それでも病棟、當直先生もお忘れなさる、坊主も人間お忘れなさつた。貴い紙面の餘白を貰うて、つまらぬお經も終りに近づき、残つた紙面を一瀉と千里で、西は青森福島通つて加賀の金澤、一氣に走れば、トンネル澤山くゞつたせい、色のお白い姐ちゃんお二人、お一人黒くて未だにぬけず、金縁、フチなしお似合召さる、刀林坊主も、どれ此の邊で、般若湯のお爛もついた。袈裟もお珠數もサラリと捨て、生臭坊主に返るが身の爲め、數千數万アツペの骸、少さく切つてはミクロにかけて、どれ／＼仕事にとりかゝらう。チャカポコ。

なんまいだ！。頓喝！





## 刀林嘘俱樂部

ウソ俱樂部會員

一、多分依頼されて御來診下さった事と思はれるが西野教授、傍に付いて居た外科の人氣者某君に「葡萄糖でも注射して置き給へ」と御下命があつた。某君悠然と椅子に腰を下したまゝ、「先生やツて下さい！」恐る可き此の強襲に逢つて流石の西野先生も呆氣に取られ思はず「俺は下手だよ！」と仰有られたとは本當かい？ コレ／＼本欄は嘘俱樂部欄ですゾ。

二、H君職員食堂で飯の中に蠅が一匹這入つて居たのを發見して、特意の太い鍬を額に寄せて眼をパチ／＼させ「ヤゝ此れが本當の蠅が米（胚芽米）だ」とは人が人だけに一同大喝采。

三、Cちゃんが入局したホヤ／＼の頃「みかど」で焼飯なるものを初めて食ふ。一緒に汁を出されてハタと當惑した、支那料理……「チャーハン」でも支那料理ですぞ……に於ては如何にして此の汁を

處理すべきやと暫時黙考の末「チャン！とばかりに其の汁全部飯にブツかけてサラ／＼とやつてしまつた。翌日病院へ来て皆を捕へて「ネ君、チャーハンつて不味いネ」一同譯が解らず只眼をバチクリ／＼。

四、同じCちゃんが又もや「汁」で失敗した咄を一ツ。先輩にザル蕎麥を御馳走され、扱て目の前に出された蕎麥を眺めて「俺はとでも此んなに喰へんよ」と辭退した。何故ならば同君は器に底より一杯に詰つて居るものと誤解した。先輩は其處までは理解せず妙な事を云ふ奴だと思ひながらも「そんな事あるもんか、喰へ／＼」でCちゃんさらばと例の如く側にあつた汁を蕎麥の上より「／＼とブツかけた。さぞ重からうと器物を両手で押へ持ち上げて見ると此れはしたり、汁は全部膳の上流れ出して、其の上は器は蕎麥が一杯這入つて居る筈なのに鴻毛の如く輕かつた。此處で氣が付けば良かつたものゝ彼氏更に慌てゝ大聲一番「アレ！底に穴があいて居るヤ！」はいけません。

五、「活動なんざあ金を拂つて這入る奴は間拔けたよ、俺なんか顔だな何時も、ヤ／＼と云つて悠然と這入つて行くんだ、其うすれば豈俺のみに限らんやだ、誰だつて大丈夫よ、まあ騙されたと思つて一ツべんやつて見な」と四、五人の惡童を前にD君の怪氣焰。

敵もさる者、只「ヘイ〜」では承知しない「チャーお前やつて見ろ」と衆議一決して否も應もなくD君を擔がんばかりの勢ひで新宿まで持つて行つてしまつた。

流石のD君も斯うなつた以上引かれもせず心中の不安を押し隠して目的はT座と決めて乾坤一抛の快技を示さんとする。途中一束十錢也の花束を買ひ込んだD君、一同何うした事かと怪しんで聞いて見たがD君は只エヘラ〜と笑ひながら細工は流々仕上げをゴラウジロとばかりかへつて糞度胸をきめてしまつたから氣が強い。

扱て目的のT座に着くやD君は實に颯爽と「テケツ」あたりに傍目もふれずズン〜進んで金十錢也の花束を「モギリ」嬢に捧げたまゝでスーツ、正に大冒険は八分通り成功と思ひきや、途端に横手より百雷の一時に落つるが如き大聲で「モシ〜貴方は何んですか」と云ひながら恐い顔をした事務のオヂさんがD君の行手を遮つてしまつた。彼氏も流石に此の突然の伏勢は豫期しなかつたゞけに大慌て「いや何、その一寸……」とか何んとか一度受太刀になるともういけない、花束は其處に投げ出したまゝ倉皇として逃げ出してしまつた。眺めて居た悪童連中も流石に彼氏に同情して二、三日は冷やかしたりしなかつた由。金十錢也の花束は「モギリ」嬢に拾はれたか、事務君の靴の下に踏み躪られてしまつたか誰れも知らない。

六、或夜半N君はフカ〜とした大きな蒲團の中でウツラ〜と夢路を辿つて居た折柄、突如ケタタマしき電話のベルの音に夢破られた。誰れか出て呉れるだらう、と物嗅をきめ込で居たが何時まで経つても誰れも起きては呉れない。女中君は勿論、奥さんも知らか、は、夜船でイツカナ起き様とはしない、彼氏とう〜半ば向ッ腹で起きて行き「ハイ〜」と返事の聲も怒り聲。途端に向ふで「武藏野病院ですな」と断定した様な口ツ振り、彼氏怒り心頭より發し、咄嗟に「いや違ふ！ 此ちらは火葬場だよ！」でガチャリと受話器を投げる様に置いて實にスガ〜しく溜飲を下げたと云ふ話はウメエ〜。

七、或は新人紹介欄で此の事は發表されたかも知れないがT君の蜻蛉を喰ふ話は實に慶應病院中に響き渡つて、今更此處に喋々の要は認めぬ位有名な事柄である。

各驛に「空高く、ハイキング」だとか「飛ぶ雲、飛ぶ汽車、飛ぶ心」だとか貼り出される毎年の秋、あゝ此の頃は彼氏の食慾は普通人のソレより一つだけ餘分に俄然旺盛となるのだ。其の頃彼氏は暇があれば天の一角を睨む、若し一匹でも蜻蛉の飛んで居るのを眺めたとするならば實に垂涎三千丈、己の手の短さと、翼なき事と、更に又病院務めの果無き身を打ち嘆くと云ふ。一度蜻蛉亂れ飛ぶ原頭に立たんか、美髭の下に堅く口を一文字に結び、時々發する烈帛の氣合ひと共に兩腕は左右に開き、機に臨み變に應じて上中下の三段構へ、屈伸自在にして如何なる體形にでも變化し得可き腰は、所謂柔

道での「ジゴタイ」の型。知らずして左右前後に飛び交ふ蜻蛉氏は哀れにもハッシ／＼と各々一本の指に一匹づゝ、都合兩手で十四、一瞬にして掴み捕られる。斯て持參のレイヨンの大袋に掴んでは入れ、握つては入れる美技は只アレヨ／＼と鬼神も驚倒するばかり。従つて僅か數分にして附近一町四方はたちたまち蜻蛉は影を潜めてしまふと云ひ傳へられて居る。歸宅まで待ち切れず『原頭に蜻蛉を燒きて喰ふに枯枝を集む』と洒落れノメス所なんか仲々風流だ。然し此の美技も蜻蛉は益虫なるが故に餘り多數捕獲しては蚊の繁殖を増長させるばかりだから東京府内に於ては御遠慮願ひたし、との政府の御通告より現在東京に於ては彼氏の神技を誰れも拜見出来ぬとは惜しむべし。

八、某君は流石お郷柄、條虫、蛔虫何んでも御座れ、大體形が饅頭の様ならば宜敷い。發見次第ザツ！と熱湯をそゝいで三杯酢、酒の肴には又とない珍味で御座ると賞味する。所が病院へ來ては發見したとしても咄嗟の場合三杯酢などは間に合はぬ、従つてシャーレに入れた蛔虫などに番茶をかけた一寸洗ひ、検査室へ持ち込み醋酸をタラ／＼と注ぎ込んで端からムシャ／＼とやり出し、醫局に有り合せの麥酒に神氣爽快を覺へると云ふのだから怖い。

九、兩耳の上縁を結んだ線以下の部分の毛が堅くて澤山密生して居るので有名な某君、中學四年の

終り頃まで愛するお母あちやんと一緒になければ寝ないとムズカッタ話は大抵の人は知つて居る。

然し何故に五年生になつた頃よりは斷然獨りで寝られる様に偉くなつたか、と云ふ原因を知る人は少い。其は祕中の祕ながら特に此處に御披露に及ぶ。即其れは「Manuelle redressment」(判つて呉れるでせうね)を某惡友から傳授されて以來とは成る程無理もない。

十、検査室で某君遂に忙しさに傍に居合せたブレ某嬢に「ブンゼン燈を消して置いて呉れ」と頼んだ。ブレ嬢何等躊躇する所なく「ハイ！」と答へて「ブツ！」とばかりに吹き消したりと云ふ。奥さんに貰ひ度いと思はれる方は命を二つ三つ用意して置かれる様に御注意が肝腎です。

十一、慌て者で有名な某君、外來で診察しやうとしてポケットに手を入れ、聽診器を出そうとしたらハンカチーフが出て來た。アレ？と思つた途端氣が付けば其れはズボンのポケットで、シユルツエを着て居ない事が判つた。コレは大變、とばかり愈々慌て者の本性を現して大騒ぎ。誰れか俺のシユルツエを剝がして行つた奴があるぞ。ソレ醫局、ソレ圖書室と轉手古舞をして居た折某氏が「昨日から當直室に一つシユルツエがあつた様だ」と云ふ。行つて見ると正しく某君のシユルツエだつた。慌てん坊は昨日から今日までシユルツエを忘れて醫院の廊下や、廻診は一體何うして過したものと醫

局の神経質の連中を懊惱させて居る。

十二、同じく某君何か用事があり病院に泊つた翌朝。醫局にやつて来て「ネクタイがない〜」と騒いで居る。誰れでも手當り次第捕へて俺のネクタイ知らねえかい、と聞き歩く。日頃の某君を良く知る某氏は當直室、手術場なんか見たかい、其れからズボンの中も調べて見たかい」と聞く。某君「當り前だよ、あるもんかい」に「では猿又の中は？」と聞く。某君憤慨して「猿又の中なんて這入る譯けがあるもんか……い」の言葉が終らぬ内念の爲にと手を突き込めば、正しく手答へあり、ズボン〜とズボンの正中裂孔より出て來たのは待望のネクタイだつたとは、聊か話も落ち加減で恐れ入りますが、何うせ落ちついでにもう一つ。

十三、此れは婦人科から廻された患者さんの話。某君患者に「シタを出して御覽なさい」と何氣なく云へば、流石場敷を踏んで來たゞけあつて患者さん、心得えたりと憶せずクルリと尻を捲くつて、「ハイ何うぞ」と云つたか何うか詳ではないが眼の前にある場所を開陳した。これには流石のパンツエルヘルツのお醫者さんもノケゾるばかりに驚嘆し、爾來舌を診る必要に迫られる時は男女の區別なく「ペロを出しなさい」と云はれるとか、其れを聞いた江戸ッ兒某君「ペロつて何んだい」。

何うも御退屈様。



## 新人の横顔

○千倉義雄君——十四回生で産地は

千葉縣。瘦せてゐると、酒の弱いのは誰にも負けない。醫化學教室に暫く居た事がある、化學の心得があるだけに、蠶蛇を時々やる。検査室の試薬なんか危くつて使へるもんか」と氣焔を擧げてゐる最中に「ぢやあ、千倉を試薬係りにしやう。」と醫局長に云はれて、尻に帆をあげて逃げ出した話もその一つ。

將棋が自慢であるらしいが、細川君が來てからは影をひそめてゐる。今春以來静岡日赤へ出張中。静岡へ行つ

たその夜の歓迎會で一番先に主賓がゲロを吐いたと云ふのも千倉君らしい話の一つである。

○茂木英一君——生れは東京ながら、千



葉縣人會へ入つてゐるし、眉間に傷はあるが至つておとなしい紳士であると云ふ譯の解らない男である。陸軍の豫備軍醫中尉で直情徑行、解剖學教室出身の十二回生。八月以來下谷病院出張中。世話好きで、人が好くて、醫局庶務にはなくてはならぬ人。

特技は學問以外、野球と將棋。(それからもう一つア



レ)……誰だそんな事を云ふ奴は……フラウはあるが、子供はまだない。酒は吞まず、煙草は喫はず。結婚まで童貞を守つたと云ふ(？)。と云つても話はよく解るし、聖人でもない。要するに前述の通り、譯の解らない男。但し彼を悪く云ふ人はゐない。



○根本一郎君——十三回生でムツ

ツリしてゐて、人一倍の正直屋。愛妻から電話がかゝると、イソ／＼と歸るサイノロヂーではあるが、頑張り

り屋である點は誰にも負けない。嘗ての解剖學教室の名投手、いつでも紺のスウェーターを着てゐる様な感じがする。八月から横濱警友病院へ出張中であるが、横濱と根本君——世にも奇妙な組み合わせであると思はずにゐられない。酒は少量。但し彼氏の隠し藝である「蛸のゆであがり」は奇觀中の奇觀。これを見て笑はない奴がゐたら、不感症か「シヅフレニー」の疑ひが充分ある。

○萩村恒雄君——純粹の江戸つ子。通稱は「クマサン」



鬚だらけの顔をニヤ／＼させて大きな聲で笑ひ、大きな聲でエゲツない事を平氣で云ふ。五月に入營して、陸軍々醫中尉。目下盛岡陸軍病院勤務。

酒は飯より、女より好物で、弘前聯隊入營中、酔つ拂つて營門へ突き當つたと云ふ話がある。人が好くて、御婦人方に甘い事は一寸類がない。その癖頑張り屋で、曲つた事が嫌ひ。感情家で、單純で、入局早々、醫局の人氣を一人でさらつた感がある。松浦元君と共に、醫局人氣者の一人。

彼のガニ股は一度見たら忘れられない特徴で、肩を揺ぶつて歩く獨特の恰好と、曲つた肢とは「クマサン」を形造つて餘りがある。

酔拂ふと友達の顔を逆さに撫でたり、道路へ座つたりするのが玉に瑕であるが「オレのオ袋に……フェツ……よく似た……オバサン……フェツ……だなあ」と自分

のムツターを忘れちやつた奴は恐らく「クマサン」ぐらひのものであらう。呆れたアンチャンである。



○細川忠君——九州は中津の産。

氣の強い事と、遠慮の無い事、ヘルツの大きい事は新人中第一位。額の皺と、ブツキラ棒な物の云ひ方は彼から切離す事が出来ない。下谷病院では彼の事を河内山宗俊と云ふ。又一名孫悟空。將棋は氏の最も得意とする所。現在醫局のナンバーワンである。

或る人彼を評して曰く「あの男は一日の中、四時間だけ眠つてゐるが、あとの二十時間は怒鳴つてゐる。」と。所が當直の夜、寢言で怒つてゐるのを聞かれてから、「廿四時間怒つてゐる男」にされてしまった。しかし悪氣は爪の垢程もなく、オ坊つちやんで。交際つてみると味の出る男である。

人の顔さへ見れば、ブツ／＼文句を云ふ癖に、一日會はないと淋しくなる不思議な魅力の持主。變な奴だ。



○道躰祐二郎君——無口で、

ドラ聲で、毎日鎌倉から通つて来る、眼鏡かけた奴、と云へば知つてゐる人は皆あゝあれか、と思ひ出す。水泳が上手くて、夏になると鎌倉の海岸で甲羅を干してゐる。相當に氣が多いから、乗馬もやるし、弓も引くし、ラグビー、スキー、力仕事なら何でも御座れ。モダンボーイで、温順しい半面。酒を吞ませたら何時間でも黙つて呑んでゐる。(この點渡邊仁ちゃんによく似てゐる)が、頑張り屋で、勉強家で、現在軍醫候補生で入營中。立派な軍醫になる事であらう。



○川上弘君——通稱「アカチャン」

原因は不詳、顔が赤いからかもしれない。山岳部の猛者で、スキーの名手。但し夏になると、一切水邊には近寄らない。彼曰く「俺だつて水泳の監督なら出来るがなあ」と、理由は監督は泳がずにプールの縁

ばかり歩いてゐるからださうである。——實は彼はカナヅチである。——余技は野球にラグビー。兩方とも大して上手くはない。酒は普通、将棋はカラツ下手。ただ俺はまだ細川に一度も負けないぞ」と云ふ。聞いてみたら一度もやつた事がないのださうだ。目下軍醫候補生で入營中。彼の坊主頭は奇觀である。人の好いのと、ユーモリストである事は一流。好漢願くば軍務に精勵せよ。



○依田亘正君——江戸つ子。通

稱「依田チン」ユーモリストである點、新人中隨一。彼ぐらひ朗らかに日を過す男は少いかももしれない。樂天家で、その癖案外氣が強く、年中ニコ／＼してゐる奴である。将棋は割に強いが酒は餘り強くない。酔ふ程に飛び出す酒落は、滿堂を失笑させずにはおかない。時々齒をチュツ／＼と鳴らせて可笑しな事を云ふ癖に、眞面目くさつた顔をして廊下を歩いてゐるのを見ると、こつちが笑ひさうになつてしま

ふ。野球もやれば、スキーもやる。水泳もやるし、歩く事も出来る。——もつとも歩けなきや不具だ。



○津留慶之君——久留米飛白と一緒

に生れた男。その癖、リチアード・アーレンみたいなエキゾチックな顔の持主。藝者に持てる事は凄じばかり、口惜しいけど何うにもならないのである。酒は九州男子の名を辱しめぬ豪の者。ダンスは上手いし、スタイルは好いし、まるで「愛染かつら」の何とかさんみたいである但しチーテルは未だない——當り前だ。

郷關を出でて十年。言葉は殆ど東京人と區別がつかないが、酔へば詩吟が出ると云ふ頼もしさ。また洋服を着て、パヂヤマで寝るくせに、尺八を吹き、都々逸を唸ると云ふ飛んでもない男である。

相當の慌てん坊で、バンドネオンの事をパントボンだと云つたり、マカロニグラタンの事をマカロニグレランだと云つたり、傑作は相當にあるが、堂々と肥へた體軀

で悠々と廊下を歩く所なんか周囲を壓するものがある。こいつが丙種だとは、オ釋迦様でも御存知ある譯がない



○内野一男君——静岡の産。

十九貫の體を見れば、誰だつてこいつあボート位漕ぎさうだ。と思ふ。正に然り。ボートの選手で、オマケにお椀ボートの選

手權まで取つた事がある。先祖は一寸法師かもしれない體が大きくて、スポーツマンで、氣が強い癖に、酒は餘り呑めないし、口數も少い方だし、ムツツリ何とかだと來ては、人は見かけによらないもんである。但しヘルツは相當なもので、口數は少い方だが文句は多い。

餘技は野球。時々静岡訛りが出るのが愛嬌。今度郷へ歸つたら山葵漬持つて來て呉れ。なあいゝづら。

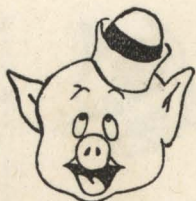
○日下部明夫君——埼玉縣。關口さんと話し方が瓜二ツ。脊の低い事は新人中隨一。日下部君が入局して碇子が喜んでると云つた奴がゐる。ホントかい。



氣の毒だが話題は矢張り身長のことになる。入局早々松浦君とパールになつて、大廊下を歩く度にプレと附添の目を驚かせた。——醫局長の物

好きもひどいもんだ。温順しくて、人が好くて、世話好きで、體の小さいクセに酒は人並以上だから驚いたものである。運動は駄目だが、世話人をやらせたら最適。

兵隊検査の折クリ／＼坊主になつて首を一侧に傾けながら醫局にゐたら、茂木先生に給仕と間違はれたと云ふ話がある。日下部君らしいゴツツ。但し眞偽の程は不明。



○松浦元君——デブさん、と云へば誰でも知つてゐる。體重二十三貫。病院の廊下を踏み抜いた奴はデブさん位のもんだらう。歩くと病棟が揺れる——程でもない。

が笑ひ聲が大きいから、何處にゐてもすぐ解る。悪い事

の出来ない男。

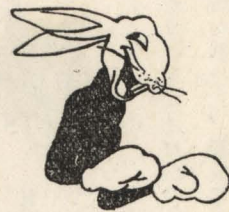
長崎の産。「これあ一番うめえんだ。こいつを喰はなきや……」とモズクを持つて来て、醫局で自慢したが、あんまり甘くなかつた。

寫真に關しては相當うるさい。バスケットの選手だつたが、コートが凹みやしないか、と誰かゞ云つてゐた。運動は何でも好き。スキー、水泳。但し駆けつこしてゐるのは餘り見ない。人の好い事無類。笑ひ上戸で、笑ふと眼が何處かへなくなつてしまふ。酒をこの男に吞ませるのは無駄だから止めた方がよい。

角力について、満州へ行つて来たが、來年の春場所から、番付へ乗るだらうと醫局で一同冗談云つて居たら歸京と同時に某年寄りが、醫局に是非私の部屋へ松浦先生を戴き度いと申込んで来た由、とはまさかね。「松ヶ浦なんて強さうな名だぜ。」

萩村君と共に、話題の多い人氣者。

○傳田俊雄君——通稱デンチャン。飄逸な事は無敵だ



骨の髄からのユーモリストであるらしい。

ボートの選手。酒は底ぬけ。吞まうか、と云へば厭だと云つた事のない男。氣の好い事また

無類だが、ファイトは體中に溢れてゐる。現在軍醫候補生で入營中。

學生時代、兄の傳田千穎君（内科）と並んでゐて、試験の度に何つちだか解らなかつた、と云ふ話がある。

未來の愛妻が決つて、毎日寫真を見てゐると冷かされた事も屢々。傳田とバラソルと云へば有名なものであつた。但し卒業するまで童貞だつたと云ふ。しかし現在は不明。

この男の物真似は實に抱腹絶倒物である。安來節が出る、流行歌が出る。浪曲は虎造が得意で、終ひには、流して來る聲色屋と掛合ひをやると云ふ賑やかさ。

向ふ見ずで、度胸がよくて、氣が好いから一名森の石

松とも云ふ。



○足助又次君——通稱マア坊。濱

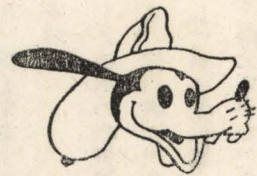
つ子で、ノツボで、傳田君と共にその顎の大ききで有名。中學時代野球部のキャプテンをしてゐたと云ふが

今秋のリーグ戦で眞先きに内科に負けちやつたから、大した事はない。運動は好きだが、先年藏王で遭難して、危く雪の中に命を落して來さうになつた話は誰でも知つてゐる。

厚かましくて、品がなくて、酒ばかり呑んでる、脊の高い、眼鏡をかけた奴と云ふと、この男が出來上る。

音楽が好きで、學生の時、ギターで商賣したり、放逐したりしてゐたが卒業後は止めてゐるらしい。濱育ちで山下町と、ホンモクは彼奴に案内させる。と云ふ位だが何うだか。——兎に角オヨソ醫者らしくない男。

○澤浦正三郎君——新人中一番皆に記憶の薄い男。と云ふのは入局早々不幸があつて一月も休んだからである



所が漸く出て來たかと思つたら、すぐ小樽へ出張してしまつた。餘り見馴れないので、彼が圖書室にゐたら『あれは何處の男だい』と聞いた先輩があつた。強度の近視で、腫れぼつたい顔はしてゐるが、頭はいつでも綺麗に撫でつけてゐる。あまり口も利かず、交際もしない。いつでも一人でぼんやりしてゐる様な感じがする男だが、ヘルツは相當に強い。酒も相當以上。

澤浦君と、白い靴は切離す事が出來ないらしい。運動はあまりやつてゐるのを見かけない。



○松本源一君——整形、産地は福島、

世話好きで、學生時代海外醫事を牛耳つていろ／＼働いた、絶好の世話人型よく云へば如才ない、悪く云へばオツ

チヨコチヨイだが、仲々思慮もあるし、勉強もするし、酒も呑むし、遊びもするし、至極交際はよい。面倒臭い

事があつたらこの男に頼めば、何でもオイ來たとやつて呉れる。だが惜しい事に、目下軍醫中尉で、松戸の砲兵學校付。

小柄で、いつも笑つてゐる。運動はやらないが、マネヂャーだの、何かの交渉をやらせれば天才のヒラメキがある。スキーは赤倉莊の御常連。



○星野正雄君——整形。一見してヌ

ーボーたる感あり、人稱して「清水の巖鐵」「三好清海入道」など、云ふ。坊主刈にして見れば成る程と合點が行く。

其のガツチリした體を見れば判る通り馬力のある事は内野君と一位を争ひ、野球、籠球は云はずもがな、果ては石搬び、ヨイトマケ等々、力仕事ならば何でも御座れとは少し何うかと思ふよ。目下軍醫候補生で入營中でさぞ中尉さんの制服が良く似合ふ事であらうと噂をされて居る。

酒は相當で宴會の翌日などとも朗らかな顔をして「昨夜は快感、オ覺えたよ」は君の得意中の得意の臺詞

である。上州館林の産であるだけに時々油断をしてはお郷訛を連發させて皆を笑はせる。即ち「酒ノオ飲むよ」「靴ノオ買ったよ」「廻診ノオ遅れた」等々である。

餘技は將棋と放屁で殊に後者は其の技神に入り意志の命するまゝに何時でも自由自在何發でもと云ふ調子だから恐れ入る。整形入局早々「屁、コキの正」と云ふ愛稱を奉られた由。



○堀越恒君——超越して居

る點と圖々しさでは誰れにも負けない。入局早々相次で不幸に直面した事は御氣の毒だったが家の整理で少し休むよ、と云つて三ヶ月休んぢやつたのは此の男だけ。何をして居たんだ、と聞いて見たら株の勉強をして來たよ、と答へたと云ふが當にならない。

特徴は所謂「ロツバ」型の頭と斗酒尙辭せずと云ふ點、獨特の口のきゝ方、何が來ても驚いた様な顔をした事が

ない神經の太さであらう。然し一方禮儀の正しい事は育ちの良さを示して遺憾ない、宜なる哉愛稱は入局早々若旦那と付けられた。又場末の小さい映画館で主役に「危いぞ！後を氣を付けろ！」だの娘さんを誘拐する悪漢に「助平野郎奴！良い加減にせい！」など、鐵火巻きと麥酒で盛りあげたエネルギーを惜しみなく發散させて神氣爽快を覺へる癖がある由、試みに大都キネマ、極東キネマ、全勝キネマなど、云ふ普通の映畫ファンには全く通用しない様な會社まで心得えて居る。尙同君が長谷川一夫の猛烈のファンである事は意外中の意外とする事であらう



○高橋哲二君——解剖學教

室より整形へ入局した十三回生。初めの一週間程は海のものとも山のものとも判らなかつたが間もなく鋭峯を現して今では其の辯舌に酒に先輩大豪も呆氣にとられて居る形、然し悪氣は微塵もなく仕事に關して熱心に自ら率先して難業に突進して行く所流

石解剖で苦勞をして來たゞけあると思はせられる。

山椒は小粒でもピリ、と辛い、と云つた感じだと云へば大男ではない事が判ると思ふ。でも鼻下に貯へた美髯は堂々たるもので短軀ながらも犯し難い威嚴を示して居る。餘技中の逸品は蜻蛉を一寸火に焙つてムシャ／＼と喰ふ事であるが、此奴ばかりは醫局の誰れもが眞似る事の出來ない恐る可き大業である。彼氏の得意の臺詞を貸りて申せば彼は仲々並大抵の事にはベソツ！としない男である。



○中井慎一君——滿洲醫科大學

を昭和五年に卒業して松井外科教室に勤務を續け現在二年間の豫定でこちらの外科整形外科の見學に來られ、整形の助手になられた方である。松井外科の助手筆頭、永年外科で勞苦したゞけに外科方面の腕は確かなもの何時もニコ／＼して居るが度の強そうな眼鏡の奥に光る兩眼は謹嚴そのものゝ様で當分の間は冗談も云



へない様な氣もする。酒は餘り強くもないらしく整形の教室では尻から數へた方が早そうである。

特技は残念ながら現在の所不明、中肉中背（但し外科整形外科醫局では一寸無理かも知れない）で色は稍々淺

黒く面長の部類か。残念な事には奥様があるが子供さんは無い。相當の寒がり家で滿洲より東京の方が寒いですよ、と云ひながら何時もスチームの傍に貼り付く様にして居る。



## 富士救護日誌抄

本年も山梨縣の依囑により吉田口五合目八合目へ十名、静岡縣の依囑により大宮口八合目へ二名登山者救護に出ました。例年の様に座談會をいたしませんでしたので各人の日誌を參照して、その大略をお知らせします。

### 吉田口救護

#### 一、茂木英一君

先陣を承つて愛妻心づくしの野菜（茄子胡瓜唐辛子等）

罐詰その他の食料品をつめた十貫目もあるリツクサツクを背負つて勇躍出かけた。シーズン早々で此の頃の救護は閑らしく頂上を極めること數度、富士の美を心憎いほどに體驗して一皮むいて猿の様に赤い顔をして歸つた。

## 二、足助次部君

番傘にリツクサツク、ニッカーをはいて救護所の先生となるべく出で立つ。アルビニストはアルビニストラしい感覚をもつて富士を愉んでゐる。此の頃からシーズンに入り八合目救護は一日三十人にも達し多忙を極めたが然し何れもアンナカ、胃散の類である。八合目より五合目への歸途屏風岩の落石に遭ふ。本シーズン唯一のスリルであらう。

## 三、傳田俊男君

内科にゐる兄貴と、弟と三人仲よく救護に。晝は龜の如く甲をほして紫外線を吸収し、勉強し、夜は巡査と共にアタピンを飲んでねる、患者は極めて多數、女學生は雲集するも子供ばかりとなげく。ねる暇もない様な忙しさである健脚にまかせて富士の美を満喫す。

## 四、日下部明夫君

吉田口から五合目迄馬に乗る。曳くは女の馬子、登山客からは義憤を感じられて「馬で登る位ならやめちまへ」

とどなられた。八合目は團體客多く、女學生は脆い、一人が泣き出すと近くの數人が一ぺんに泣き出してお醫者までベソを書く。

六合目に胃痙攣の患者ありベピナール一筒注射すると呼吸がなくなり脈膊微小となり人工呼吸三時間半徹宵看護して東の白む頃やうやく助かる。此の時位責任の重大を感じたことはなかつた醫局は温室の如く住みよい。

## 五、依田亘正君

暴風雨の中を五合目へ二日も豪雨の中を救護所で無聊をかこつ。和光の人達の親切が沁々と身にしみたらしい八合目滞在中閑院宮若宮殿下同妃殿下の御登山を頂上に迎へ奉る。

頭部挫傷の重症患者を手ぎわよく捌く。

## 六、道舩祐二郎君

富士は雨が多い、交代は依田君同様雨に崇られる。

御來光の美しさ、雄大なる眺望を心ゆくまで楽しんでゐる頭部挫傷の一人、手當の暇もなく、また一人骨膜に

達する頭部大挫傷に大活躍、午後は再び頂上の上つて富士の崇厳さに打たれる。

五合目の繊細な美しさに心惹かれて附近を散策す。

### 七、津留慶之君

交代と雨とはきつても切れない関係があるのかひどい雨を浸して五合目に行く。小御嶽御庭に屢々杖を引き、人工美の及び難い自然美に讚美の辭を惜しまない。雨のを八合目に。こゝは救護者なく、風雨の中に過す。

### 八、日下部明夫君(第二次)

川上君に代つて二度目の富士登山。ヒツトラユーゲントの一行に遭ふ、槍傘にゴザ金剛杖の盟友獨逸青年のスクスクと伸びた肢體に垂涎おく能はず。

此の前の登山に比して自然は著しい變り方をしてゐる大自然の懷に抱かれて五合目五日の生活は楽しい。

虫様突起炎患者は早速ムンテラも鮮に下山させ、砂走りの挫傷は然るべく處置して歸すほか、救護は至極のんびりとしてゐる。

豪雨の中を八合目に行き暴風雨に暴れ狂ふ救護所で一睡もせず翌朝ぬれ鼠となりソウコウとして下山する。

### 九、川上弘君

番傘をさして上る同君二度目の富士。

氣候が悪い、八月末ともなれば富士は一時に寂寞が訪れる、小説を読み、樂書を眺め救護所の閑散に惱まされる、來る日も來る日も雨ばかり、よくも降る雨である。救護者は前後を通じて一人もなし松茸飯の走りを喰ふ。

### 一〇、細川忠君

有名な大暴風雨は關東一帯を強襲し心臓の凍る様な目にあつてもかく汽車は淺川で停つて一夜を明す。

翌朝は暴風雨の後の静けさ、富士はあでやかな姿を紺青の中に露はす、救護は五合目のみ、雨に明け雨に暮るゝ救護である、和光茶屋で爐をかこんでの雑談と附近の散策に暮す。

同門國手振扶岳

中秋既望終役下

麗峯尙燦聳雲裏

恨我才不能果其責

## 大宮口救護

### 一、内野一男君

食料品を一週間分つめこんで八合目に直行する、山小屋の一部を救護所に充てゝゐるので登山者の多い季節は救護所も登山客に侵略される。そして雑魚寝の辛き目を見る、サービスは吉田口より遙によい。

重症患者を助けて神の如くに有り難がられたのはいゝくじを引いたものである。

下りは足駄をはいて一氣に下山する。

### 二、川上弘君

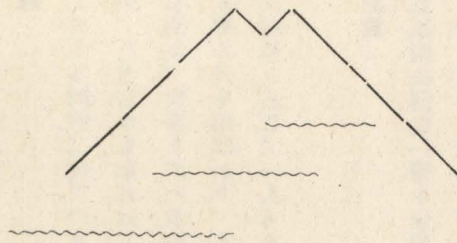
大宮口救護を依田君吉田口救護の頃に出掛ける。

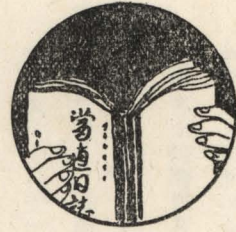
閑院宮若宮殿下同妃殿下の御登山を御迎へ奉り、然も拜謁を仰せつけられたと言ふ幸運者、その上持参の羊羹

は辱くも殿下に献上したと言ふのである。

救護者も相当あり充實した救護ぶりを示す。

(文責在日下部)





當直日誌より

八月三十一日 颱風本土を襲ふ。大樹折れ、人飛ぶ。

翌日整形廻診遅延との御達し。

九月一日 關東大震災十五周年記念日。警局午前

十一時五十分を期し黙禱後握り飯を食す。

九月二日 高木宗吉、片柳常作兩君逝去す。謹ん

で哀悼の意を表す。

九月六日 整形義肢室見習小僧君アツペの手術臺

上で大暴れ。「痛い〜」から始まつて「血が減つ

た」でお終ひ。

九月八日 合原義泰君應召。第一陸軍病院へ。

九月十二日 防空演習第一日。加藤警備班長、團服

凛々しくステツキ突いて御巡視。前田副班長もそろ

〜と別に御巡廻。夜は「お握り」で満腹。

九月十三日 病室大荒れで當直氏神莖(ドコノ「ク

キ」ダカネ)衰弱になりそうだ。

九月十七日 祝古山君第二世、安齋君第二世誕生。

祝武藤君講師昇格。幸樂で十二時過ぎ迄の御祝ひ。

七月七日 芦溝橋事件勃發一週年記念日。正午の

黙禱、有志靖國神社參拜、日ノ丸おむすび、陸軍省

へ獻納等。

七月八日 祝笹島君男子誕生。

七月十六日 中山君來局、前日第二世を得らると。

祝爲パパ。

七月二十日 今井君送別會、木村知孝、八木兩君歡

迎會。

八月八日 財團法人啓明會より茂木教授の「虫様

突起炎の研究」に對し補助金交附決定の發表あり。

八月十日 日ソ間風雲急なり。やつつけろ、赤露

九月十九日

瀬尾大入、臍の下に林芙美子を置いて莞爾たる健在の上海寫眞を當直日誌に掲げらる。

九月二十日

橋本文吾君外科醫局第四十八人目の應召。

九月二十二日

對内科野球戰惜敗にて醫局に人聲稀なり。本年度丙種合格者のひがみ「ひがむでないぞと丙種反り返り」(堀越、津留、日下部三君連作)

九月二十八日

成内頼三郎君滿洲より來訪。昔日とお變りありませぬ。

十月一日

ゴンちゃん入局する、權ちゃんではない。但し醫局中癡猛さ及ぶものなし。

十月二日

祝任軍醫中尉。岩原寅猪、照井侃、志田元秀、小口宇一君。

十月五日

祝應召 奥山俊夫君、青森歩兵第五聯隊。此の晩午前二時半神經科患者に外科、内科のお醫者さん總動員さる。外科當直氏病室も聞かずに飛び出して寢巻にシユルツエを引つかけたまゝ特等ま

で連れ行かれ、今更歸れもせず其のまゝ診察、ヘル

ツと腕前を示す。

十月八日

川上、傳田、導躰、星野四短現軍醫壯行會。

十月十四日

合原義泰君征途に就く。

十月十五日

氷雨降る。寒くてたまらないが「着る物が無い」「喰へば良い考でも出るだらう」と蕎麥を注入する。當直氏淋し。

十月十九日

靖國神社臨時大祭。護國の英靈に默禱を捧ぐ。

十月二十一日

瀬尾班長歸り來局。珍談、佳話と御土産澤山。廣東陷落。皇軍常に神速。

十月二十五日

大本營陸海軍部午後九時發表「本日午後四時卅分陸海軍共力シテ漢口一角ニ突入セリ」渡邊治生君論文通過祝賀、瀬尾君歡迎會を兼ね辛樂でケイオウ酒を酌む。漢口景氣も加つて、若手は偉い張切り。

十月二十六日 ラヂオニュース。同仁會の現地報告は

……神田學士會館に於て……慶應瀨尾教授の……報告講演あり。

十月二十七日 武漢三鎮陥つ!! 大本營陸海軍部發表

「我軍は本廿七日午後五時卅分、陸海協力殘敵を掃蕩し武漢三鎮を完全に攻略せり」輸血日に三回、廻診、手術と馳けずり廻る倭少の目下部學士、すり減つて消えさう。

十月二十八日 瀨尾君の坊ちゃん陳舊性陰囊水腫で手術を受けらる。慶早一回戦七A對五にて惜敗す。霸權の夢いづこ。

十月三十一日 瀨尾君上海へ東京驛より再出發。見送り多數。慶早二回戦延長十三回に及び三對二にて再惜敗。

十一月五日 工藤君、元氣の顔を醫局に現はす。此

んなの知つてますか。寝損、六刺尼、這人、頑爺等(ネルソン、ムツソリーニ、ハイル、ヒツトラー、

ガンジー)。

十一月八日 抄讀會。

十一月十二日 圖書館裏の運動場開きの運動會。A組

醫局リレー外科優勝、A組醫局籠球優勝、幸樂佛間、で祝勝會。

十一月十四日 祝小方、大内兩君論文教授會通過。

十一月十七日 西平君、勇躍戰地へ出發。

十一月十九日 山本順君醫局に現る。

十一月二十日 祝任官、軍醫少尉。伊藤原、小紫清定

君。甲子園の慶早戦野球7對4で快勝。

十一月廿二日 秦先生御逝去。行年六六歳。謹悼す。

吉野君整形見學に來る

十一月廿五日 夕方明日

より始まる防空演習に對する病棟避難演習あり。「モンベ姿」のブレさんが迅速に動き、本



館から別館正面地下までレコード二分半。

十一月廿六日 本格的防空演習。醫局總員無料の食券

(豚汁と漬物)をもらひ、頑張る。夜、部長より壽司の御馳走あり。現金なものでゴマ鹽付の配給握り飯は冷えるばかり。武藤總務とうく無理往生で泊らせられて尻に火の付いた様な活躍目覺し。誰れだ漫畫のアヒル君だ、など云ふのは。

十一月廿七日 防空演習第二日。外科は部長が救護班

長を、木村教授が副長を、前田教授が警備班副長を擔當さる。百溪醫局長惟惟にあつて秘策を練り、各處を巡廻偵察す。今日は早朝より殺氣立つ。病棟避難、負傷者救護と、我が救護班の活動花々しく、遂には、病棟中に本部の命令、我が救護班より出づるが如く解するものあり。慶應防火班移動班三名、街の焼夷彈を消して町の「アンチャン」になぐられ本物を救護す。

十一月廿八日 依田、内野兩君壯行會。吉野、中井(滿

大より整形へ)、高橋君歡迎會。尙防空演習にて、夜餘り大きな火は燃せず、防火班は手持ち無沙汰で一人減り二人減り、遂には皆消える。流石は防火班、己の身體を消すのも上手だ。従つて、編輯子も其れに習ひ今日でボーカリます。





同  
窓  
會  
々  
員  
名  
簿

# 同窓會々員名簿

(昭和十三年十一月末日現在)

入局順

○印ハ在局者  
休印ハ休職者

氏名 住所

自宅電話及勤務先

茂木藏之助 四谷區東信濃町二八 電四谷四五六八  
 犬養六郎 四谷區三光町五四 電四谷六二一六  
 成松清敏 福岡縣嘉穂郡桂川村 平山鑛山病院  
 柳壯一 札幌市北四條西十五丁目一 電二二三二二  
 大庭國紀 神奈川縣鎌倉材木座 電院用六七三  
 宅用一三七〇  
 中村復一郎 中野區沼袋南二ノ一六〇 新宿萬朝診療所  
 梅村六郎 大森區田園調布 電田園調布二七七五  
 三ノ八〇 横濱大雄山病院  
 木村博 麻布區筈町八〇 電赤坂三九二五  
 高桑武夫 新潟縣柏崎町本町六丁目  
 柴沼薰 水戸市鷹匠町六九一 水戸常盤病院  
 戸田四郎平 神奈川縣小田原萬年町 電小田原二四〇  
 四ノ五六二  
 森信彦 昭和十三年九月死亡  
 阿部貞治 川崎市貝塚一一二  
 片柳常作 昭和十三年八月死亡

山田甫一 昭和五年十一月死亡  
 稻葉俊雄 茨城縣結城郡結城町一四一六  
 大槻正路 蒲田區仲蒲田三ノ十一 電蒲田三一三一  
 町田謙二 芝區白金三光町二六九 電高輪六七三三  
 赤松常信 桐生市永樂町市役所脇 電三六五五  
 高木宗吉 昭和十三年九月死亡  
 中村武重 長野縣富士見高原療養所  
 鎌田竹次郎 フラジル、サンパウロ市 日本病院  
 Prof. Dr. T. Kamada, a/c Consulado-  
 geral du Japão, avenida Brigadeiro  
 Luiz Antonio 487, São Paulo, Brasil.  
 (Via New York)  
 昭和十年四月死亡  
 山田晟 昭和十年四月死亡  
 山本順 小樽市小樽病院  
 本郷光美 京都市東山區山科竹鼻  
 關市衛 杉並區和泉町三四一 電松澤二一七五  
 今井金治 群馬縣伊勢崎町住吉町  
 新田龜三 深川區木場三丁目八

上石英造 宮城縣牡鹿郡石卷町新田町三九  
 澤江六太郎 栃木縣栃木市萬町二丁目  
 篠原靜夫 杉並區阿佐ヶ谷四丁目九電荻窪二〇八九  
 牛久昇治 大連市楓町九〇 聖愛病院  
 佐藤太平 靜岡市西草深町二五  
 林利治 杉並區松庵北町一四〇 電荻窪五一八  
 大曾根幾次郎 茨城縣港町六丁目  
 神山敏雄 滿洲國興城溫泉ホテル 興城滿鐵醫院  
 高橋哲太郎 昭和五年三月死亡  
 中村勝之助 樺太真岡南濱町  
 近藤宗彦 澁谷區代々木深町一六六七  
 三橋弘 樺太大泊榮町中通廿八 三橋病院  
 木村守江 福島縣石城郡四倉本町  
 濱野碩太郎 上海派遣兩角部隊山口憲(隊本部(入隊中))  
 福井縣遠敷郡小濱村住吉  
 豐田秀穂 昭和十一年七月死亡  
 渡邊治生 足利市本城町 中島飛行機  
 二丁目一八五七 太田病院  
 神野澄晴 大分縣北海部郡小佐井村

吉崎純 富山縣高岡市旅籠町  
 竹下貫一 熊本市大江町本一二三  
 上海松井部隊宮城部隊荒木隊 (入隊中)  
 高巢三四一 福岡縣山門郡瀬高町大竹 矢部川病院  
 駒井忠雄 品川區五反田三丁目七〇  
 四條龍作 八王子市八日町三一  
 中支派遣內山部隊丸山部隊本部(入隊中)  
 後藤昇 山形縣大石田町  
 原廣治 目黒區駒場町七九七  
 電青山五二八〇  
 橫濱濟生會病院  
 佐藤維秀 大森區省線大森驛前  
 電荻窪三三五四  
 中島飛行機病院  
 橫山虎雄 杉並區清水町二一〇  
 靜岡市大岩宮下町一一七 靜岡日赤病院  
 川田正雄 山口縣大津郡人丸  
 吉野史朗 兵庫縣西宮市川西町三四  
 中村次郎 病院 中一丁目三〇  
 電北五〇六七  
 桑野鐵四郎 北海道釧路市 北海道博濟病院  
 富士見町四三  
 槍田榮 足利市伊勢町  
 岩原寅猪 香川縣善通寺町乃木町山砲通  
 善通寺陸軍病院  
 善通寺臨時第一分院 (入隊中)  
 森文雄 四谷區須賀町四二 電四谷三一三六  
 東京電燈病院

松井 八郎 大津市松本梅林町八九四ノ一  
 河内野 弘徳 世田ヶ谷區上馬町三ノ八九一  
 高橋 福三郎 昭和十二年六月死亡  
 藤原 道純 赤坂區新町三丁目一九山王園  
 古川 明 麻布橋新網町一ノ五五  
 東京第三陸軍病院  
 松橋 一 長野縣上諏訪町湖柳町一〇四五  
 君塚 正 山形縣小松町 小松町立病院  
 鍋島 勉 甲府市愛宕町二〇一  
 前田 和三郎 麻布區本村町二二五 電三田八一三  
 村上 晋 日本橋區小舟町 二丁目二番地ノ四 電茅場町五〇八〇  
 關口 林五郎 前橋市北曲輪町  
 井上 太郎 高崎市嘉多町綿貫病院  
 吉岡 勝衛 杉並區天沼二丁目五一〇  
 中村 廣人 世田ヶ谷區下代田町八八  
 八木 勝郎 橫濱市鶴見區鶴見町二五四 藤野方  
 小口 宇一 北支派遣香月部隊武藤部隊本部(入隊中)  
 弓削 中 中支派遣松浦部隊後藤部隊 (入隊中)

土方 久顯 目黒區宮前町一七〇五 橫濱警友病院  
 百溪 定七郎 世田ヶ谷區代田二丁目六八二  
 瀬尾 省三 澁谷區千駄ヶ谷四ノ六二二  
 小野田 肇 茨城縣古河町雷電 佐世保局經由 第二海軍郵便所 (入隊中)  
 第三派出所氣付海軍第一病院  
 加藤 銀次郎 城東區北砂町三ノ三一九  
 志田 元秀 北支派遣谷口部隊神谷部隊 (入隊中)  
 森下 貫一 靜岡縣濱松市森下病院  
 橋本文吾 埼玉縣川越市小仙波一一一一 國府臺陸軍病院 (入隊中)  
 伊藤 由比 昭和八年十二月死亡  
 蓮江 英男 世田ヶ谷區代田一丁目六五二ノ五  
 堀田 善次郎 淺草區藏前三丁目一〇ノ一八  
 富田 勝郎 北海道空知郡砂川町上砂川 三井砂川 鑛業所醫院  
 小方 則太郎 新潟縣小千谷  
 小澤 武雄 牛込區若松町五八 北支派遣山岡兵團 緒方部隊永井隊 (入隊中)  
 田村 信介 清水市村松二〇七三  
 田中 周吉 吳海軍病院 (入隊中)

辻 岡 元 淺草區田中町二ノ一〇 上海佐々木部隊辻岡隊 (入隊中)

○武藤藤太郎 世田々谷區代田一丁目六五二ノ三

布留 文 夫 滋賀縣甲賀郡寺在村深川市場

寺田 泰 三 神戶市須磨區 磯馴町五ノ廿四 兵庫縣廳衛生課

相見 三 郎 靜岡縣田方郡土肥村 土肥慶應堂病院

酒 井 欣 朗 芝區高輪南町二八

森 豐 明 北遊道俱知安町南一條東一丁目

細 江 靜 男 フラツル、サンペッロ市 Caixa Postal 2976, Sao Paulo, Brasil. (Via, New York)

濱 名 元 中 茨城縣日立鑽山本山 掛橋役宅三〇ノ一 日立鑽山本山病院

○若 林 研 爾 杉並區馬橋二丁目一二三

神 山 雅 臣 大森區新井宿四丁目九九一

成 内 穎 三 郎 滿洲國開原滿鐵醫院

森 山 成 一 群馬縣邑樂郡館山町 組合病院

栗 本 勝 之 進 江蘇省南通市鐘紡南通醫大病院

○笹 島 彥 次 郎 品川區大井金子町五八三〇

笹 島 田 信 勝 芝區赤羽橋濟生會役宅

明 樂 治 部 輔 和歌山市駿河町 明樂佐一郎方 (入隊中)

照 井 侃 大阪陸軍臨時病院 上海深谷部隊 (入隊中)

○井 手 行 平 赤坂區新町四丁目一八

伊 藤 國 男 長野縣富士見高原療養所

板 橋 剛 濱松市高林八〇 日赤濱松診療所

島 中 卓 助 滿洲國撫順北臺町二ノ四ノ八

○門 橋 勇 北支派遣安藤部隊山田規部隊 (入隊中)

龍 野 一 男 橫濱市中區宮川町三ノ七三 黑澤醫院

中 村 寬 滿洲國新京安藤部隊本部軍醫部

○野 崎 寬 三 目黒區洗足一四七三ノ四

古 山 實 中野區本町通三ノ三六

○小 平 正 淀橋區西大久保三ノ一六三

齋 藤 脩 二 澁谷區永住町一五 電青山五五〇八

宮 尾 啓 滿洲國鞍山滿鐵醫院

○伊 藤 原 中野區大和町八四 東京臨時第三陸軍病院 (入隊中)

萩 尾 又 八 昭和十二年十二月死亡

大 岡 保 司 市川市川外二〇七七 千葉縣國府臺陸軍病院 (入隊中)

大塚 廣 府下三鷹村下連雀八八 康樂病院  
 釜江省司 兵庫縣加古郡加古川町  
 高橋真雄 荒川區日暮里渡邊町一〇五五  
 中野宗夫 北支派遣梅津部隊氣付  
 長谷川(逸)部隊岡本隊 (入隊中)  
 長坂謙三 水戸市外村松崎嵐莊  
 山口恒造 大森區雪ヶ谷町三九八  
 重盛福七郎 岡山市大供表町二九二 國只方  
 木村知孝 麻布區筭町八〇  
 渡邊敬 栃木縣今市町 今市病院  
 佐藤憲一 滿洲國哈爾濱賓馬家溝永安街十二號  
 山田迪 濱松市元城町一 電二九八  
 今井秀雄 仙臺陸軍病院 (入隊中)  
 大内正夫 北支派遣桑原部隊  
 青村部隊津島部隊 (入隊中)  
 渡 隼 赤坂區青山南町六ノ一四七白井敏方  
 菅 千里 盛岡市加賀野春木場二二  
 竹 内 實 府下北多摩郡立川町二五四一  
 上海茨洲部隊小野部隊 (入隊中)  
 鶴澤敏三 市川市大字市川九〇一

葛原信一 奉天市淀町八 興信ビルアパート二二號  
 山田庸夫 足利市家富町二二〇六 中島飛行機病院  
 小島茂 南支派遣藤井部隊原隊付 (入隊中)  
 佐藤壽郎 中支派遣東部隊氣付  
 有本部隊本部 (入隊中)  
 小泉次郎 牛込區新小川町 江戸川アパート八五號  
 久崎章 愛知縣一ノ宮市新柳町三三 厚生病院  
 岩崎一平 福岡縣嘉穗郡稻築村三井山野鑛業所病院  
 蓮江信行 上海佐々木部隊 (入隊中)  
 尾村偉久 大阪府北河内郡香里一一三一  
 大木猪四郎 北支遠藤部隊北京野戰局  
 渡邊仁七郎 本郷區元町二ノ二七望雲館  
 渡邊昇 佐世保局氣付木更津航空隊派遣(入隊中)  
 中山一郎 濱松市外北濱村貴布禰 日清紡織社宅  
 名倉厚 四谷區須賀町三八 電四谷三六〇八  
 小林忠 北支派遣梅津部隊三宅惣部隊 (入隊中)  
 小林不二夫 中支派遣茨洲部隊  
 新村部隊移川隊 (入隊中)  
 小坂慶一 小樽市住ノ江町九ノ七 小樽病院

○赤倉一郎 北支派遣草場部隊氣付  
高崎部隊水間隊 (入隊中)

木本多喜雄 大阪府北河内郡香里一三一

○河田清士 市外吉祥寺四六七

今井光 新潟縣新津町全療院

稻葉玉六 佐世保局氣付第四艦隊小池部隊

○林克己 上海今野部隊

○西平賀健 四谷區南寺町二三  
桑原部隊北山部隊 (入隊中)

○富田忠良 錦州陸軍病院附 (入隊中)

○小田滿 豊橋陸軍教導學校 (入隊中)

加納保之 水戸市外村松晴風莊

辻岡浩 滿洲國錦州滿鐵醫院

○休名和精 南支派遣柳川兵團  
高澤健部隊本部 (入隊中)

○休工藤達三 杉並區高圓寺四ノ五五〇  
步三留守隊 (入隊中)

○休松浦勇四郎 滿洲國黑河省孫吳陸軍病院

○休松丸忍 北支派遣梅津部隊氣付  
武藤卓部隊 (入隊中)

○小柴清定 目黒區下目黒三ノ六五六  
東京臨時第三陸軍病院 (入隊中)

○安齋直 埼玉縣入間川町三五三三

菊池龍介 澁谷區代官山アパート四七

關口政三 一ノ宮市新柳町三三 厚生病院

○左奈田幸夫 上海派遣伊東部隊  
布施部隊尾家隊本部 (入隊中)

○石川七郎 目黒區上目黒三ノ一七七六

郭在禧 釜山府草深町三二六

○森田正朗 豊島區駒込一ノ一三〇

○西新助 世田ヶ谷區赤堤町二ノ五八七

○遠山一郎 岩手縣氣仙郡横田村 (入隊中)

○休大沼良雄 澁谷區長谷部町七 平塚方 (入隊中)

○休山俊夫 滿洲國牡丹江省綏陽  
前田部隊渡邊部隊 (入隊中)

○休渡邊重男 中支派遣末松部隊野口部隊本部 (入隊中)

○休田邊重信 川崎市淺田町一ノ二八 (入隊中)

○休中島三次 目黒區柿ノ木坂七三二 吉田方 (入隊中)

○休長屋信美 四谷區左門町四二  
近歩一 (入隊中)

○植草實 板橋區練馬土支田町一ノ五三六

○久保秀夫 城東區龜戸町三ノ八四

○櫛田敏也 橫濱市鶴見區生麥四六 西山方

休軍 地良亮

茨城縣石下町

山田 二郎

本郷區湯島天神町三ノ二三  
近歩三

高和 壽次

杉並區高圓寺七ノ八九三 後樂莊内

合原 義泰

南支派遣杉本部隊  
飯島部隊服部部隊

(入隊中)

許添 旺

岩手縣黑澤尻町

濟生會病院

木村 將義

杉並區天沼二ノ四六五

休城 俊輔

三重縣石谷部隊堀尾部隊本隊

(入隊中)

休權 守英夫

廣島陸軍病院

(入隊中)

玉村 一夫

澁谷區千駄ヶ谷四ノ六一七

千倉 義雄

靜岡市日赤病院

茂木 英一

市川市八幡町一九八〇

根本 一郎

豊島區目白町三ノ三五三九

休萩 村恒雄

盛岡陸軍病院

(入隊中)

堀越 恒

下谷區上野櫻木町四五 岡田方

細川 忠

中野區櫻山町四五 銀杏莊内

休星 野正雄

下谷區谷中初音町四ノ一八 (短現入隊中)

休道 舩祐二郎

神奈川縣鎌倉町  
名越一二四五

(短現入隊中)

休川 上弘

芝區高輪北町四八

(短現入隊中)

休依 田亘正

目黒區三谷町四六

齋藤方 (入隊中)

津留 慶之

品川區大井原町五三七七 吉田方

内野 一男

四谷區須賀町二七 柏木方

日下部 明夫

板橋區小竹町二四一二 新田方

松浦 元

赤坂區青山南町五ノ五一

休松 本源一

赤坂區榎町石本部隊淺沼隊 (短現入隊中)

休傳 田俊男

小石川區宮下町五三

(短現入隊中)

足助 又次

橫濱市神奈川區幸ヶ谷町三

澤浦 正三郎

小樽市量徳町

小樽病院

高橋 哲二

板橋區板橋町六ノ八四八

中井 慎一

四谷區舟町六七 富久和莊内



## 編輯後記

戦地の會員諸兄より戴いた御通信の一部を本誌に掲載しました。出来るだけ全部の方のを載せる様努力したつもりであります。中に洩れた方があるかも知れませぬ。御寛容を願ふ次第であります。

出来上つた本誌を見ますと實に不満の點が多々ある様に思はれます。到らざるは皆小生の罪であり、若し一部にでも見直せる點があつたとしますれば、小泉兄其他四君の御努力の結果であります。

最後に應召會員諸兄の武運長久を祈り、今後の御奮闘を願ひ上げます。(山口記)

茂木先生の御許しを得まして、應召諸先輩諸兄から戴いた御便りを掲載する事が出来ました事と、其他各地の先輩諸兄竝に在局諸兄から澤山の御熱心な御投稿を戴きまして、今年の刀林は戦地に御奮闘下さる皆様の慰問號と云つた形で新機軸をと目論みましたが、矢張り平凡の一語に盡くるものになつてしまひました。

然し何等御眼新しい個所は發見されぬとしても、聊かなりとも刀林の體面を保ち得たと致しましたならば總指揮山口君を始めとして木村(知)、西、高橋、堀越等の諸君の並々な御努力に據るものであり、只拱手傍觀した小生は甚だ汗顔の至りに思ふ次第であります。

應召會員諸兄の御健闘と其他各地會員諸兄の御健康を御祈り致します。(小泉記)

昭和十三年十二月十八日印刷  
昭和十三年十二月二十日發行

非賣品

東京市四谷區西信濃町廿二番地

慶應義塾大學醫學部  
外科整形外科教室同窓會

編輯者 小山 泉 次 恒 造

印刷人 東京市京橋區入船町二丁目一番地

高 橋 與 作

東京市京橋區入船町二丁目一番地

印刷所 正進社印刷所

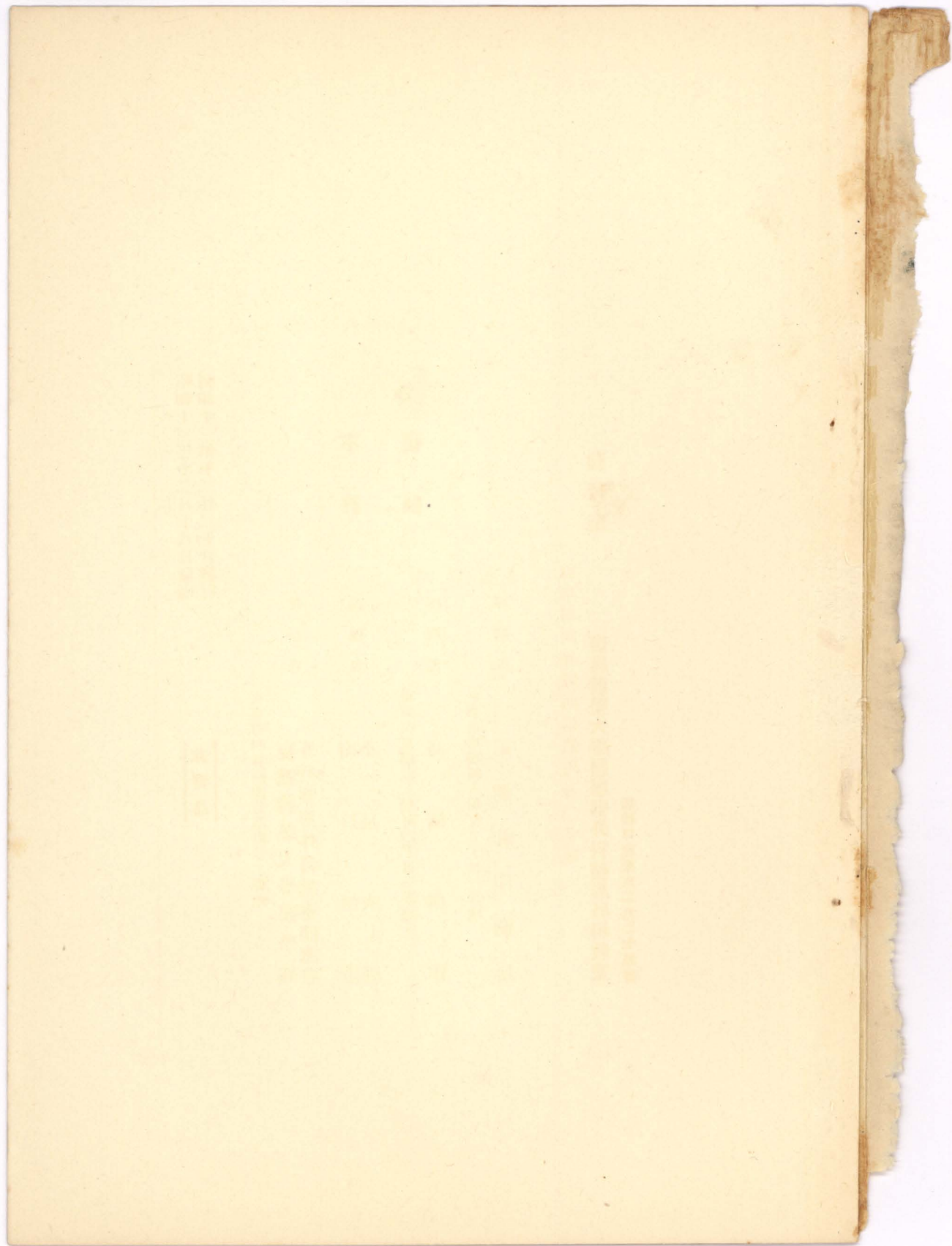
東京市四谷區西信濃町廿二番地

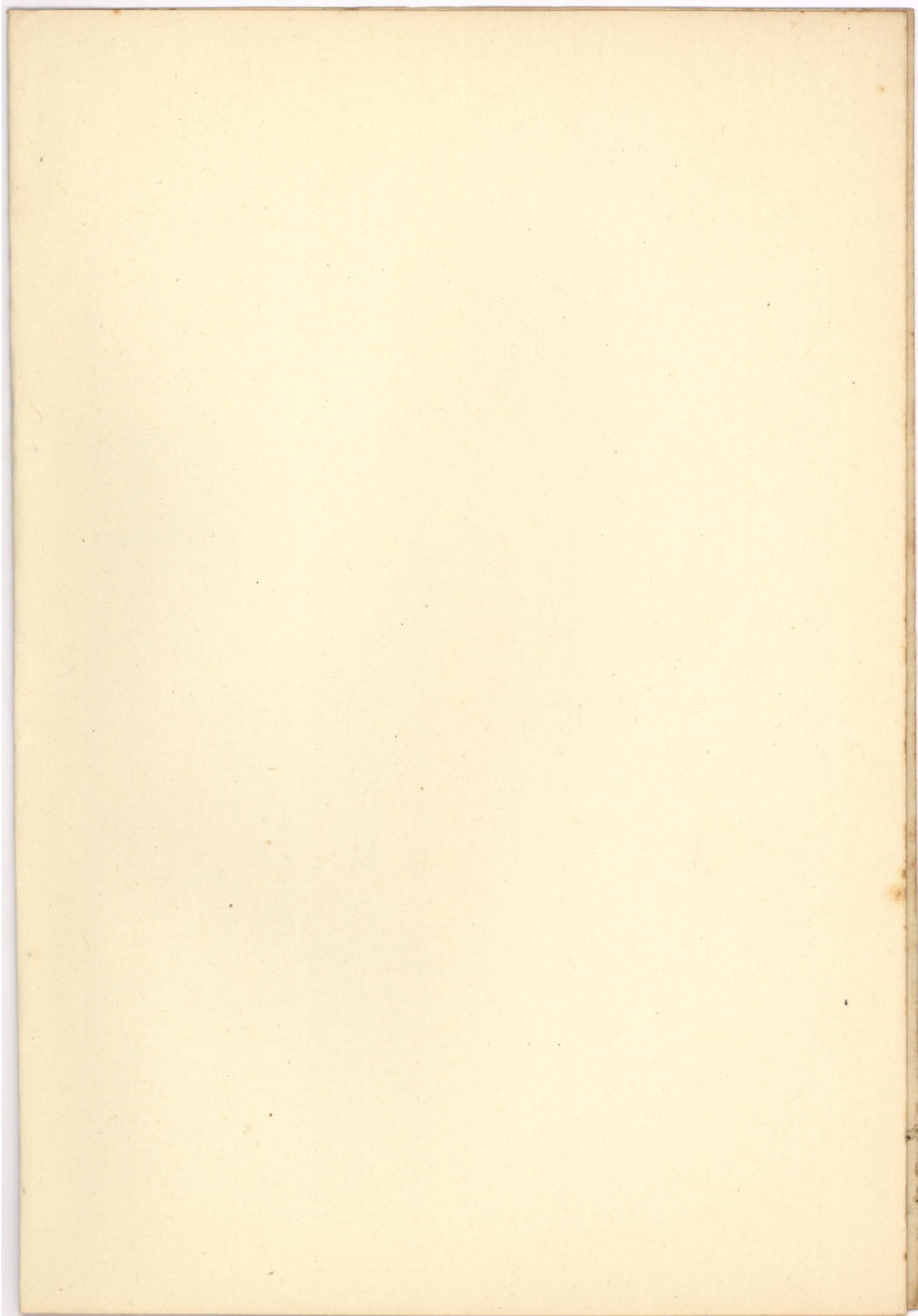
發行所

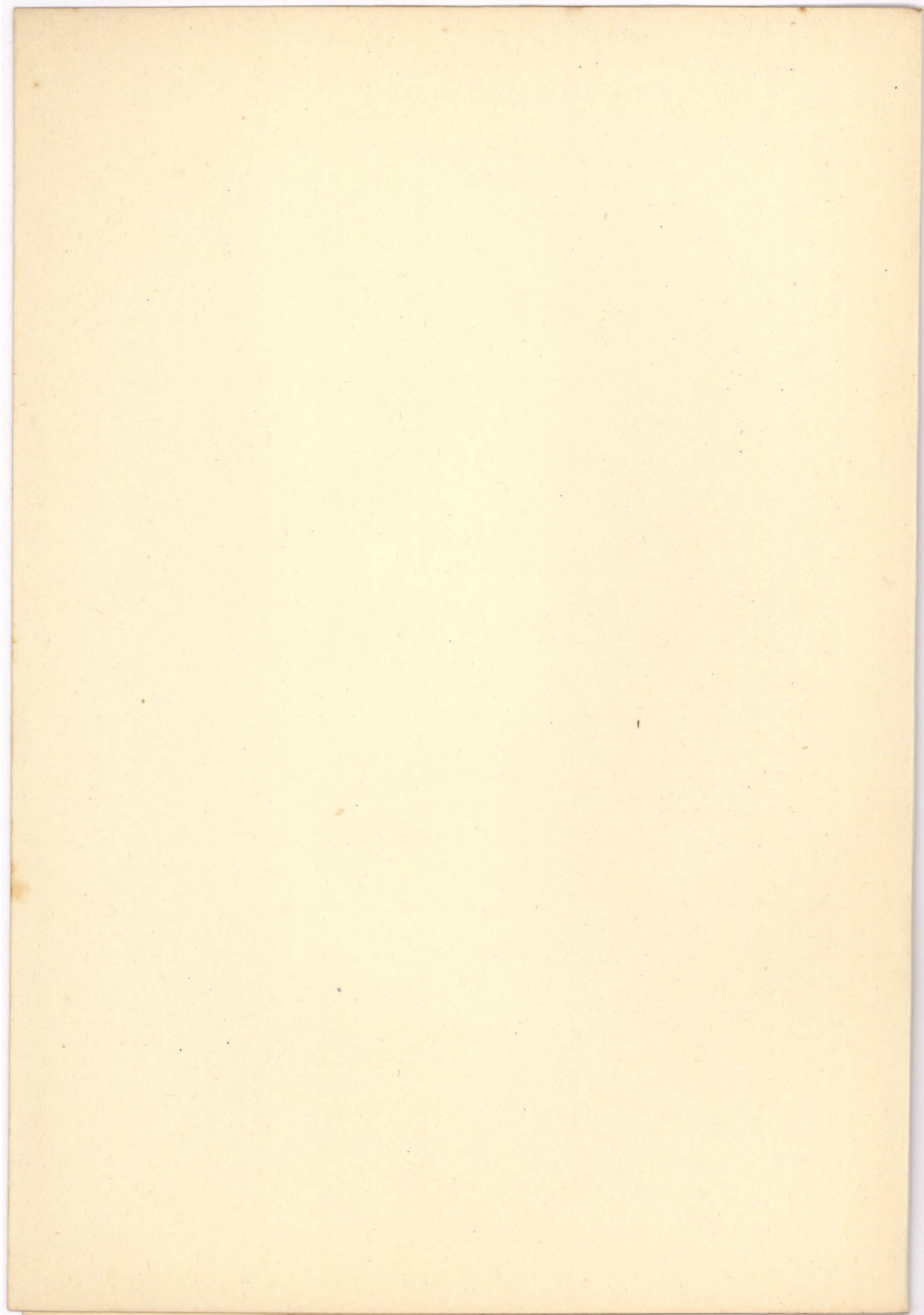
慶應義塾大學醫學部外科整形外科教室

振替口座東京二九二七五番

不 許  
☆  
復 製







報國活人劍川

